

豊島区地域保健福祉計画改定のための
区民意識・意向調査
報告書

令和5年3月

豊島区

目次

第1章 調査の概要	1
1 調査の目的	3
2 調査の種類	3
3 調査方法と回収状況	3
4 調査項目	4
5 調査結果を見る上での注意事項	5
第2章 調査結果の詳細	7
1 調査結果から推察される区の現状と課題	9
(1) 調査結果から見られる区の状況	9
(2) 課題	9
2 基本属性	10
(1) 自認する性	10
(2) 年代	10
(3) 家族構成	11
(4) 年代×家族構成	11
(5) 居住地域	12
(6) 居住年数	12
(7) 住居の種類	13
(8) 世帯年収	13
3 暮らしの状況	14
■結果の概要	14
■調査結果から見受けられる課題について	14
(1) 育児や介護	15
(2) 仕事	18
(3) 離職理由	19
(4) 就労意欲	20
(5) ひきこもり状態にある方	21
(6) ひきこもり状態にある（あった）方で受けたい（受けたかった）サービス	24
(7) ひきこもり状態で受けている（受けていた）サービス	25
(8) 新型コロナウイルス感染症	26
(9) 暮らしの状況	29
(10) 暮らしの負担内容	31
4 住民同士の支え合いや助け合い	33
■結果の概要	33
■調査結果から見受けられる課題について	33
(1) 近所付き合いの程度	34
(2) 相談できる人の有無	37

(3) 支え合いや助け合いの必要性	39
(4) 支え合いや助け合いに必要な取り組み	40
(5) 支え合いや助け合いが必要ない理由	41
(6) 手助けしていること	43
(7) 手助けしていない理由	44
5 地域での活動	45
■結果の概要	45
■調査結果から見受けられる課題について	46
(1) 地域活動への参加経験	47
(2) 地域活動に参加しない理由	49
(3) 地域活動への参加意向	50
(4) 参加したい地域活動	51
(5) 地域活動への参加に必要なこと	53
(6) 災害発生時の避難	54
(7) 災害時の手助けや対応	58
(8) 災害時に必要な備え	62
6 福祉のまちづくり	63
■結果の概要	63
■調査結果から見受けられる課題について	63
(1) 外出頻度	64
(2) 外出時に不便に思うこと	65
(3) まちのバリアフリーの満足度	67
(4) バリアフリー化を進めてほしい施設	68
(5) 外出先で困っているのを見かけた経験	69
(6) 困っていたこと	70
(7) その時にしたこと	71
(8) 心のバリアフリー普及に必要な仕組み	72
7 福祉・健康についての情報提供や相談	73
■結果の概要	73
■調査結果から見受けられる課題について	73
(1) 情報の入手先	74
(2) 区の相談窓口の満足度	76
(3) 各種相談窓口の周知度、相談経験、相談の意向	77
(4) 「社会福祉協議会」の認知度	80
(5) 「民生委員・児童委員」の認知度	81
(6) シルバー人材センターが重点的に取り組むべき活動	82
(7) シルバー人材センターに入会したいと思う取り組み	84
(8) シルバー人材センターを利用して働きたい業務	85

(9) 成年後見制度の認知度	86
(10) 成年後見制度を知ったきっかけ	87
(11) 成年後見制度の情報の入手先	88
(12) 成年後見制度の利用意向	89
(13) 成年後見制度を利用したくない理由	90
(14) 地域の保健福祉の推進で力を入れてほしいこと	91
(15) 自由意見・要望等（自由回答）	93
資料編	99
1 クロス集計表	101
2 調査票	177

第1章 調査の概要

1 調査の目的

本調査は、世代や障害の有無を問わず、誰もが住み慣れた地域で暮らし続けることができるしくみの一層の充実を図るため、保健・医療・福祉の各分野にわたり、総合的・体系的に施策・事業を盛り込んだ「豊島区地域保健福祉計画」の改定に反映させるための基礎資料として活用することを目的に実施しました。

2 調査の種類

調査名	調査対象
豊島区地域保健福祉計画改定のための区民意識・意向調査	豊島区内在住の18歳以上の区民3,000名

3 調査方法と回収状況

調査方法：郵送によるアンケート調査

調査票：「日本語版」の他に、豊島区在住外国人の約半数を占める中国籍の方を対象に「中国語版」の調査票を、その他の外国籍の方を対象に「やさしい日本語版」での調査票を作成し送付しました。

抽出方法：年齢別人口割合に応じた層化抽出法*

* 層化抽出法とは、母集団（全体）をある特性に基づいていくつかの「層」に分け、その「層」と同じ比率を標本に投影させ、各層から抽出単位又は調査対象を抽出する方法。

調査期間：令和4年10月18日（火）～11月1日（火）

今回調査では、前回調査まで行ってきた単純無作為抽出法ではなく、年齢階層別に基づく層化抽出法により対象者の抽出を行いました。母集団である全豊島区民の各年齢階層の構成比と、今回調査で標本となる豊島区内在住の18歳以上の区民3,000名の構成比を同じものとして調査することで、その結果は母集団全員に意向調査を行った時の結果と似た内容になることが期待できます。

令和4年度調査（年齢階層別に基づく層化抽出法）

	母集団※	各層/母集団	発送数	回収数	回答率
18～19歳	3,748	1%	44	10	0.8%
20～29歳	47,005	19%	557	110	9.2%
30～39歳	47,986	19%	568	177	14.8%
40～49歳	45,589	18%	540	215	17.9%
50～59歳	38,471	15%	456	202	16.8%
60～64歳	13,641	5%	162	80	6.7%
65～74歳	27,033	11%	320	195	16.3%
75歳以上	29,808	12%	353	199	16.6%
不明・無回答				12	1.0%
合計	253,281	100%	3,000	1,200	100%

※母集団＝住民基本台帳による年齢別人口（令和4年4月1日時点）

《参考》平成28年度調査（単純無作為抽出法）

	回収数	回答率
18～19歳	-	-
20～29歳	46	5.0%
30～39歳	115	12.5%
40～49歳	142	15.4%
50～59歳	117	12.7%
60～69歳	221	24.0%
70歳以上	259	28.1%
不明・無回答	22	2.4%
合計	922	100%

※発送数の把握は行っていません。

〈回収状況〉

調査名		発送数	回収数	回収率
豊島区地域保健福祉計画改定のための区民意識・意向調査		3,000 件	1,200 件	40.0%
(参考)	日本国籍	2,734 件	1,160 件	42.4%
	外国籍	266 件	40 件	15.0%

(参考)

前回調査（平成 28 年度調査）	3,000 件	922 件	30.7%
前々回調査（平成 25 年度調査）	3,000 件	878 件	29.3%

回収率増加に向けて行った主な取り組み：

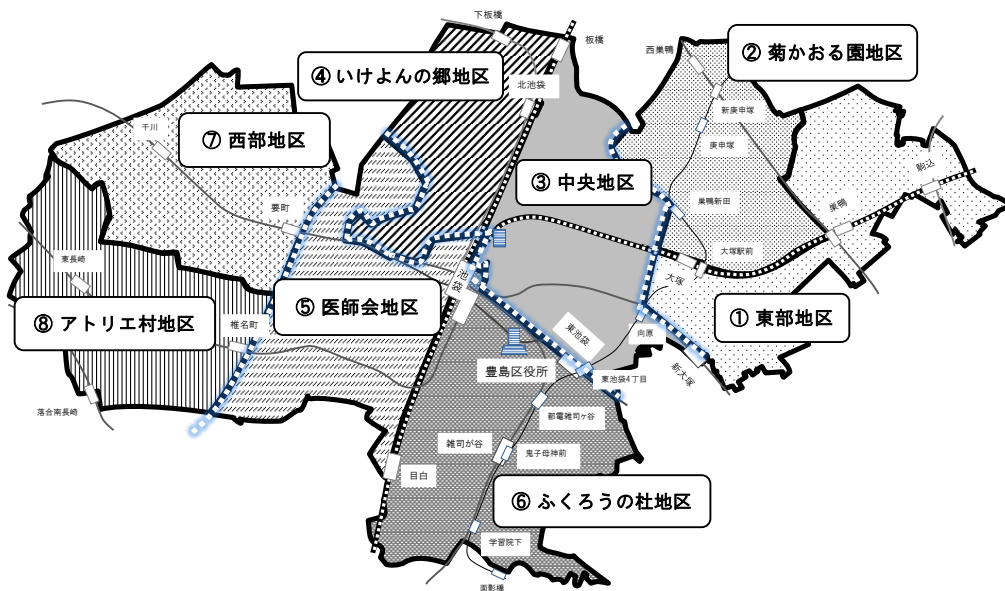
- ・調査対象者全員に「お礼状（未回答者へ回答依頼）」を発送
- ・外国籍の方向けに相談窓口を開設
- ・外国籍版調査票に区ホームページの QR コードを添付
- ・区内連携 7 大学及び区内日本語専門学校 5 校に、留学生向けポスター掲示を依頼
- ・区ホームページに調査の実施案内を掲載（英語・中国語・韓国語に変換可能）
- ・区ツイッターにて調査協力依頼を配信
- ・区ツイッターにてお礼（未回答者へ回答依頼）を配信

4 調査項目

調査名	調査項目
豊島区地域保健福祉計画改定のための区民意識・意向調査	1. 基本属性 2. 暮らしの状況 3. 住民同士の支え合いや助け合い 4. 地域での活動 5. 福祉のまちづくり 6. 福祉・健康についての情報提供や相談

5 調査結果を見る上での注意事項

- ・本文、表、グラフなどに使われる「n」は、各設問に対する回答数です。
- ・百分率（%）の計算は、小数第2位を四捨五入し、小数第1位まで表示しました。したがって、単数回答（1つだけ選ぶ問）においても、四捨五入の影響で、%を足し合わせて100%にならない場合があります。
- ・複数回答（2つ以上選んでよい問）においては、%の合計が100%を超える場合があります。
- ・本文、表、グラフは、表示の都合上、調査票の選択肢等の文言を一部簡略化している場合があります。
- ・回答者数が30未満の場合、比率が上下しやすいため、傾向を見るにとどめ、本文中では触れていない場合があります。
- ・経年比較として掲載したものは、豊島区地域保健福祉計画改定のための区民意識・意向調査のうち、前回調査とは「平成28年度の調査」、前々回調査とは「平成25年度の調査」を示します。
- ・クロス集計で用いる地区区分は、高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）が担当している8地区に分類して集計しています。



8区分		住所
東部	① 東部地区	駒込1～7丁目、巢鴨1・2丁目、南大塚1～3丁目
	② 菊かおる園地区	巢鴨3～5丁目、西巢鴨1～4丁目、北大塚1・2丁目
北部	③ 中央地区	北大塚3丁目、上池袋1～4丁目、東池袋1～5丁目
	④ いけよんの郷地区	池袋1・2・4丁目、池袋本町1～4丁目
南部	⑤ 医師会地区	西池袋1～5丁目、池袋3丁目、目白3～5丁目
	⑥ ふくろうの杜地区	南池袋1～4丁目、雑司が谷1～3丁目、高田1～3丁目、目白1・2丁目
西部	⑦ 西部地区	長崎1丁目、千早1～4丁目、要町1～3丁目、高松1～3丁目、千川1・2丁目
	⑧ アトリエ村地区	南長崎1～6丁目、長崎2～6丁目

第2章 調査結果の詳細

1 調査結果から推察される区の現状と課題

〈2 基本属性〉以降の調査結果を踏まえ、今の豊島区の状況や課題について全体を通じた整理を行いました。

(1) 調査結果から見られる区の状況

くらし

- ・区民の中には、孤立や孤独感を抱えている方がいることがわかりました。
- ・例えば、高齢者・障害者に加え、20代等の若い世代、単身者等は、災害などの緊急時に孤立するのではないかと懸念を抱えています。また、介護、ひきこもり状態の方を抱える世帯などは、地域からの孤立や生活に対する負担感が大きいといった傾向が見られます。

コミュニティ・地域活動

- ・コミュニティについては、普段から関係のある方とのつながりが中心となりつつあるものの、あいさつを交わすなどの近所付き合いも続いています。
- ・地域活動に対する興味・関心が低下する傾向がみられます。特に町会・自治会等がこれまで担ってきた地域活動に対するニーズが低下する傾向があります。
- ・近所付き合いの希薄化や地域活動が停滞する傾向がみられますが、住民同士の支え合いや助け合いはこれからも必要だと考えられています。
- ・地域活動に参加していない区民が多い状況ですが、関心のある活動があれば参加したいなど、機会があれば参加したいと考える区民も多くいる状況です。

福祉サービスなど困った方への支援

- ・若い世代など多くの区民は問題なく生活しており、区などが行う福祉サービスとの接点は低い状況です。一方、ひきこもりなど、相談窓口などの支援策を用意しているものの、そのサービスが対象者に届いていない状況もあります。
- ・しかしながら、いざ困ったときに支援が受けられるよう、各種サービスに対する必要性は感じられている状況でもあります。

(2) 課題

変化する区民のニーズや生活スタイルに配慮しつつ、困ったときに助け合い・支え合い、支援の手が届きやすい環境づくりを進めることが課題です。

【想定される対応例】

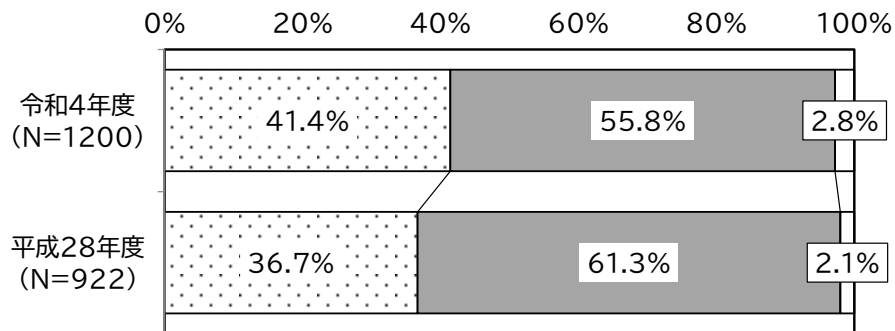
- ・支援体制のさらなる充実とPRの強化（包括的な相談支援体制の整備、ICT等の活用）
- ・これからの時代に合った「チャンネル・つながりづくり」（ゆるやかにつながれる場、地域に興味を持てる機会・場づくり、意識啓発・手助けに関する情報提供等）
- ・20代等の若い世代への働きかけ（地域共生に関する意識啓発、時に支援も）
- ・地域で孤立する方々の情報把握（災害等、いざというときのために）

2 基本属性

(1) 自認する性

	日本国籍	外国籍	計
男性	474	23	497
女性	654	15	669
無回答	32	2	34
全体	1,160	40	1,200

男性
 女性
 不明・無回答



(2) 年代

[令和4年度調査]

	日本国籍	外国籍	計
20歳未満	10	-	10
20~29歳	99	11	110
30~39歳	163	14	177
40~49歳	208	7	215
50~59歳	199	3	202
60~64歳	78	2	80
65~74歳	193	2	195
75歳以上	198	1	199
不明・無回答	12	-	12
全体	1160	40	1200

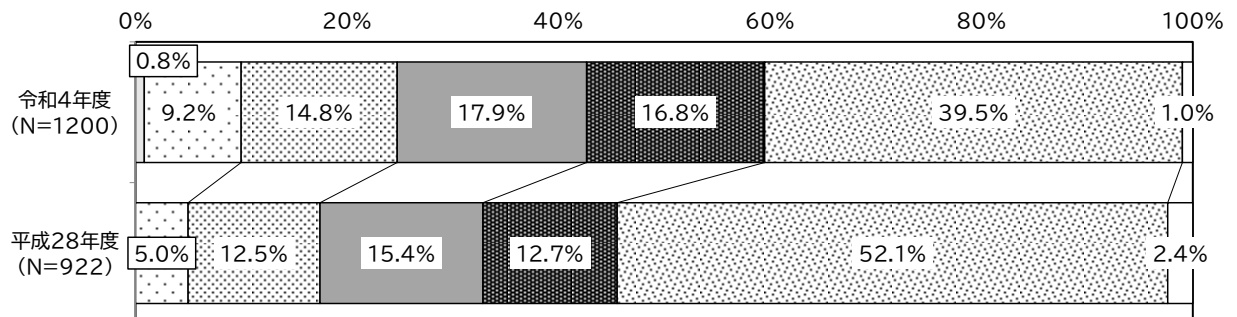
60歳以上 474

[参考:平成28年度調査]

	回答数
20歳未満	-
20~29歳	46
30~39歳	115
40~49歳	142
50~59歳	117
60~69歳	221
70歳以上	259
-	-
不明・無回答	22
全体	922

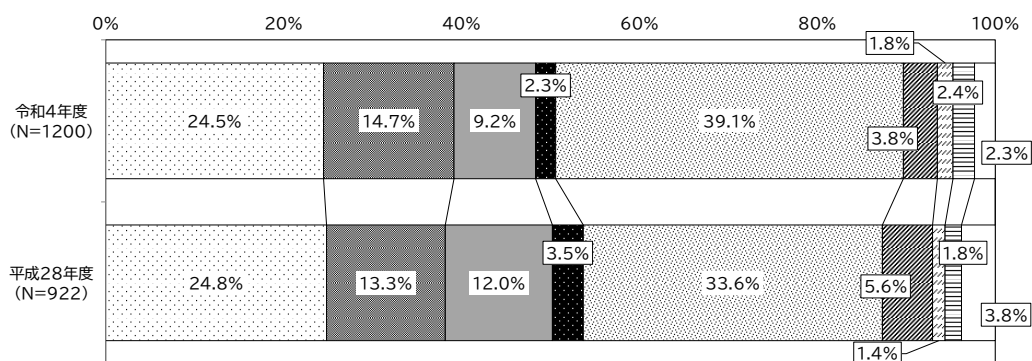
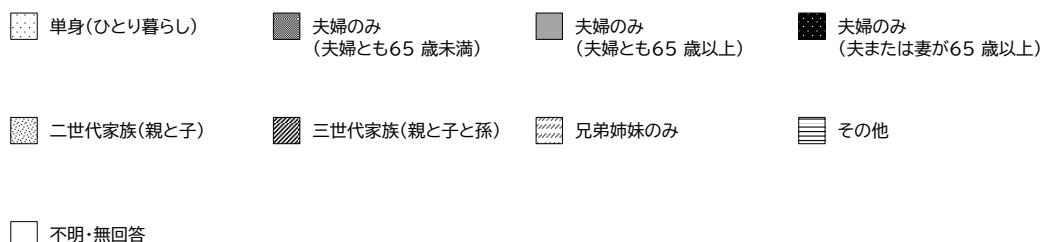
60歳以上 480

20歳未満
 20~29歳
 30~39歳
 40~49歳
 50~59歳
 60歳以上
 不明・無回答



(3) 家族構成

家族構成	単身（ひとり暮らし）	夫婦のみ			二世世代家族（親と子）	三世世代家族（親と子と孫）	兄弟姉妹のみ	その他	不明	全体
		夫婦とも65歳未満	夫婦とも65歳以上	夫または妻が65歳以上						
回答件数	294	176	110	27	469	46	21	29	28	1,200

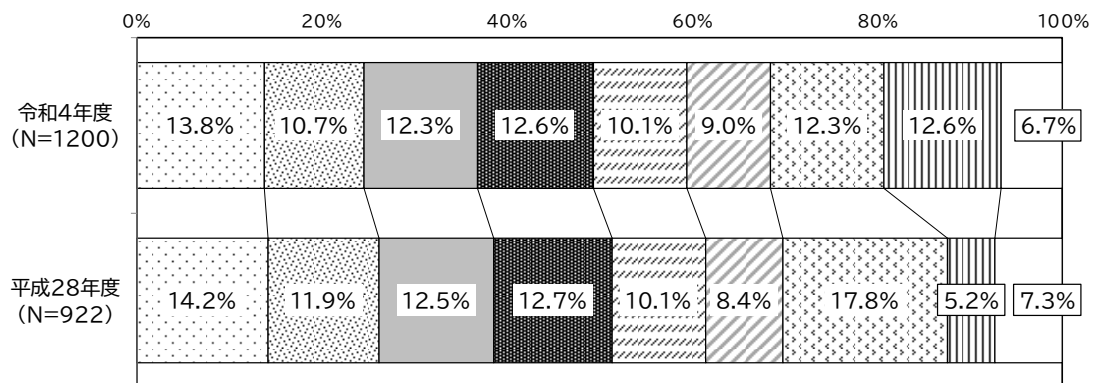
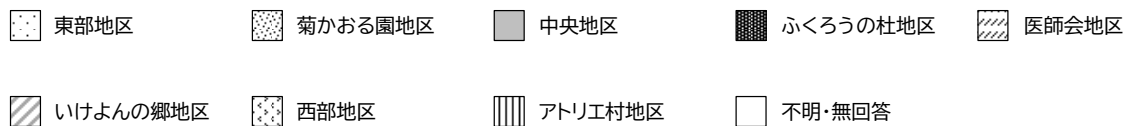


(4) 年代×家族構成

		Q34 家族構成									
		全体	単身（ひとり暮らし）	夫婦のみ（夫婦とも65歳未満）	夫婦のみ（夫婦とも65歳以上）	夫婦のみ（夫または妻が65歳以上）	二世世代家族（親と子）	三世世代家族（親と子と孫）	兄弟姉妹のみ	その他	不明・無回答
全体	件数	1200	294	176	110	27	469	46	21	29	28
	割合 (%)	100.0	24.5	14.7	9.2	2.3	39.1	3.8	1.8	2.4	2.3
Q33 年代	20歳未満	10	-	-	-	-	9	1	-	-	-
		100.0	-	-	-	-	90.0	10.0	-	-	-
	20～29歳	110	49	12	-	-	38	2	2	5	2
		100.0	44.5	10.9	-	-	34.5	1.8	1.8	4.5	1.8
	30～39歳	177	43	47	1	-	75	3	1	7	-
		100.0	24.3	26.6	0.6	-	42.4	1.7	0.6	4.0	-
	40～49歳	215	40	34	-	-	125	10	1	5	-
		100.0	18.6	15.8	-	-	58.1	4.7	0.5	2.3	-
50～59歳	202	46	42	-	5	93	6	2	6	2	
	100.0	22.8	20.8	-	2.5	46.0	3.0	1.0	3.0	1.0	
60～64歳	80	16	25	1	5	25	2	4	1	1	
	100.0	20.0	31.3	1.3	6.3	31.3	2.5	5.0	1.3	1.3	
65～74歳	195	41	7	54	11	60	11	7	-	4	
	100.0	21.0	3.6	27.7	5.6	30.8	5.6	3.6	-	2.1	
75歳以上	199	59	9	54	5	44	11	4	5	8	
	100.0	29.6	4.5	27.1	2.5	22.1	5.5	2.0	2.5	4.0	

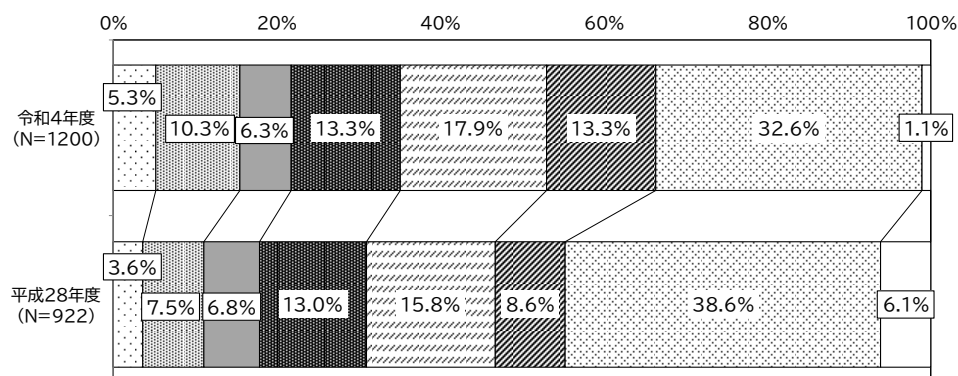
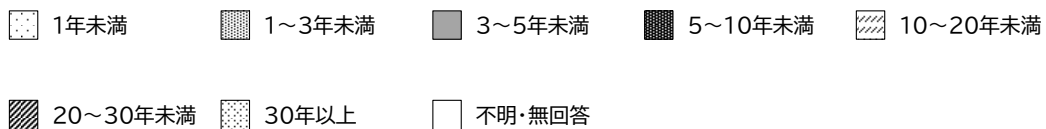
(5) 居住地域

地区	東部	菊かおる園	中央	ふくろうの杜	医師会	いけよんの郷	西部	アトリエ村	不明・無回答	全体
回答件数	166	128	147	151	121	108	148	151	80	1,200



(6) 居住年数

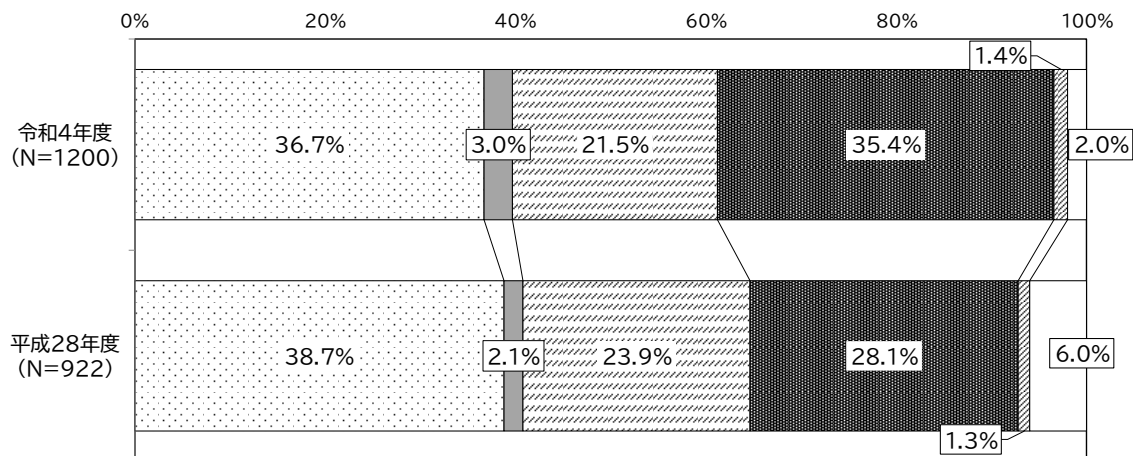
年数	1年未満	1年～3年未満	3年～5年未満	5年～10年未満	10年～20年未満	20年～30年未満	30年以上	不明・無回答	全体
回答件数	63	123	75	160	215	160	391	13	1,200



(7) 住居の種類

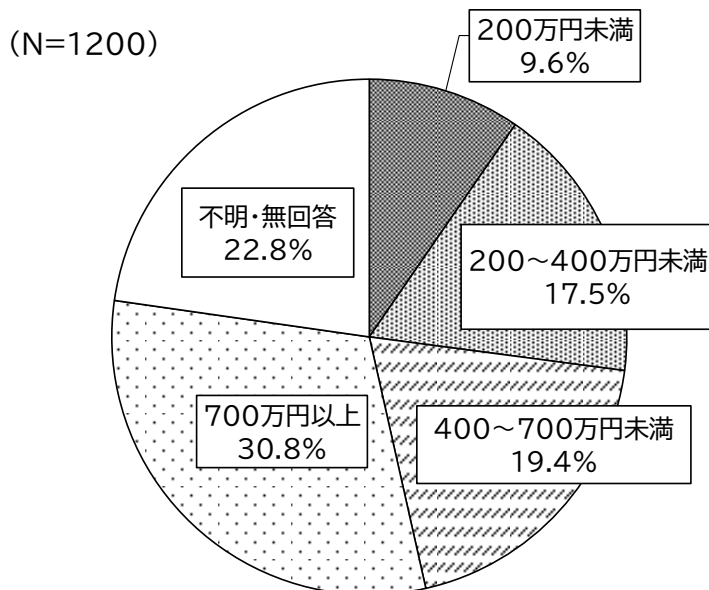
住居の種類	一戸建て(持ち家)	一戸建て(賃貸)	(分譲マンション等) 共同住宅	アパート・社宅等 (賃貸マンション・ 共同住宅)	その他	不明	全体
回答件数	440	36	258	425	17	24	1,200

一戸建て(持ち家)
 一戸建て(賃貸)
 共同住宅(分譲マンション等)
 共同住宅(賃貸マンション・アパート・社宅等)
 その他
 不明・無回答



(8) 世帯年収

年収	回答数
200万円未満	115
200~400万円未満	210
400~700万円未満	233
700万円以上	369
不明・無回答	273
全体	1,200



3 くらしの状況

くらしの状況を把握し、調査結果から見受けられる課題を抽出し、整理しました。

■結果の概要

【育児や介護】

育児の中心は40歳代、介護の中心は60歳代が担っています。前回調査では育児の中心が30歳代、介護は50歳代であり、育児や介護をする年代が上がってきています。育児と介護の両方をしているいわゆる「ダブルケア」は40歳代が多くなっています。

くらしの状況を見ると、「ダブルケア」を含めて介護をしている方は、仕事や収入の制約が大きく、生活に《苦しさ》を抱えている状況にあります。一方、くらしの状況に関わらず、育児や介護は、くらしの大きな負担になっています。

【仕事】

仕事については、「仕事をしてきたが退職した」、「仕事をしたことがない」と回答した方のうち20歳未満や30歳代で就労意欲が高くなっています。「仕事をしてきたが退職した」理由としては、30～40歳代では「育児」、50歳代では「介護」、60歳以上の年代では「高齢のため（定年退職を含む）」が多くなっています。

【ひきこもり状態】

ひきこもり状態の方がいる世帯は、全体の2.8%、過去にいた世帯も加えると全体の4.9%に上ります。豊島区でひきこもり状態の方がいる世帯は約5,000世帯、総人口に対する割合は約1.8%になると推計されます。

こうした世帯は、くらしが苦しく、経済面や健康面での負担が大きいと感じています。また、近所付き合いが希薄で、相談できる方がおらず、孤立する傾向が見られます。ひきこもり状態の方が受けたサービスは、生活費や当事者・家族向け相談です。しかしながら、ひきこもりに関するサービスの認知度が低い状況もあり、ひきこもり状態の方がいる世帯、または過去にいた世帯では、支援を受けている方が少なく、必要な支援が届いてない状況にあります。

【新型コロナウイルス感染症での困りごとについて】

新型コロナウイルス感染症が拡大する中での新たな困りごととしては、「社会参加の場・機会が減少した」が多くなっています。その他、65歳以上では「運動不足になった」といった問題が多くなっています。

【くらしの状況について】

現在のくらしの状況は、やや《ゆとりあり》と感じている方が多い状況です。しかし、属性ごとに詳しくみると、年代別では「60～64歳」、「50～59歳」、「20～29歳」で、家族構成別で見ると、「単身（ひとり暮らし）」、「兄弟姉妹のみ」、「その他」で、《ゆとりがある》より《苦しい》が多くなっています。

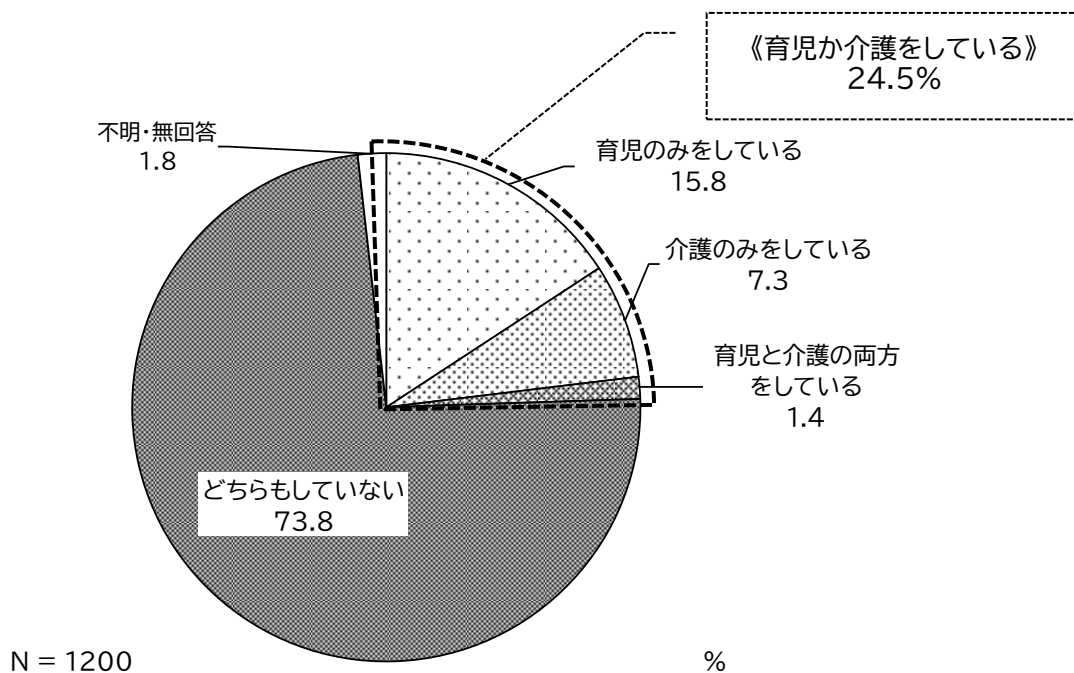
■調査結果から見受けられる課題について

- ・ 育児や介護をしている方のくらしの負担の軽減
- ・ 現在離職中の方で、就労意欲のある方への支援
- ・ ひきこもり状態の方やその家族の方が相談しやすい体制・環境づくり
- ・ 就労支援の他、年代や世帯の状況に応じた問題に対応しうる、きめ細やかな支援・相談体制の充実

(1) 育児や介護

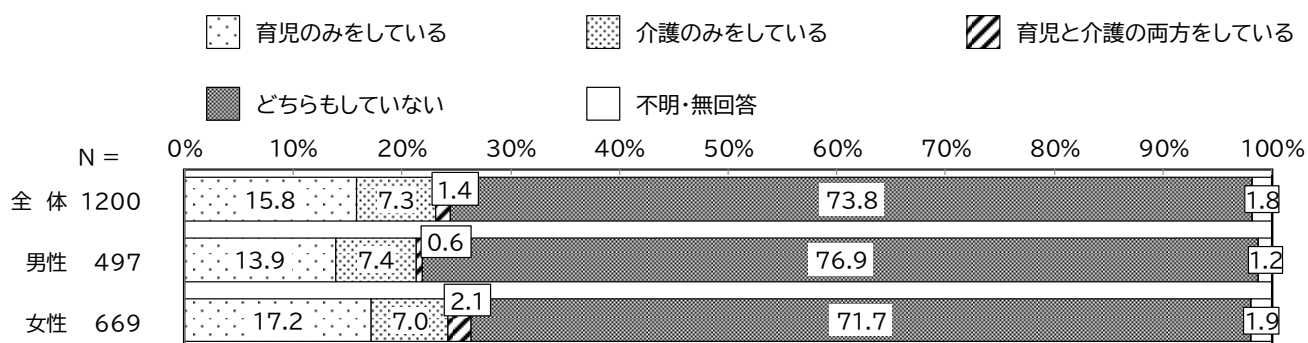
問1 育児や介護をしていますか。(〇は1つのみ)

育児や介護について、73.8%の方が「どちらもしていない」と回答しています。一方、「育児のみをしている」は15.8%、「介護のみをしている」は7.3%、「育児と介護の両方をしている」いわゆる「ダブルケア」の方は1.4%で、これらをあわせた《育児か介護をしている方》は、24.5%となっています。



[自認する性別]

自認する性別でみると、「育児のみをしている」は、「男性」の13.9%に比べて「女性」が17.2%と多くなっています。一方、「介護のみをしている」は、「男性」が7.4%と、「女性」が7.0%で、ほぼ同じです。

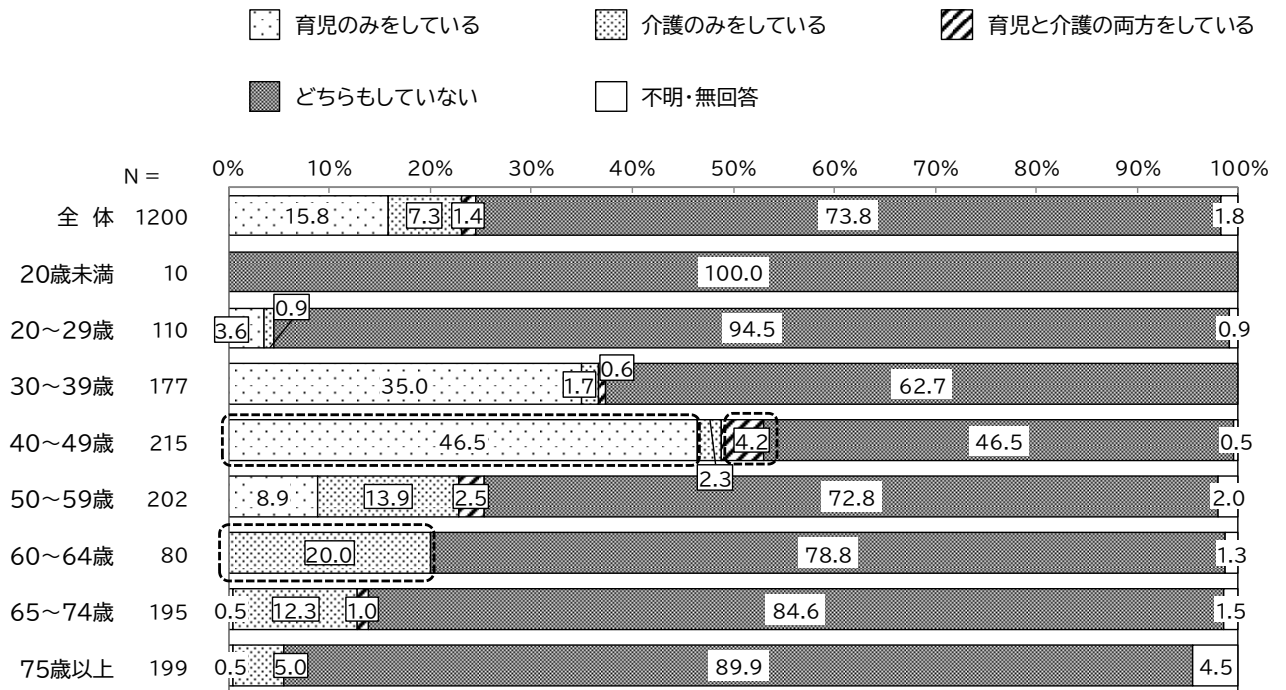


[年代別]

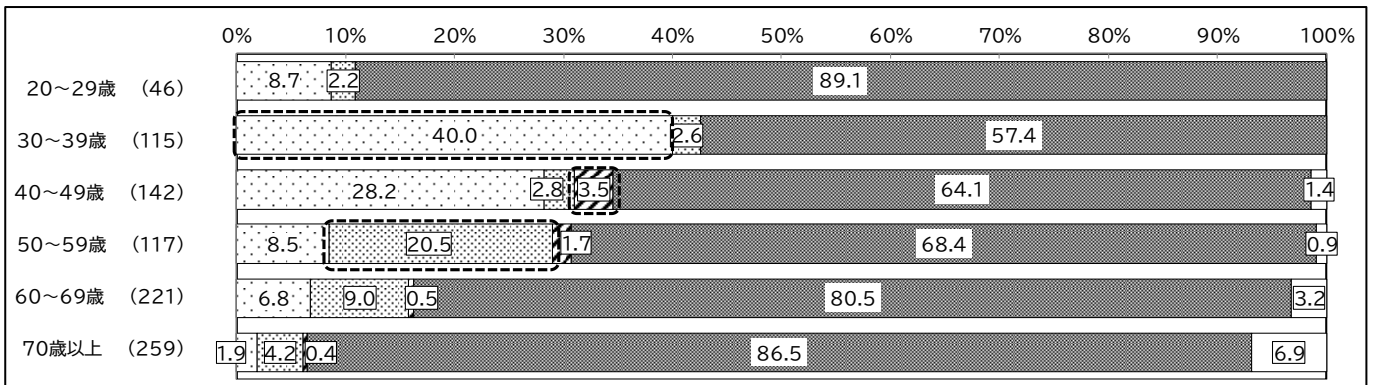
年代別でみると、「育児のみをしている」は、「40～49歳」で46.5%と多く、次いで「30～39歳」(35.0%)と続いています。一方「介護のみをしている」は、「60～64歳」で20.0%と多くなっており、次いで「50～59歳」(13.9%)と続いています。また、「育児と介護の両方をしている」は、「40～49歳」で4.2%と多く、次いで「50～59歳」(2.5%)と続いています。

また、65歳以上の方(「65～74歳」と「75歳以上」の合計値)で介護をしている(「介護のみをしている」と「育児と介護の両方をしている」の合計値)、いわゆる「老々介護」の方は、36名、65歳以上の方の9.1%となっています。

前回調査と比較すると「育児のみをしている」は「30歳代」から「40歳代(40～49歳)」に、「介護のみをしている」は「50歳代」から「60～64歳」に、最も回答が多かった年代が上がる結果となっています。一方、「育児と介護の両方をしている」はいずれの調査でも「40歳代(40～49歳)」が最も多くなっています。

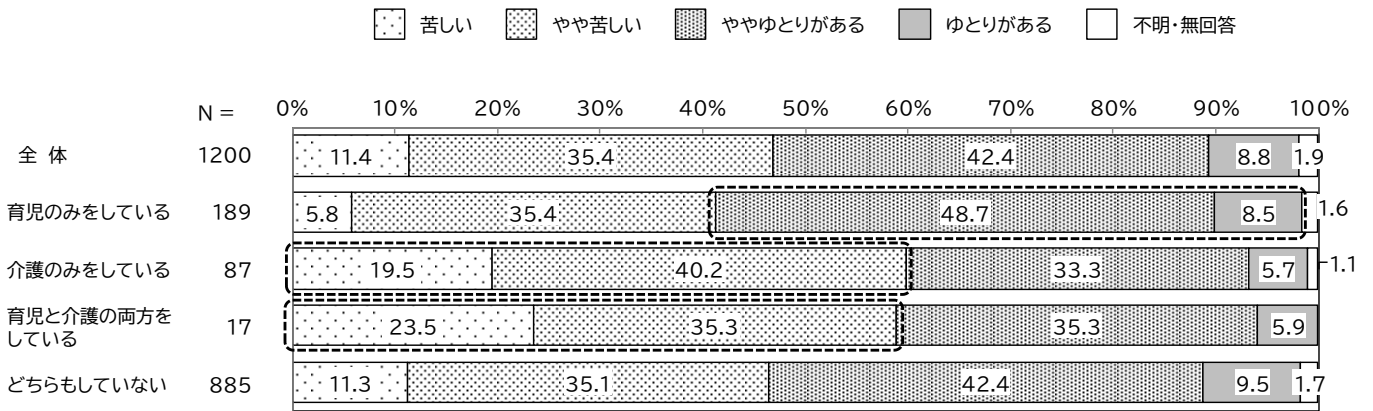


[参考：前回(平成28年度)の結果]



[くらしの状況別]

くらしの状況別（問5）で見ると、「育児のみをしている」と回答した方は、約6割が「ゆとりがある」と回答しています。一方、「介護のみをしている」、「育児と介護の両方をしている」と回答した方は、約6割が「苦しい」と回答しています。



[くらしの負担内容別]

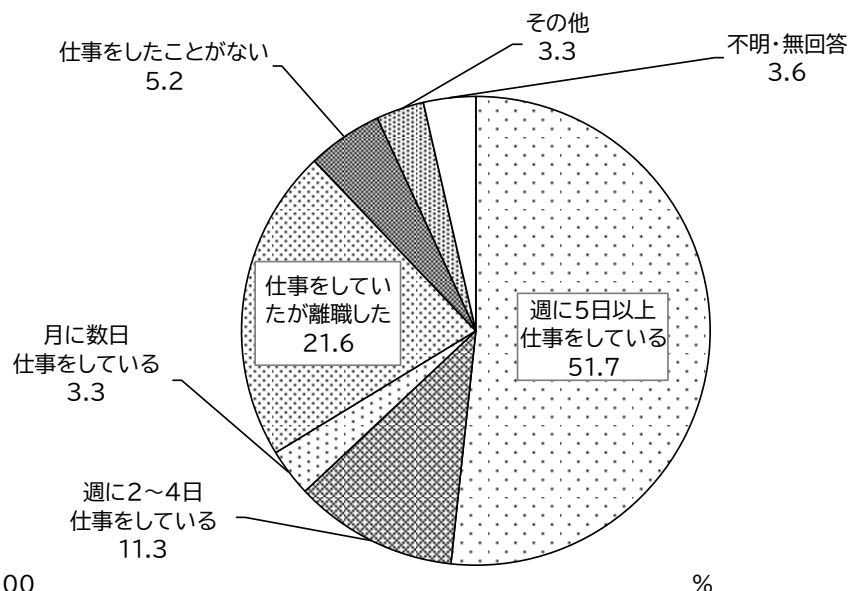
くらしの負担内容別（問6）で見ると、「育児のみをしている」と回答した方は、「育児」で43.4%と多く、次いで「収入が少ない」（23.8%）と続いています。「介護のみをしている」と回答した方は、「介護」で63.2%と多くなっており、「自分や家族の健康状態」（46.0%）と続いています。「育児と介護の両方をしている」と回答した方は、「介護」と「収入が少ない」が64.7%と多くなっており、「育児」（41.2%）と続いています。

		Q6 くらしの負担内容											
		自分や家族の健康状態	育児	介護	収入が少ない	借金の返済	戚人間関係(知人・近所・親)	住環境	職場環境(室内環境・仕事の負荷など)	その他	特に負担と感じているものは	不明・無回答	
全体	件数	1200	356	93	81	381	94	188	163	166	70	284	19
	割合(%)	100.0	29.7	7.8	6.8	31.8	7.8	15.7	13.6	13.8	5.8	23.7	1.6
Q1 育児や介護	育児のみをしている	189	40	82	-	45	17	19	33	39	12	37	2
		100.0	21.2	43.4	-	23.8	9.0	10.1	17.5	20.6	6.3	19.6	1.1
	介護のみをしている	87	40	-	55	35	8	13	15	8	1	4	-
		100.0	46.0	-	63.2	40.2	9.2	14.9	17.2	9.2	1.1	4.6	-
	育児と介護の両方をしている	17	3	7	11	11	1	1	4	3	3	1	-
	100.0	17.6	41.2	64.7	64.7	5.9	5.9	23.5	17.6	17.6	5.9	-	
	どちらもしていない	885	261	4	12	281	67	153	109	115	54	240	16
		100.0	29.5	0.5	1.4	31.8	7.6	17.3	12.3	13.0	6.1	27.1	1.8

(2) 仕事

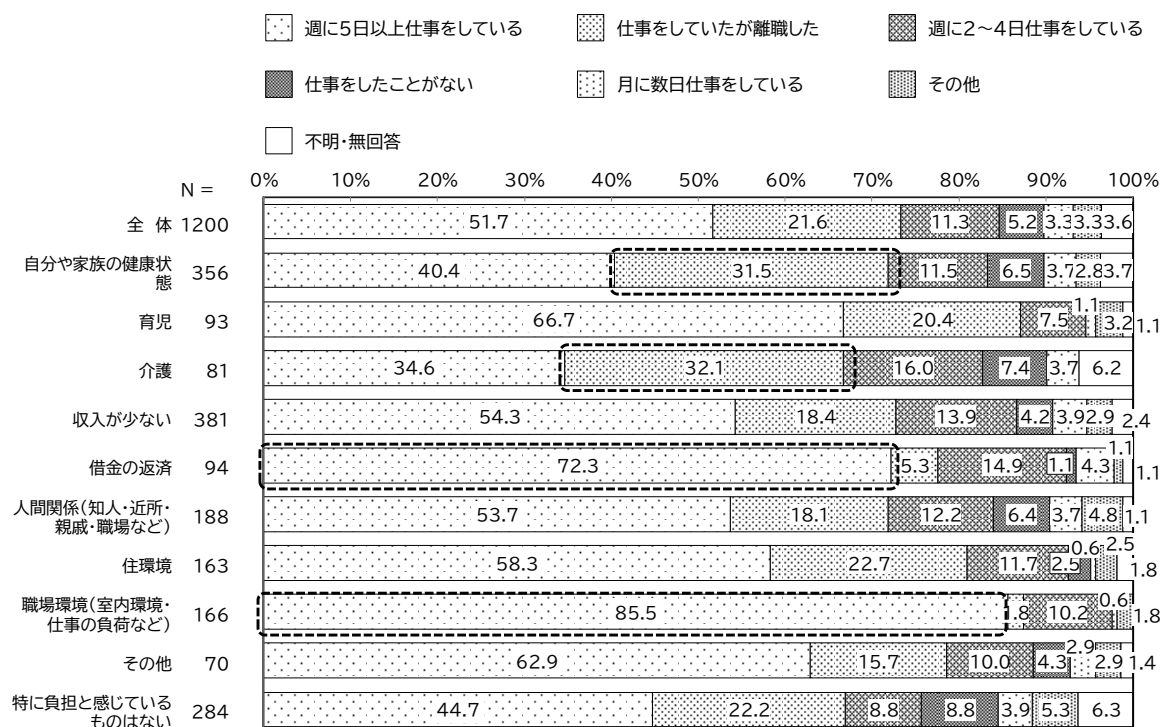
問2 収入を得る仕事をしていますか。(〇は1つのみ)

収入を得る仕事について、51.7%の方が「週に5日以上仕事をしている」と回答しています。一方で、「仕事をしていたが離職した」は、21.6%となっています。



[くらしの負担内容別]

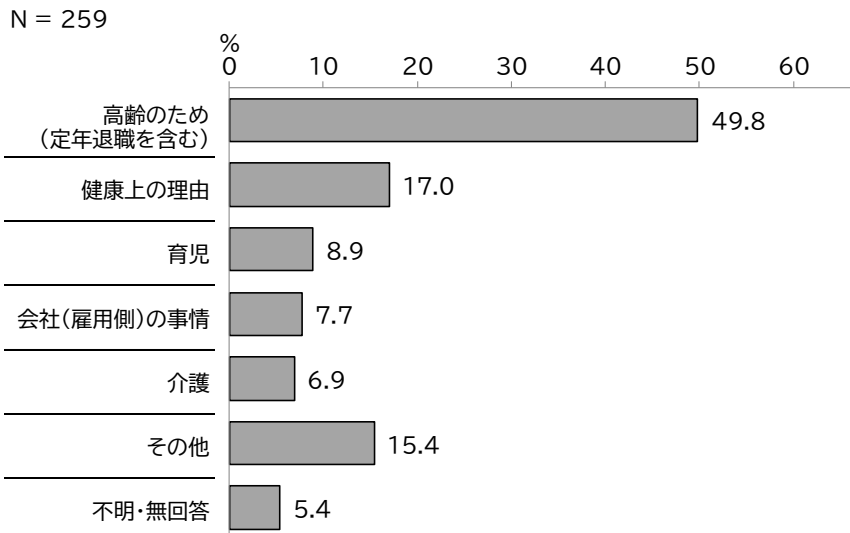
くらしの負担内容別(問6)でみると、「週に5日以上仕事をしている」は、「職場環境(室内環境・仕事の負荷など)」で85.5%と多く、次いで「借金の返済」(72.3%)と続いています。一方「仕事をしていたが離職した」は、「介護」で32.1%と多く、次いで「自分や家族の健康状態」(31.5%)と続いています。



(3) 離職理由

問2-1【問2で「4 仕事をしていましたが離職した」を回答した方へ】
離職の原因はなんですか。（〇はいくつでも）

離職の原因は、「高齢のため（定年退職を含む）」（49.8%）が最も多く、次いで「健康上の理由」（17.0%）と続いています。



[年代別]

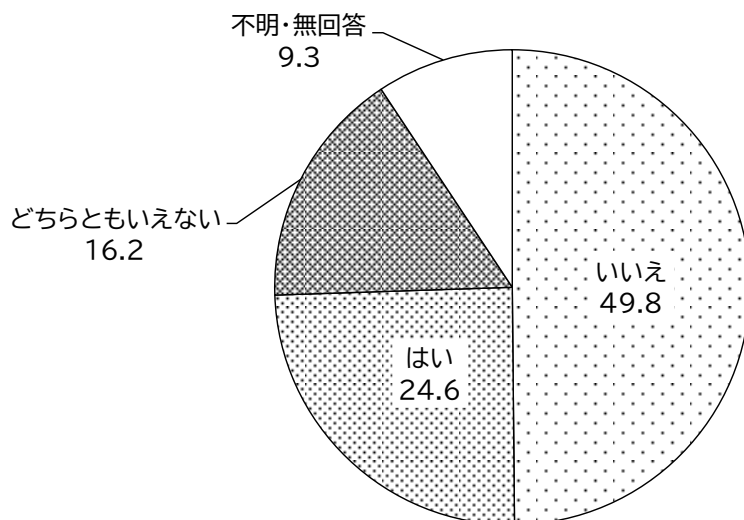
年代別でみると、「育児」は、「30～39歳」や「40～49歳」で多く、約4割の方が回答しています。一方「介護」は、「50～59歳」で多く、約2割の方が回答しています。また、「介護」は、「20歳未満」から「40～49歳」で回答者がいないことから、「介護」が理由で離職した人がいない状況となっています。

		Q2.1 離職理由							
		全体	育児	介護	健康上の理由	会社(雇用側)の事情	高齢のため(定年退職を含む)	その他	不明・無回答
全体	件数	259	23	18	44	20	129	40	14
	割合(%)	100.0	8.9	6.9	17.0	7.7	49.8	15.4	5.4
Q33 年代	20歳未満	-	-	-	-	-	-	-	-
	20～29歳	5	-	-	1	-	-	4	1
		100.0	-	-	20.0	-	-	80.0	20.0
	30～39歳	24	10	-	3	3	-	9	1
		100.0	41.7	-	12.5	12.5	-	37.5	4.2
	40～49歳	18	8	-	3	3	-	4	-
		100.0	44.4	-	16.7	16.7	-	22.2	-
	50～59歳	21	2	4	6	2	-	8	2
	100.0	9.5	19.0	28.6	9.5	-	38.1	9.5	
60～64歳	25	-	3	8	3	10	5	-	
	100.0	-	12.0	32.0	12.0	40.0	20.0	-	
65～74歳	74	2	9	14	3	45	5	5	
	100.0	2.7	12.2	18.9	4.1	60.8	6.8	6.8	
75歳以上	88	1	2	8	6	71	4	5	
	100.0	1.1	2.3	9.1	6.8	80.7	4.5	5.7	

(4) 就労意欲

問2-2【問2で「4 仕事をしていたが離職した」「5 仕事をしたことがない」を回答した方へ】
 今後、仕事に就きたいと思いませんか。(○は1つのみ)

今後の就労意欲について、49.8%の方が「いいえ」と回答しています。一方、「はい」と回答した方は、24.6%となっています。

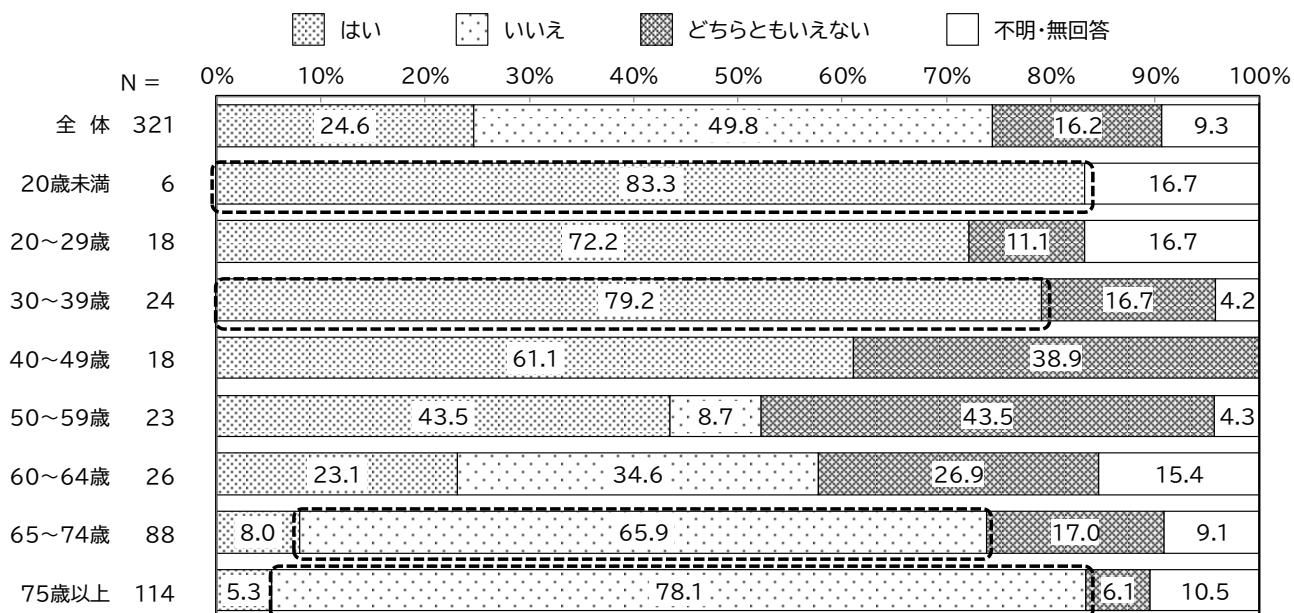


N = 321

%

[年代別]

年代別でみると、「はい」は、「20歳未満」で83.3%と多く、次いで「30～39歳」(79.2%)と続いています。一方「いいえ」は、「75歳以上」で78.1%と多く、次いで「65～74歳」(65.9%)と続いています。



(5) ひきこもり状態にある方

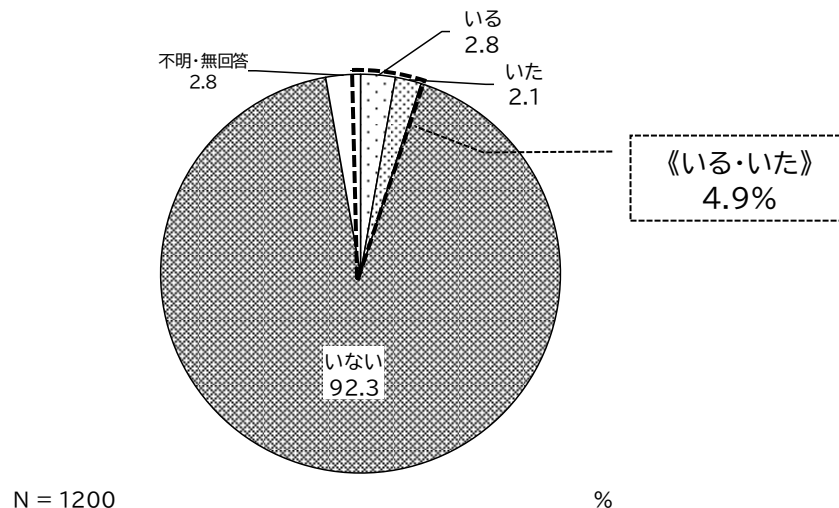
問3 あなたの世帯に、ひきこもり状態にある（あった）方*はいますか。（○は1つのみ）

*本調査における「ひきこもり状態にある（あった）方」とは、仕事や学校等に行くことができず、かつ、家族以外の人との交流をほとんどすることができず、次のいずれかに該当する方をいいます。

①自宅や自室に閉じこもっている状態の方／②時々買い物などで外出することがある方
※ただし、加齢による寝たきり、重度の身体や内臓の障害・疾患により外出が困難な方を除きます。

ひきこもり状態の方がいる世帯は2.8%、過去にいた世帯も含めると4.9%にのぼります。豊島区の世帯数181,160世帯*に上記結果を当てはめると、ひきこもり状態の方がいる世帯は5,072世帯、過去にいた世帯も含めると8,877世帯にのぼると推計されます。仮にひきこもり状態の方がいる世帯につき、1人のひきこもりの方がいると想定すると、総人口288,563人*に対して、ひきこもり状態の方の割合は1.76%にのぼると推計されます。これは内閣府の推計（参考1）より高い水準です。

※住民基本台帳：令和4年10月1日現在の数値です。



（参考1）内閣府のひきこもりに対する調査では、15歳～39歳でその世代の人口の1.57%、40～64歳でその世代の人口の1.45%がひきこもり状態にあると推計されたとの調査結果を公表しています。

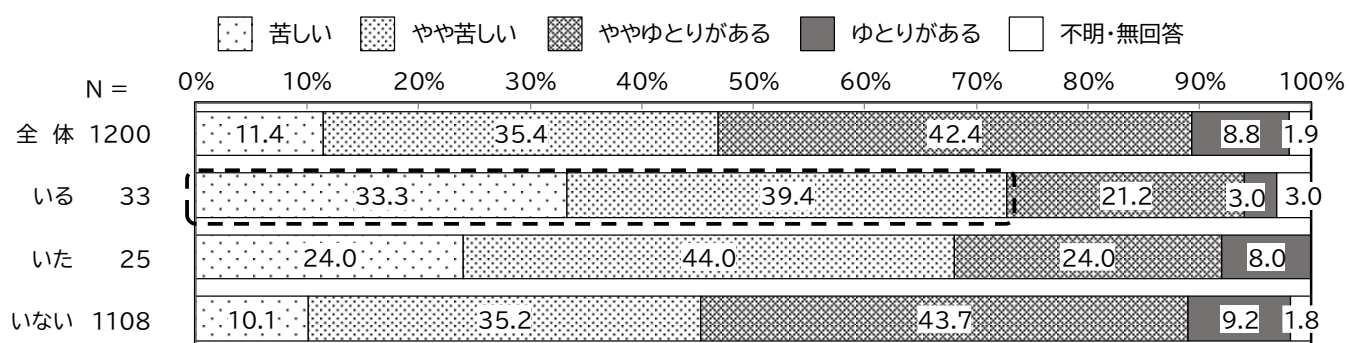
内閣府では、平成21年度と平成27年度に、満15歳から満39歳までの者を対象にひきこもりの実態調査を実施。また、平成30年度に、満40歳から満64歳までの者を対象とするひきこもりの実態調査を実施。

（参考2）江戸川区では、区内に9,096人（江戸川区民約76人に1人）のひきこもり当事者がいるとの調査結果を公表しています。

江戸川区では令和3年7月から令和4年2月にかけて、ひきこもりなどに関する大規模調査を実施。調査結果から、ひきこもり当事者を抱える世帯数は7,604世帯、ひきこもり当事者は7,919人（1世帯当たりのひきこもり状態の方の人員1.04人）いることが判明し、不登校児童生徒等江戸川区が把握している数値を合わせると同区内に9,096人のひきこもり当事者がいると公表。（調査結果と令和4年1月1日時点の世帯数：345,803世帯を比較すると約2.2%の世帯でひきこもり当事者を抱える世帯がいることが推計される）

[くらしの状況別]

くらしの状況別（問5）でみると、回答者全体では、《苦しい》と感じている方は4割台半ばとなっているのに対し、ひきこもり状態の方がいる世帯では、7割に上ります。



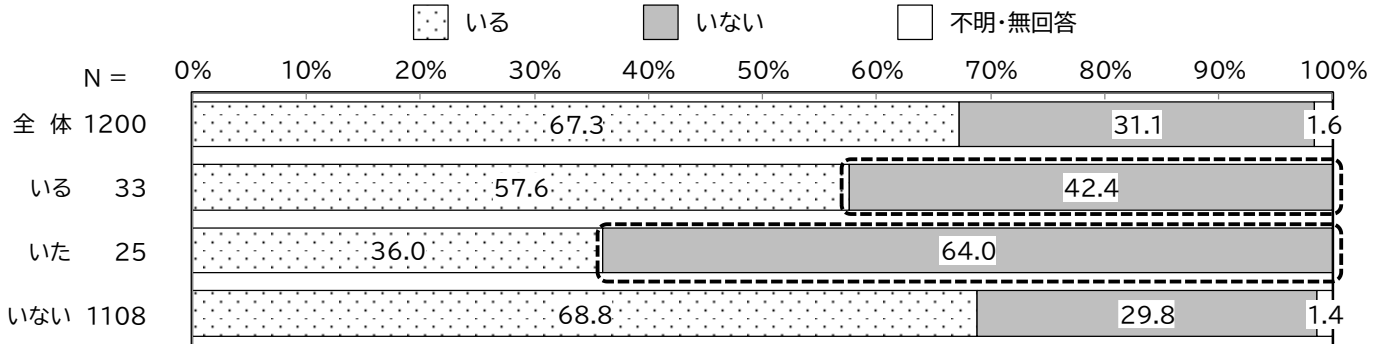
[くらしの負担内容別]

くらしの負担内容（問6）について、ひきこもり状態の方がいる世帯では、「自分や家族の健康状態」（48.5%）が最も多く、次いで、「収入が少ない」（39.4%）と続きます。負担の内容をひきこもり状態にある方がいない世帯と比較すると、ひきこもり状態の方がいる世帯の方が、「職場環境」、「育児」を除くすべての項目で負担と回答する割合が高くなっています。

		Q6 くらしの負担内容											
		全体	自分や家族の健康状態	育児	介護	収入が少ない	借金の返済	人間関係（知人・近所・親戚・職場など）	住環境	職場環境（室内環境・仕事の負荷など）	その他	特に負担と感じている	不明・無回答
全体	件数	1200	356	93	81	381	94	188	163	166	70	284	19
	割合(%)	100.0	29.7	7.8	6.8	31.8	7.8	15.7	13.6	13.8	5.8	23.7	1.6
Q3 状態に ひきこ もり方 いない	いる	33	16	1	5	13	3	6	5	3	5	4	-
		100.0	48.5	3.0	15.2	39.4	9.1	18.2	15.2	9.1	15.2	12.1	-
	いた	25	14	5	1	12	5	7	3	4	3	1	-
		100.0	56.0	20.0	4.0	48.0	20.0	28.0	12.0	16.0	12.0	4.0	-
いない	いない	1108	313	86	74	342	83	175	150	156	61	271	18
		100.0	28.2	7.8	6.7	30.9	7.5	15.8	13.5	14.1	5.5	24.5	1.6

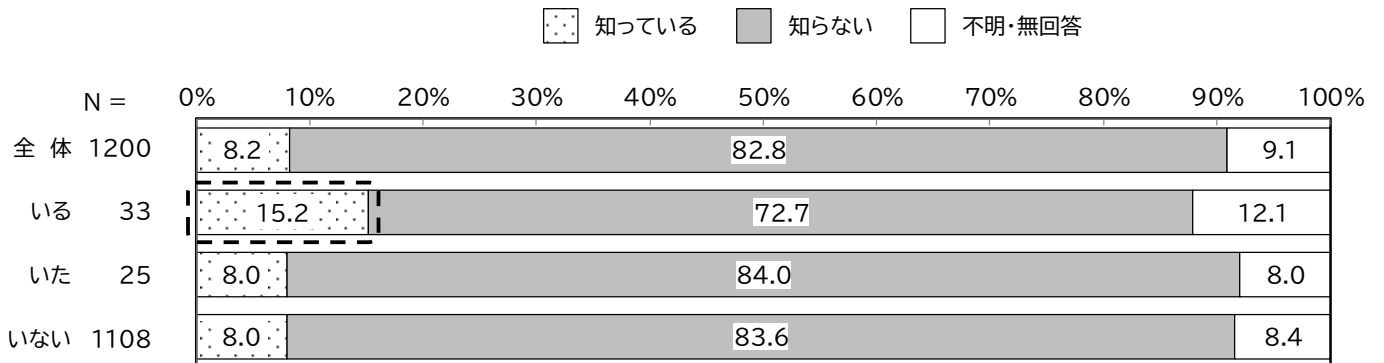
[相談できる方の有無別]

相談できる方（問8）について、相談できる方が「いない」と回答した方の割合は、ひきこもり状態の方が「いない」世帯（29.8%）と比べ、ひきこもり状態の方が「いる」世帯（42.4%）や、過去に「いた」世帯（64.0%）の方が高くなっています。



[ひきこもり相談窓口の認知度別]

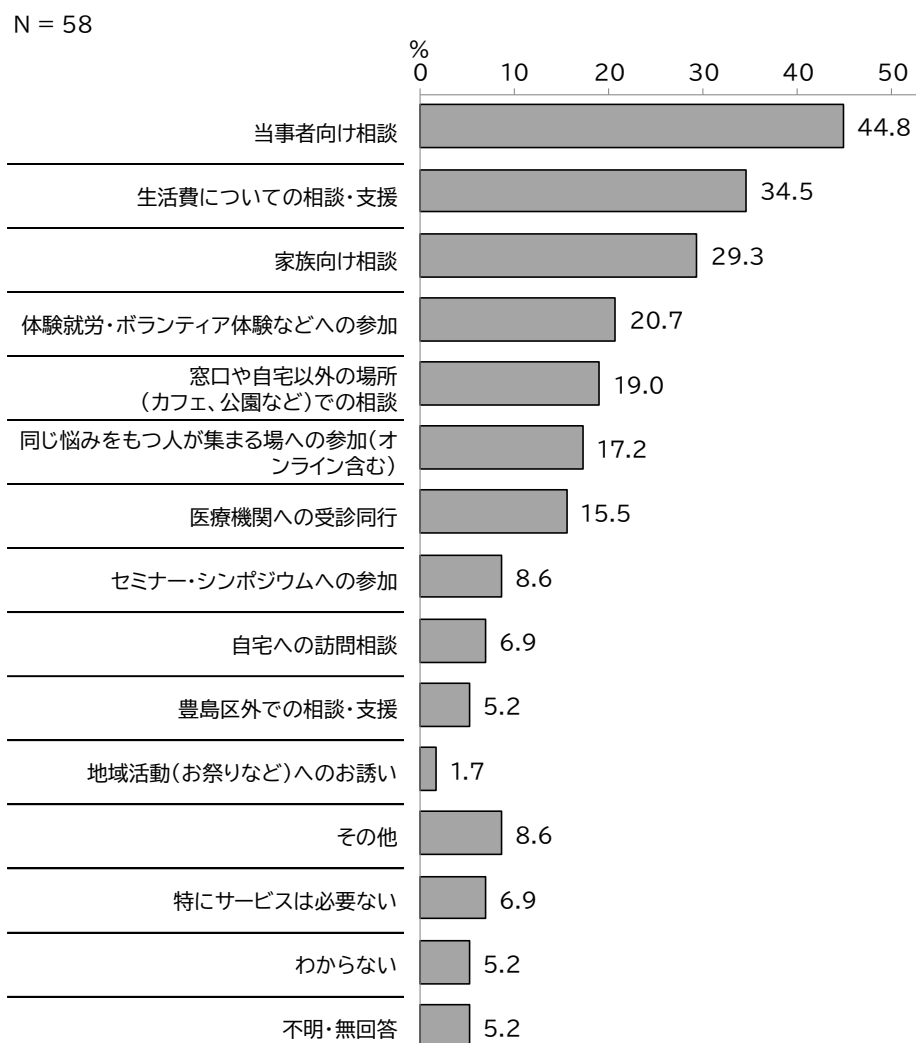
ひきこもり相談窓口（問24）については、82.8%の方が「知らない」と回答しています。一方、ひきこもり状態の方が「いる」世帯では、相談窓口を「知っている」（15.2%）が、ひきこもり状態の方が「いた」世帯や「いない」世帯より多くなっています。



(6) ひきこもり状態にある（あった）方で受けてたい（受けたかった）サービス

問3-1 ひきこもり状態にある方について、どのようなサービスを受けたいと思いますか。過去ひきこもり状態にあった方については、どのようなサービスを受けたかったか、お答えください。（〇はいくつでも）

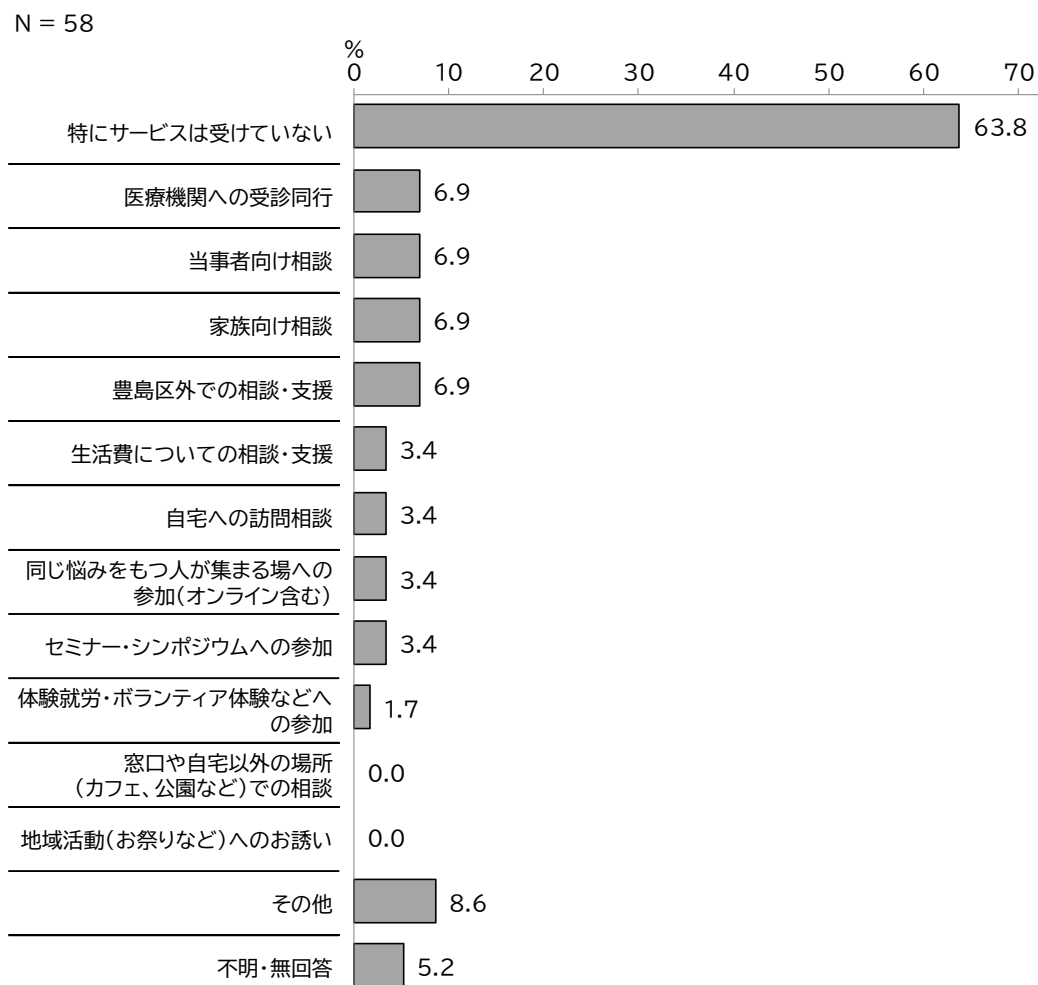
ひきこもり状態にある（あった）方について受けてたい（受けたかった）サービスは、「当事者向け相談」（44.8%）が最も多く、次いで「生活費についての相談・支援」（34.5%）、「家族向け相談」（29.3%）、と続いています。



(7) ひきこもり状態で受けている（受けていた）サービス

問3-2 ひきこもり状態にある方について、現在、どのようなサービスを受けていますか。過去ひきこもり状態にあった方については、どのようなサービスを受けていたか、お答えください。（〇はいくつでも）

ひきこもり状態の方がいる世帯で受けているサービスをみると、「特にサービスは受けていない」（63.8%）が最も多く、次いで「医療機関への受診同行」、「当事者向け相談」、「家族向け相談」、「豊島区外での相談・支援」（それぞれ6.9%）、と続いています。

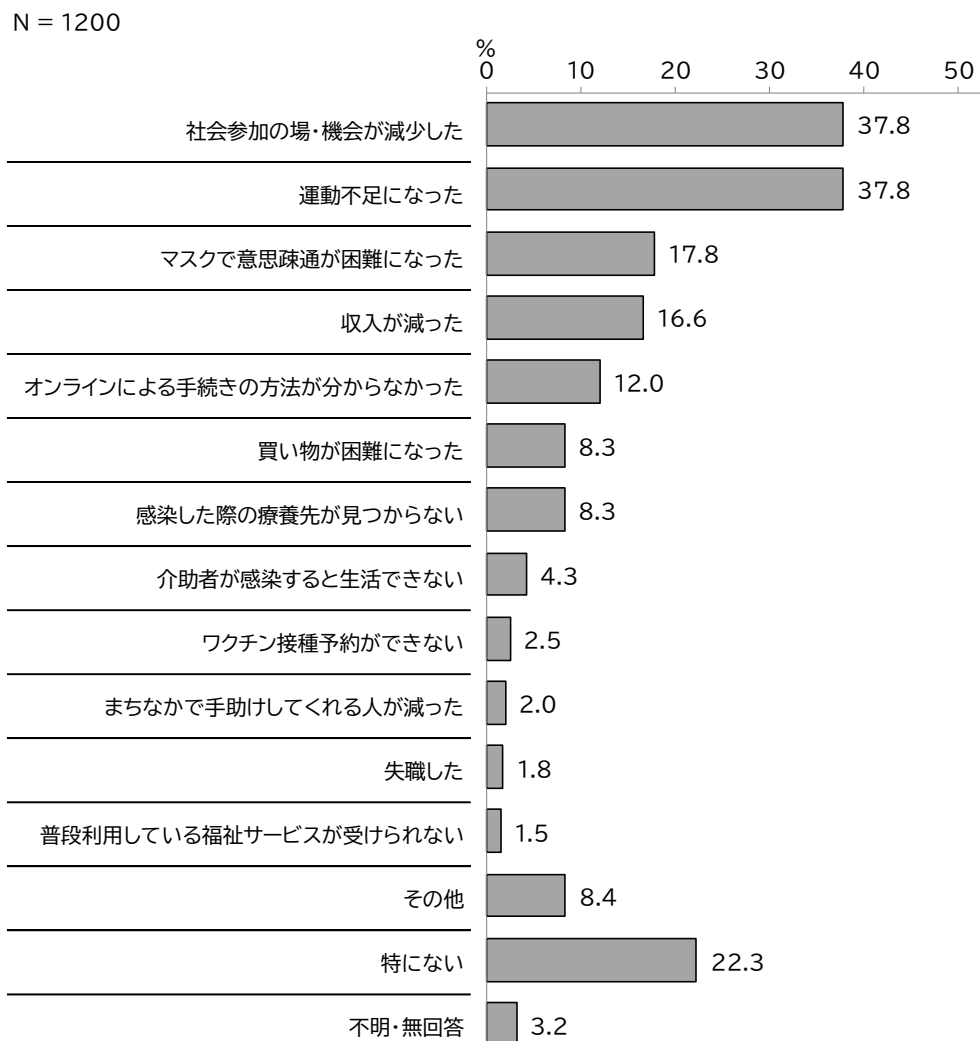


(8) 新型コロナウイルス感染症

問4 新型コロナウイルス感染症が拡大する中、新たな困りごととしてどのようなものがありますか。(〇は1つのみ)

新型コロナウイルス感染症が拡大する中での新たな困りごととしては、「社会参加の場・機会が減少した」と「運動不足になった」(37.8%)が最も多くなっています。

令和4年10月から11月にかけて、障害者等実態・意向調査を実施し、本調査と同一の設問にて調査を行いました。調査結果から、本調査と同様、回答率が多かった順に「社会参加の場・機会が減少した」、「運動不足になった」と続いています。回答率を比べると、本調査よりもそれぞれ約10ポイント低い状況がみられました。また、「介助者が感染すると生活ができない」と回答された方は、本調査よりも、約6ポイント高い結果がみられました。最後に、調査票種別で見ると、それぞれ最も多い項目は異なりますが、聴覚障害の方は「マスクで意思疎通が困難になった」が46.2%と最も多くなっています。



[参考：障害者等実態・意向調査結果との比較]

		全 体	コロナ禍で生じた新たな困りごと									
			社会参加の場・機会が減少した	買い物に困難になった	運動不足になった	オンラインによる手続きの方法が分からない	ワクチン接種予約ができない	収入が減った	失職した	マスクで意思疎通が困難になった	介護者が感染すると生活ができない	
本調査 全体	件 %	1200 100.0	454 37.8	100 8.3	454 37.8	144 12.0	30 2.5	199 16.6	22 1.8	213 17.8	51 4.3	
全 体	件 %	2140 100.0	595 27.8	209 9.8	547 25.6	186 8.7	51 2.4	195 9.1	48 2.2	222 10.4	226 10.6	
調査票種別	身体(計)	件 %	1161 100.0	253 21.8	134 11.5	300 25.8	122 10.5	29 2.5	95 8.2	21 1.8	119 10.2	138 11.9
	視覚障害	件 %	90 100.0	13 14.4	13 14.4	18 20.0	21 23.3	3 3.3	2 2.2	1 1.1	9 10.0	9 10.0
	聴覚障害	件 %	93 100.0	15 16.1	8 8.6	22 23.7	12 12.9	2 2.2	10 10.8	2 2.2	43 46.2	7 7.5
	平衡機能障害	件 %	21 100.0	5 23.8	1 4.8	4 19.0	2 9.5	-	2 9.5	-	2 9.5	3 14.3
	音声・言語・そ しゃく機能の障害	件 %	19 100.0	4 21.1	3 15.8	3 15.8	1 5.3	1 5.3	-	-	1 5.3	6 31.6
	肢体不自由	件 %	484 100.0	110 22.7	54 11.2	128 26.4	43 8.9	16 3.3	44 9.1	9 1.9	30 6.2	87 18.0
	内部障害	件 %	324 100.0	84 25.9	37 11.4	97 29.9	40 12.3	8 2.5	30 9.3	10 3.1	24 7.4	26 8.0
	知的	件 %	272 100.0	76 27.9	29 10.7	72 26.5	18 6.6	7 2.6	17 6.3	4 1.5	16 5.9	28 10.3
	精神	件 %	191 100.0	57 29.8	12 6.3	42 22.0	23 12.0	8 4.2	17 8.9	9 4.7	21 11.0	4 2.1
	難病	件 %	211 100.0	57 27.0	17 8.1	57 27.0	15 7.1	2 0.9	36 17.1	10 4.7	14 6.6	8 3.8
	障害児	件 %	305 100.0	152 49.8	17 5.6	76 24.9	8 2.6	5 1.6	30 9.8	4 1.3	52 17.0	48 15.7
				コロナ禍で生じた新たな困りごと								
		全 体	減 ま ち な か で 手 助 け し て く れ る 人 が	受 け ら れ な い 普 段 利 用 し て い る 福 祉 サ ー ビ ス が	い 感 染 し た 際 の 療 養 先 が 見 つ か ら な	そ の 他	特 に な し	不 明				
本調査 全体	件 %	1200 100.0	24 2.0	18 1.5	100 8.3	101 8.4	267 22.3	38 3.2				
全 体	件 %	2140 100.0	49 2.3	113 5.3	225 10.5	131 6.1	508 23.7	220 10.3				
調査票種別	身体(計)	件 %	1161 100.0	32 2.8	59 5.1	120 10.3	60 5.2	281 24.2	120 10.3			
	視覚障害	件 %	90 100.0	7 7.8	3 3.3	6 6.7	6 6.7	26 28.9	4 4.4			
	聴覚障害	件 %	93 100.0	1 1.1	3 3.2	11 11.8	5 5.4	17 18.3	3 3.2			
	平衡機能障害	件 %	21 100.0	1 4.8	3 14.3	1 4.8	-	6 28.6	2 9.5			
	音声・言語・そ しゃく機能の障害	件 %	19 100.0	-	3 15.8	2 10.5	1 5.3	3 15.8	3 15.8			
	肢体不自由	件 %	484 100.0	14 2.9	37 7.6	54 11.2	22 4.5	118 24.4	36 7.4			
	内部障害	件 %	324 100.0	3 0.9	6 1.9	40 12.3	21 6.5	84 25.9	18 5.6			
	知的	件 %	272 100.0	2 0.7	17 6.3	18 6.6	13 4.8	75 27.6	42 15.4			
	精神	件 %	191 100.0	4 2.1	13 6.8	28 14.7	19 9.9	46 24.1	19 9.9			
	難病	件 %	211 100.0	5 2.4	3 1.4	25 11.8	14 6.6	56 26.5	16 7.6			
	障害児	件 %	305 100.0	6 2.0	21 6.9	34 11.1	25 8.2	50 16.4	23 7.5			

[年代別]

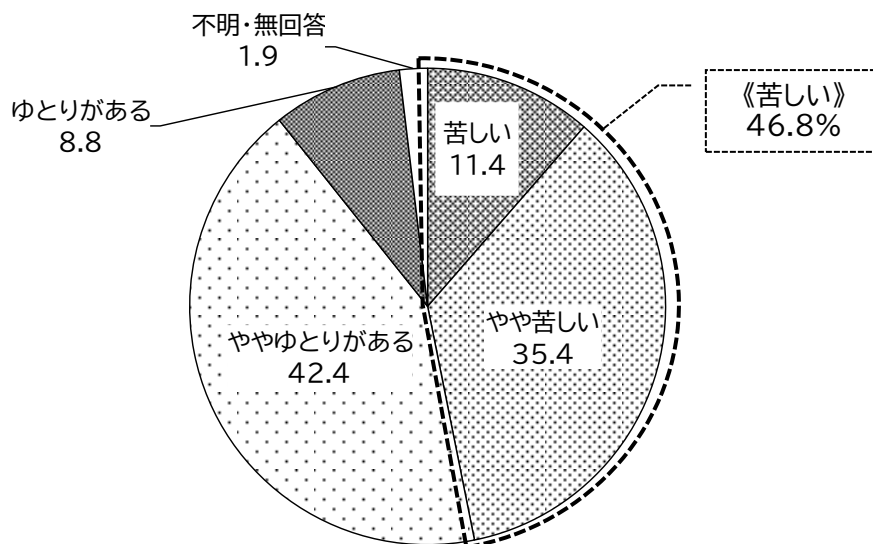
年齢別でみると、「社会参加の場・機会が減少した」については、「20～29歳」、「30～39歳」、「40～49歳」、「60～64歳」で最も多くなっています。「運動不足になった」は、「65～74歳」や「75歳以上」で5割近くと、他の世代に比べて高くなっています。

		Q4 新型コロナウイルス感染症															
		全体	社会参加の場・機会が減少した	買い物に困難になった	運動不足になった	オンラインによる手続きの方法が分からなかった	ワクチン接種予約ができない	収入が減った	失職した	マスクで意思疎通が困難になった	介助者が感染すると生活できかない	まちなかで手助けしてくれる人が減った	普段利用している福祉サービスが受けられない	感染した際の療養先が見つからない	その他	特になし	不明・無回答
全体	件数	1200	454	100	454	144	30	199	22	213	51	24	18	100	101	267	38
	割合(%)	100.0	37.8	8.3	37.8	12.0	2.5	16.6	1.8	17.8	4.3	2.0	1.5	8.3	8.4	22.3	3.2
33 年代	20歳未満	10	3	-	3	1	-	-	-	4	-	-	-	-	-	4	-
		100.0	30.0	-	30.0	10.0	-	-	-	40.0	-	-	-	-	-	40.0	-
	20～29歳	110	48	4	36	12	3	24	2	21	3	4	1	9	6	25	1
		100.0	43.6	3.6	32.7	10.9	2.7	21.8	1.8	19.1	2.7	3.6	0.9	8.2	5.5	22.7	0.9
	30～39歳	177	74	17	57	6	4	26	5	41	5	5	5	17	27	37	6
		100.0	41.8	9.6	32.2	3.4	2.3	14.7	2.8	23.2	2.8	2.8	2.8	9.6	15.3	20.9	3.4
	40～49歳	215	88	13	81	15	8	33	4	46	6	4	1	17	25	41	4
		100.0	40.9	6.0	37.7	7.0	3.7	15.3	1.9	21.4	2.8	1.9	0.5	7.9	11.6	19.1	1.9
50～59歳	202	59	12	69	27	10	49	4	32	12	4	3	21	23	46	3	
	100.0	29.2	5.9	34.2	13.4	5.0	24.3	2.0	15.8	5.9	2.0	1.5	10.4	11.4	22.8	1.5	
60～64歳	80	31	6	22	10	3	16	1	10	4	1	1	9	5	17	-	
	100.0	38.8	7.5	27.5	12.5	3.8	20.0	1.3	12.5	5.0	1.3	1.3	11.3	6.3	21.3	-	
65～74歳	195	79	15	91	41	1	34	3	32	6	2	3	11	7	49	3	
	100.0	40.5	7.7	46.7	21.0	0.5	17.4	1.5	16.4	3.1	1.0	1.5	5.6	3.6	25.1	1.5	
75歳以上	199	67	31	91	31	1	15	2	26	15	4	4	16	7	44	19	
	100.0	33.7	15.6	45.7	15.6	0.5	7.5	1.0	13.1	7.5	2.0	2.0	8.0	3.5	22.1	9.5	

(9) 暮らしの状況

問5 現在の暮らしの状況をどう感じていますか。(○は1つのみ)

現在の暮らしの状況について、42.4%の方が「ややゆとりがある」と回答しており、「ゆとりがある」(8.8%)と合わせた《ゆとりがある》と感じている方は51.2%となっています。一方「苦しい」(11.4%)と「やや苦しい」(35.4%)を合わせた《苦しい》と感じている方は46.8%となっています。

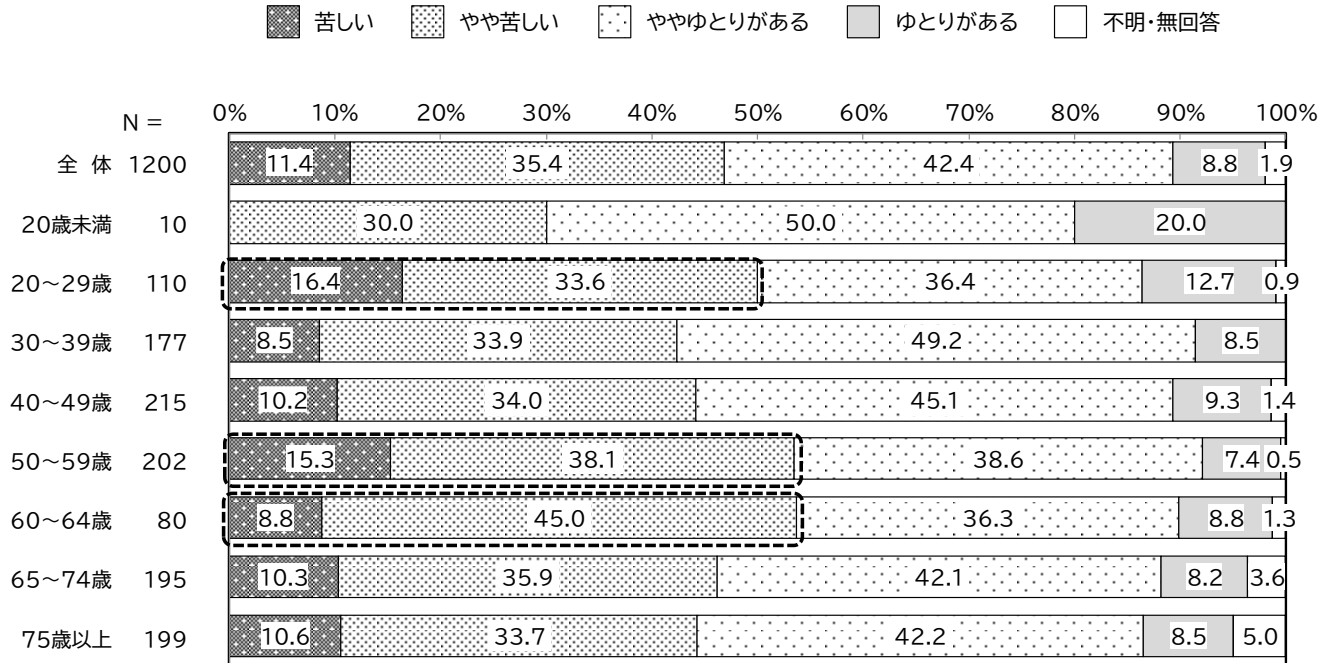


N = 1200

%

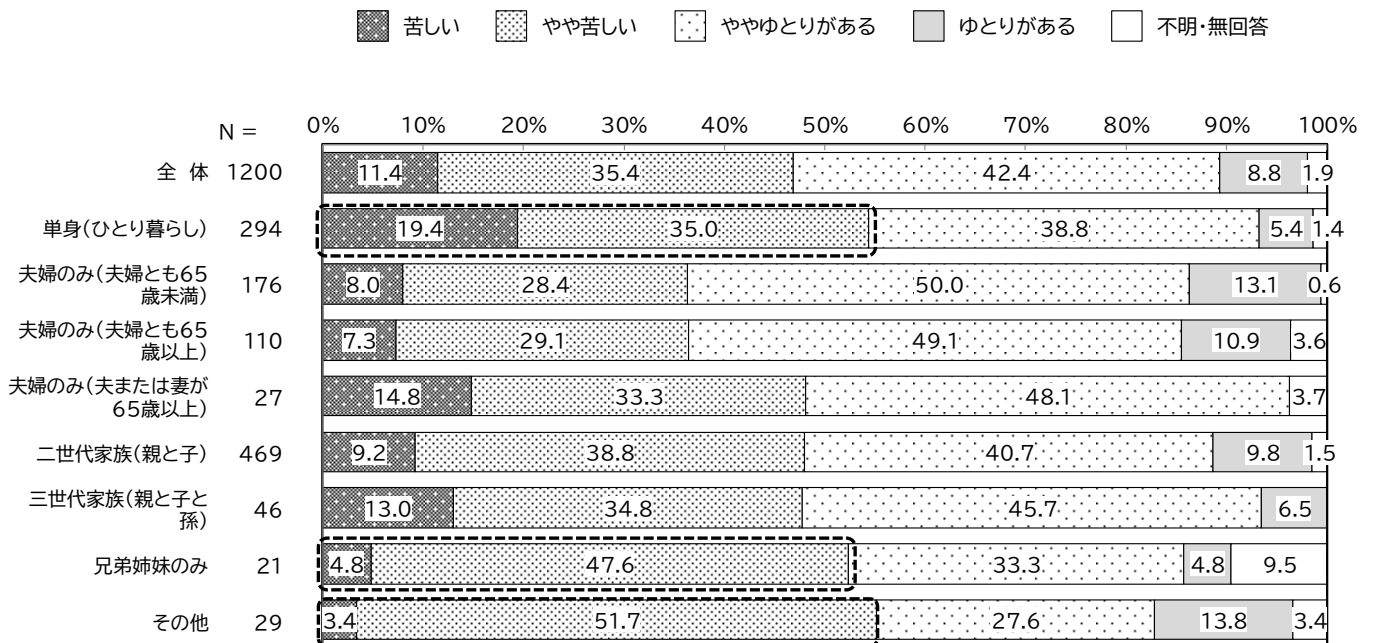
[年代別]

年代別でみると、《苦しい》と感じている方は、「60～64歳」（53.8%）が最も多く、次いで、「50～59歳」（53.4%）、「20～29歳」（50.0%）となっています。これらの年代は《苦しい》が《ゆとりがある》を上回っています。



[家族構成別]

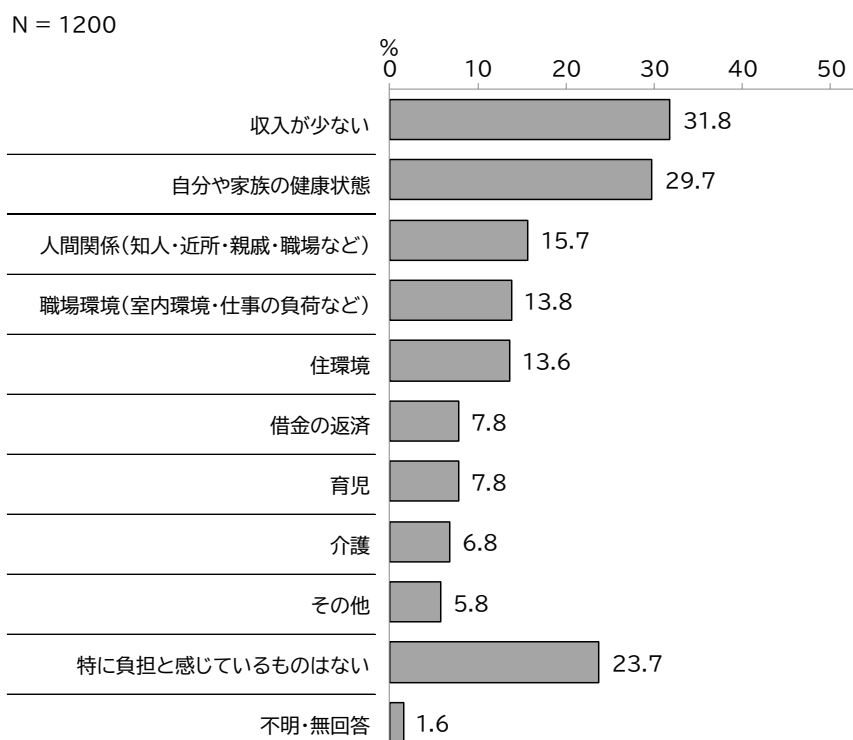
家族構成別でみると、「単身（ひとり暮らし）」（54.4%）、「兄弟姉妹のみ」（52.4%）、「その他」（55.1%）で《ゆとりがある》より《苦しい》が多くなっています。



(10) 暮らしの負担内容

問6 暮らしの中で負担が大きいと感じているものは何ですか。(〇はいくつでも)

暮らしの中で負担が大きいと感じているものは、「収入が少ない」(31.8%)が最も多く、次いで「自分や家族の健康状態」(29.7%)と続いています。一方「特に負担と感じているものはない」は23.7%となっています。



[年代別]

年代別でみると、「20～29歳」から「40～49歳」では、「収入が少ない」が最も多いのに対して、「50～59歳」以上の年代では「自分や家族の健康状態」が最も多くなっています。

		Q6 暮らしの負担内容											
		自分や家族の健康状態	育児	介護	収入が少ない	借金の返済	戚人間関係(知人・近所・親)	住環境	職場環境(室内環境・仕事の負荷など)	その他	特に負担と感じているものは	不明・無回答	
全体	件数	1200	356	93	81	381	94	188	163	166	70	284	19
	割合(%)	100.0	29.7	7.8	6.8	31.8	7.8	15.7	13.6	13.8	5.8	23.7	1.6
Q33 年代	20歳未満	10	1	-	1	2	-	1	-	1	1	4	-
		100.0	10.0	-	10.0	20.0	-	10.0	-	10.0	10.0	40.0	-
	20～29歳	110	16	2	1	54	12	29	11	22	5	24	-
		100.0	14.5	1.8	0.9	49.1	10.9	26.4	10.0	20.0	4.5	21.8	-
	30～39歳	177	39	34	3	59	12	31	37	34	13	39	1
		100.0	22.0	19.2	1.7	33.3	6.8	17.5	20.9	19.2	7.3	22.0	0.6
	40～49歳	215	45	41	8	65	19	38	26	49	14	48	3
		100.0	20.9	19.1	3.7	30.2	8.8	17.7	12.1	22.8	6.5	22.3	1.4
50～59歳	202	67	10	25	61	28	40	41	45	17	26	3	
	100.0	33.2	5.0	12.4	30.2	13.9	19.8	20.3	22.3	8.4	12.9	1.5	
60～64歳	80	26	-	9	24	7	9	5	6	5	25	-	
	100.0	32.5	-	11.3	30.0	8.8	11.3	6.3	7.5	6.3	31.3	-	
65～74歳	195	79	3	20	64	12	22	27	5	10	40	4	
	100.0	40.5	1.5	10.3	32.8	6.2	11.3	13.8	2.6	5.1	20.5	2.1	
75歳以上	199	80	1	13	50	4	18	14	3	4	74	8	
	100.0	40.2	0.5	6.5	25.1	2.0	9.0	7.0	1.5	2.0	37.2	4.0	

[家族構成別]

家族構成別でみると、「単身(ひとり暮らし)」や「兄弟姉妹のみ」の場合「収入が少ない」が最も多くなっています。

		Q6 暮らしの負担内容											
		自分や家族の健康状態	育児	介護	収入が少ない	借金の返済	戚人間関係(知人・近所・親)	住環境	職場環境(室内環境・仕事の負荷など)	その他	特に負担と感じているものは	不明・無回答	
全体	件数	1200	356	93	81	381	94	188	163	166	70	284	19
	割合(%)	100.0	29.7	7.8	6.8	31.8	7.8	15.7	13.6	13.8	5.8	23.7	1.6
Q34 家族構成	単身(ひとり暮らし)	294	87	2	7	121	26	65	52	44	22	58	3
		100.0	29.6	0.7	2.4	41.2	8.8	22.1	17.7	15.0	7.5	19.7	1.0
	夫婦のみ(夫婦とも65歳未満)	176	38	3	5	47	10	33	19	28	14	50	2
		100.0	21.6	1.7	2.8	26.7	5.7	18.8	10.8	15.9	8.0	28.4	1.1
	夫婦のみ(夫婦とも65歳以上)	110	45	-	7	28	3	10	9	4	3	37	4
		100.0	40.9	-	6.4	25.5	2.7	9.1	8.2	3.6	2.7	33.6	3.6
	夫婦のみ(夫または妻が65歳以上)	27	11	1	3	5	2	5	4	1	-	5	2
		100.0	40.7	3.7	11.1	18.5	7.4	18.5	14.8	3.7	-	18.5	7.4
	二世世代家族(親と子)	469	137	77	44	135	46	62	65	71	27	101	6
		100.0	29.2	16.4	9.4	28.8	9.8	13.2	13.9	15.1	5.8	21.5	1.3
三世世代家族(親と子と孫)	46	16	8	7	14	2	4	3	8	1	14	-	
	100.0	34.8	17.4	15.2	30.4	4.3	8.7	6.5	17.4	2.2	30.4	-	
兄弟姉妹のみ	21	8	-	1	8	-	2	6	2	1	7	-	
	100.0	38.1	-	4.8	38.1	-	9.5	28.6	9.5	4.8	33.3	-	
その他	29	4	-	2	13	3	5	3	6	1	5	1	
	100.0	13.8	-	6.9	44.8	10.3	17.2	10.3	20.7	3.4	17.2	3.4	

4 住民同士の支え合いや助け合い

地域住民同士の支え合いや助け合いの状況を整理するとともに、調査結果から見受けられる課題を抽出しました。

■結果の概要

【地域や人とのつながりの状況】

地域では「あいさつをする程度」の比較的軽い近所付き合いが全体の6割を占め、「ほとんど付き合いがない」方は、前回調査との比較で増加傾向にあります。特に「単身（ひとり暮らし）」では「地域との付き合いがない」、「相談する人がいない」方の割合が他の属性より高い傾向があります。

【支え合いや助け合いの状況】

住民同士の支え合いや助け合いの必要性は8割の方が感じていますが、前回、前々回調査と比べると、必要だと思う方の割合が減少しています。

支え合いや助け合いに必要な取り組みとしては、「気軽に集まれる場所をつくること」が求められており、また、行政からの支援への期待が高まる傾向も見られます。

一方、住民同士の支え合い等を必要としない理由としては、「他人との関わりをもたなくても生活に支障がない」、「友人や知人との結びつきがあれば十分」などが挙げられています。

生活に困りごとを抱えている方に対する手助けをしている方は3割で、その多くは「あいさつや声掛け」となっています。一方、手助けをしない理由としては、「困りごとを抱えている方がいるかわからない」、「手助けを求めているかわからない」が多くなっています。

■調査結果から見受けられる課題について

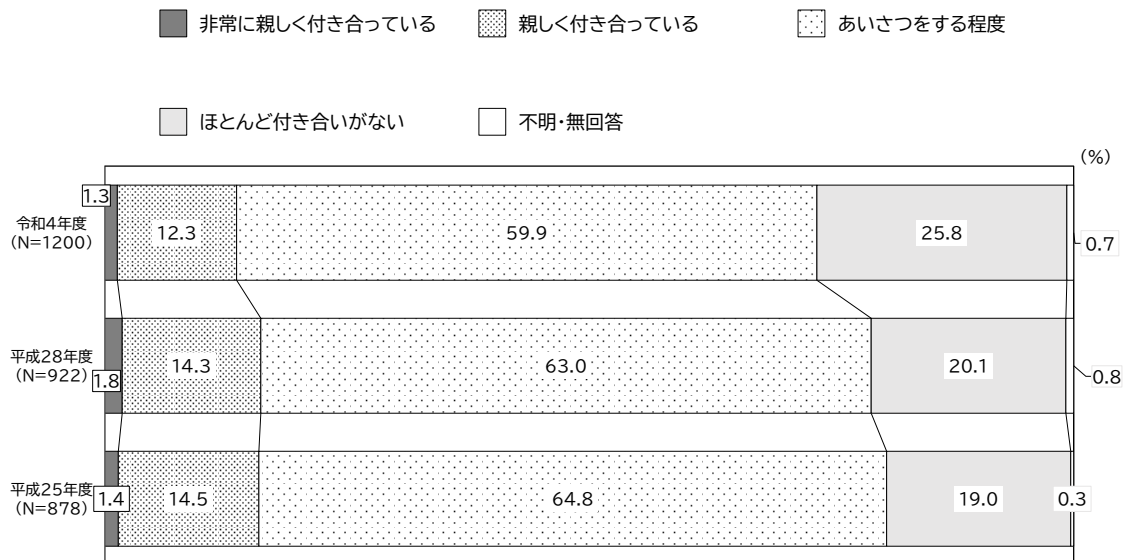
- ・地域付き合いが希薄化する中で、手助けを求める方に支援や手助けを届けられる環境づくり
- ・若い世代（20代等）、単身（ひとり暮らし）、共同住宅（賃貸マンション・アパート・社宅等）住まいの方など、地域とのつながりが少ない方々が地域とつながるための支え合い等のあり方

(1) 近所付き合いの程度

問7 日頃、ご近所の方との程度お付き合いをしていますか。(○は1つのみ)

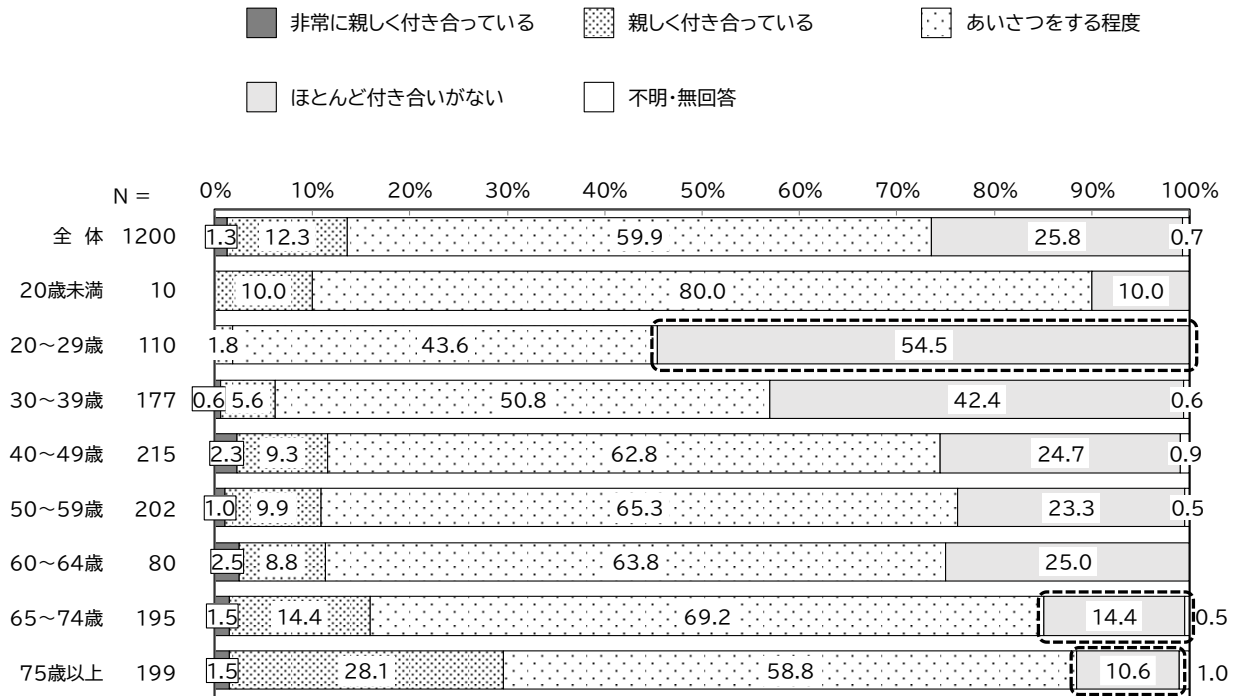
近所の方とは「あいさつをする程度」と回答した方が59.9%を占めています。

前回調査と比べると、「あいさつをする程度」で3.1ポイント、「親しく付き合っている」で2.0ポイント、「非常に親しく付き合っている」で0.5ポイント回答した割合が減り、「ほとんど付き合いがない」が5.7ポイント増えています。



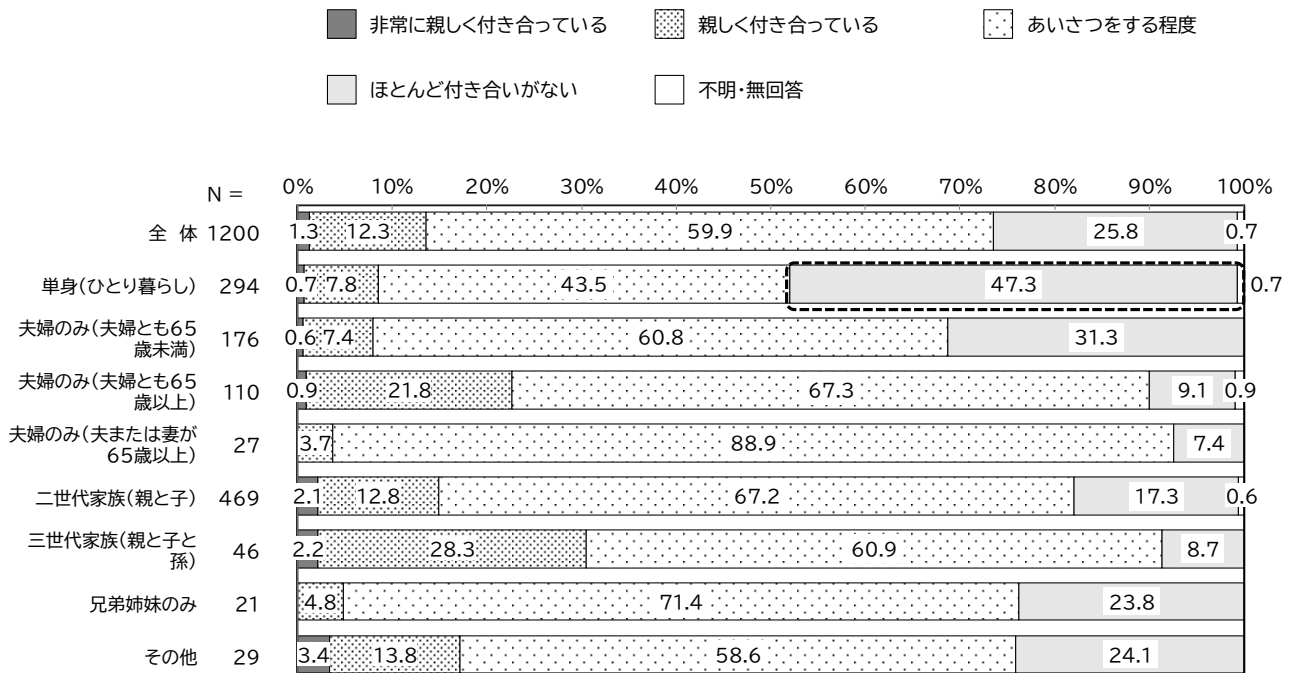
[年代別]

年代別でみると、「ほとんど付き合いがない」は、「20～29歳」で最も多く、5割を超えます。「65～74歳」、「75歳以上」になると、その割合は1割台まで減少しています。



[家族構成別]

家族構成別でみると、「ほとんど付き合いがない」は、「単身（ひとり暮らし）」(47.3%)で最も多くなっています。



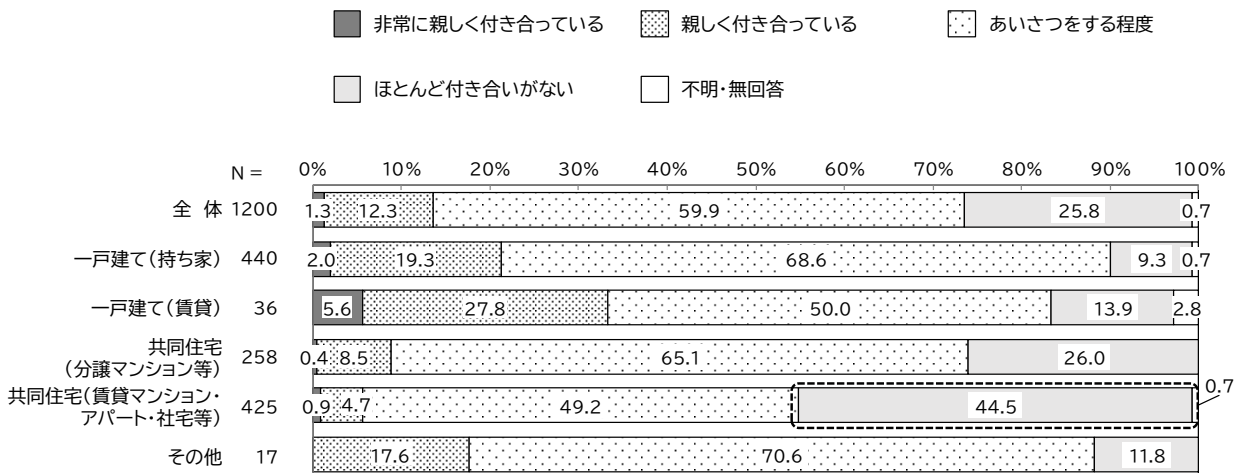
[家族構成別（単身（ひとり暮らし））・年代別]

家族構成のうち、「単身（ひとり暮らし）」を年代別にみると、年代が下がるほど「ほとんど付き合いがない」と回答する割合が高く、逆に年代が上がっていくほど「あいさつをする程度」と回答する割合が高くなっています。

単身(ひとり暮らし)		全 体	Q7 近所づきあいの程度				
			合非常 つに親 ていしく い親 るしく 付付 き合 き合 つて い	る親 しく 付 き 合 つ て い	あい さ つ を す る 程 度	なほ と ん ど 付 き 合 い が	不 明 ・ 無 回 答
全 体		294 100.0	2 0.7	23 7.8	128 43.5	139 47.3	2 0.7
Q 3 3 年 代	20歳未満	-	-	-	-	-	-
	20～29歳	49 100.0	-	1 2.0	11 22.4	37 75.5	-
	30～39歳	43 100.0	-	1 2.3	13 30.2	29 67.4	-
	40～49歳	40 100.0	-	-	12 30.0	27 67.5	1 2.5
	50～59歳	46 100.0	-	-	26 56.5	20 43.5	-
	60～64歳	16 100.0	-	-	7 43.8	9 56.3	-
	65～74歳	41 100.0	1 2.4	4 9.8	24 58.5	11 26.8	1 2.4
	75歳以上	59 100.0	1 1.7	17 28.8	35 59.3	6 10.2	-

[住居の種類別]

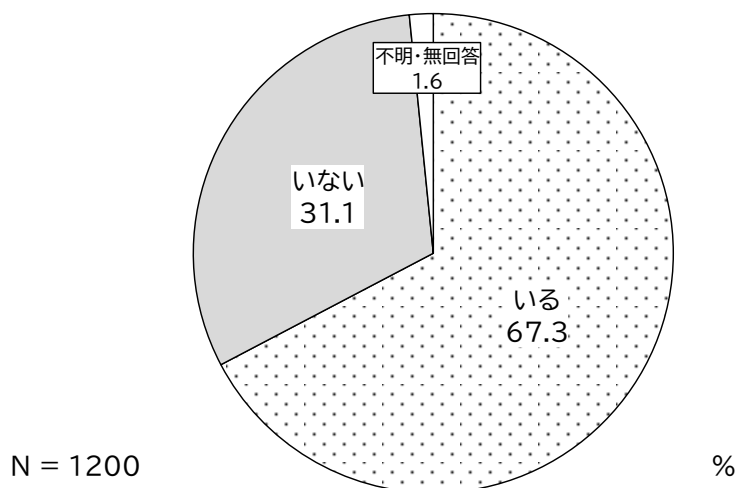
住居の種類別でみると、「ほとんど付き合いがない」は、「共同住宅（賃貸マンション・アパート・社宅等）」で44.5%と多くなっています。



(2) 相談できる人の有無

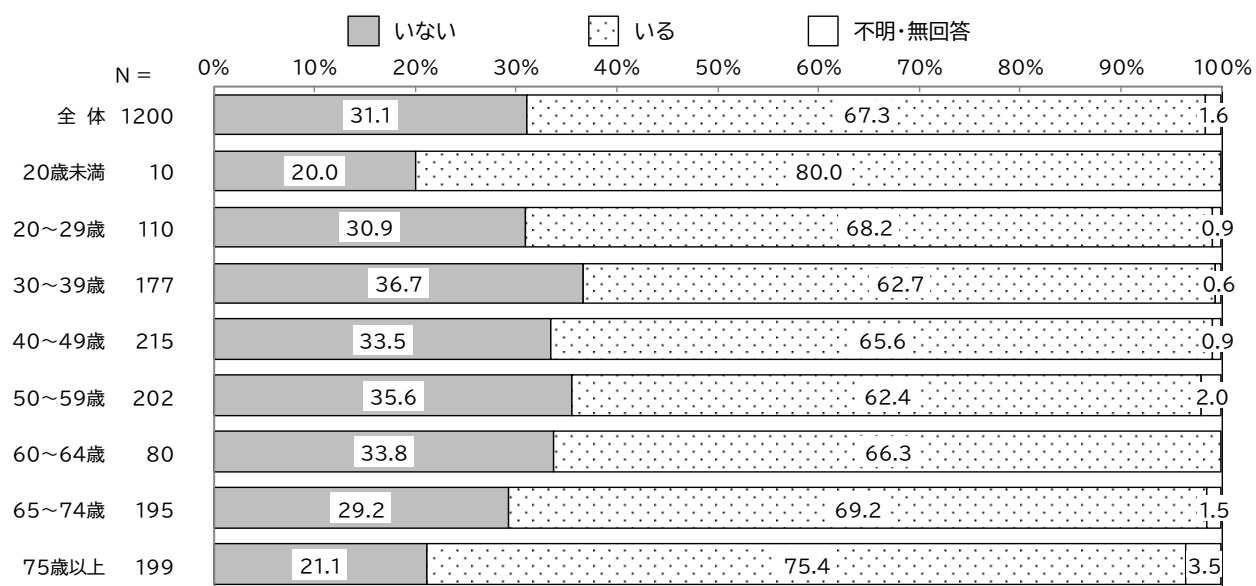
問8 身近に相談できる人はいますか。(〇は1つのみ)

身近に相談できる人は、67.3%の方が「いる」と回答しています。一方「いない」は31.1%となっています。



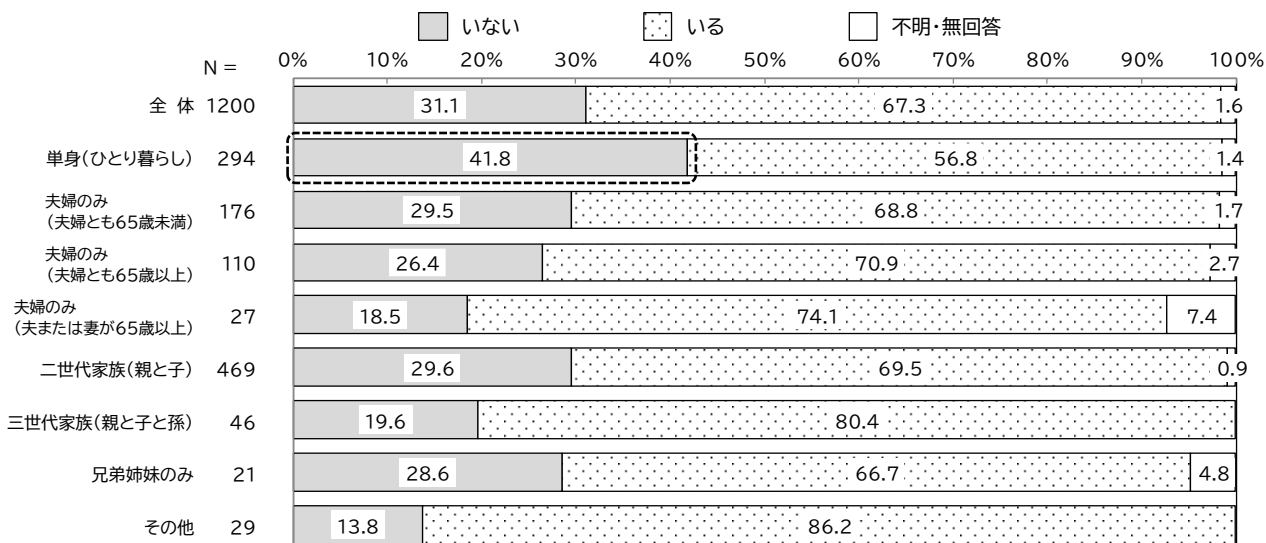
[年代別]

年代別でみると、身近に相談できる人が「いない」は、「30～39歳」(36.7%)で最も多くなっていますが、「20～29歳」から「65～74歳」までの年代で「いない」が約3割を占めています。



[家族構成別]

家族構成別でみると、身近に相談できる人が「いない」は、「単身（ひとり暮らし）」（41.8%）で最も多くなっています。



[家族構成別（単身（ひとり暮らし））・年代別]

家族構成のうち、「単身（ひとり暮らし）」を年代別にみると、身近に相談できる人が「いる」は、「75歳以上」（76.3%）が最も多くなっています。一方、身近に相談できる人が「いない」は、「40～49歳」（55.0%）が最も多く、その年代を中心に年代が下がるほど、また上がるほど「相談できる人がいない」と回答する割合が低くなっています。

単身(ひとり暮らし)	全体	Q8 相談できる人の有無		
		いる	いない	不明・無回答
全体	294	167	123	4
	100.0	56.8	41.8	1.4
Q33 年代	20歳未満	-	-	-
	20～29歳	49	28	20
		100.0	57.1	40.8
	30～39歳	43	21	22
		100.0	48.8	51.2
	40～49歳	40	17	22
		100.0	42.5	55.0
	50～59歳	46	22	24
	100.0	47.8	52.2	
60～64歳	16	9	7	
	100.0	56.3	43.8	
65～74歳	41	25	15	
	100.0	61.0	36.6	
75歳以上	59	45	13	
	100.0	76.3	22.0	

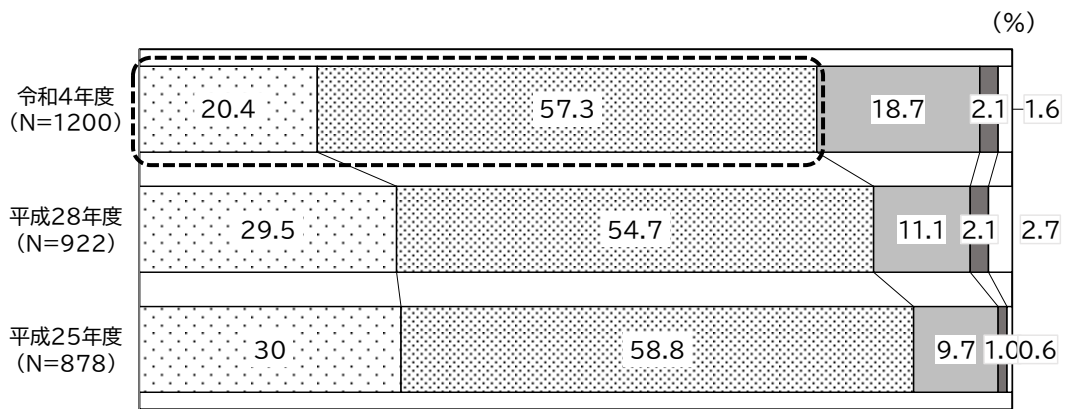
(3) 支え合いや助け合いの必要性

問9 地域で起こるさまざまな生活の課題について、住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりすることは必要だと思いますか。(〇は1つのみ)

住民同士の支え合いや助け合いについては、57.3%の方が「まあまあ必要だと思う」と回答しており、「とても必要だと思う」(20.4%)と合わせた《必要だと思う》層は約8割となっています。

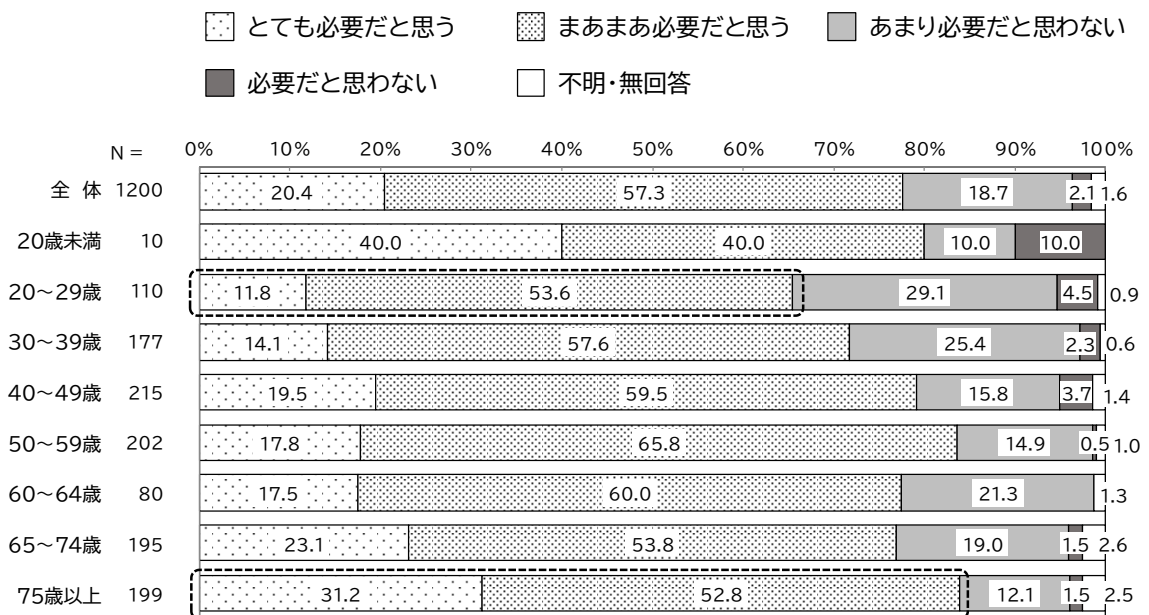
前回調査と比べると、《必要だと思う》は6.5ポイント減少しており、《あまり必要だと思わない》は7.6ポイント増加しています。

-
-



[年代別]

年齢別でみると、多くの年代で《必要だと思う》が7割以上を占めています。特に「75歳以上」(84.0%)が最も多くなっています。一方、「20～29歳」では《必要だと思う》が65.4%で、他の世代と比べて少なくなっています。



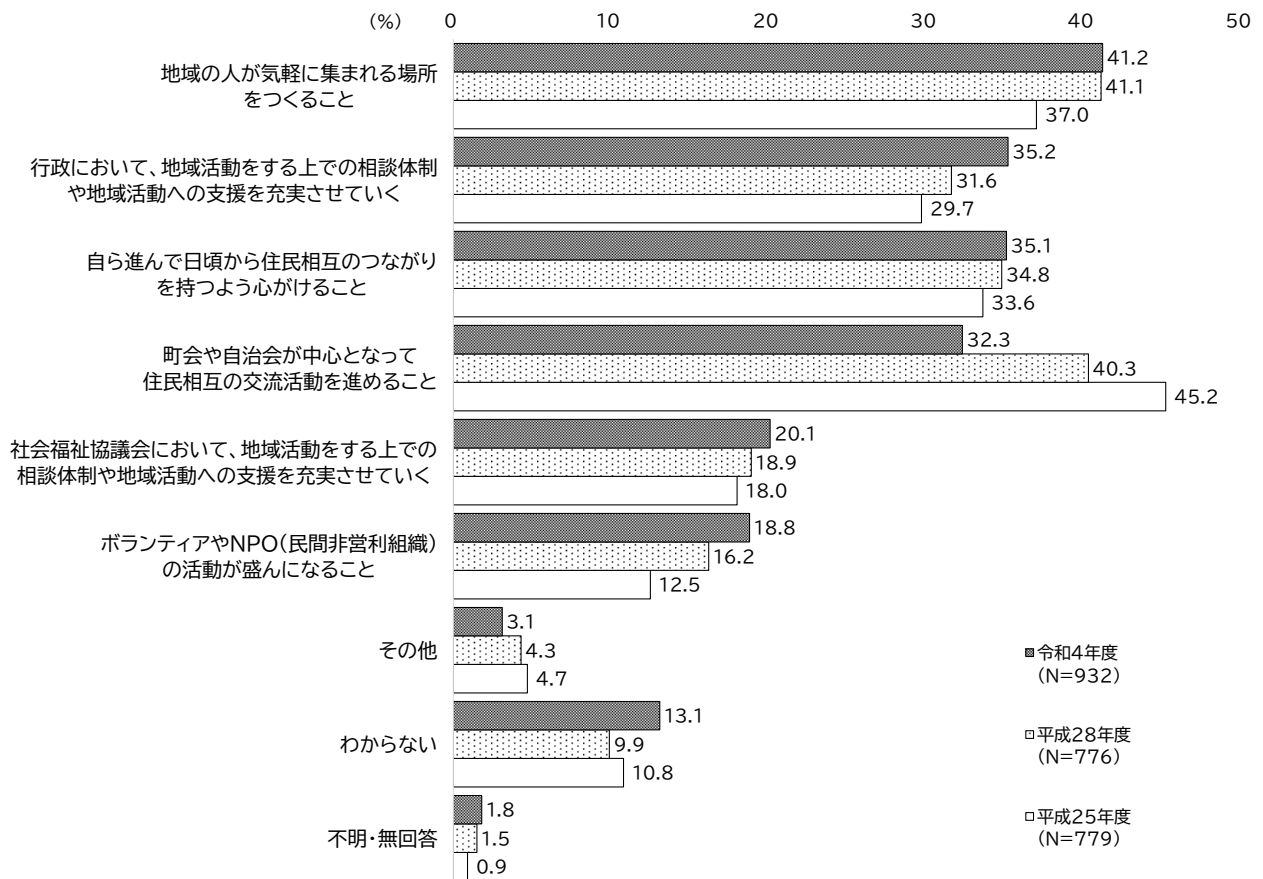
(4) 支え合いや助け合いに必要な取り組み

問9-1 住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりするためには、どのような取り組みが特に必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりするために必要な取り組みとしては、「地域の人が気軽に集まれる場所をつくること」(41.2%)が最も多く、次いで「行政において、地域活動をする上での相談体制や地域活動への支援を充実させていく」(35.2%)、「自ら進んで日ごろから住民相互のつながりをもつよう心がけること」(35.1%)と続いています。

前回調査と比べると概ね傾向は同じですが、「町会や自治会が中心となって住民相互の交流活動を進めること」については、前回から8.0ポイント減り、全項目の中で最も減少しました。前々回と比べても徐々に減る傾向にあります。

一方、「行政において、地域活動をする上での相談体制や地域活動への支援を充実させていく」は、前回から3.6ポイント増えています。



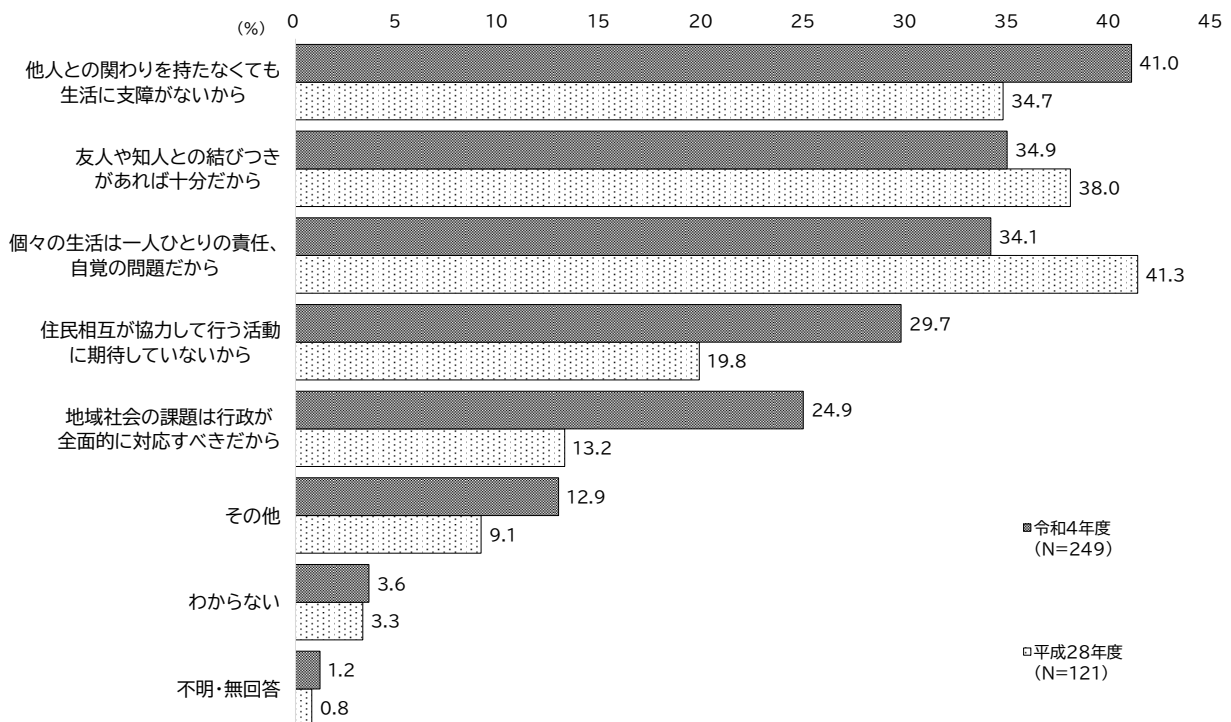
(5) 支え合いや助け合いが必要ない理由

問9-2 住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりする必要がないと思うのはなぜですか。(〇はいくつでも)

住民同士が自主的に支え合ったり、助け合ったりする必要がないと思う理由としては、「他人との関わりをもたなくても生活に支障がないから」(41.0%)が最も多く、次いで「友人や知人との結びつきがあれば十分だから」(34.9%)、「個々の生活は一人ひとりの責任、自覚の問題だから」(34.1%)と続いています。

前回調査と比べると、前回最も回答が多かった「個々の生活は一人ひとりの責任、自覚の問題だから」が7.2ポイント減りました。一方、「他人との関わりをもたなくても生活に支障がないから」は、逆に6.3ポイント増えています。

また、「地域社会の課題は行政が全面的に対応すべきだから」は、前回と比べて11.7ポイント増加し、全項目中で最もポイントが増加しました。これは、前回と比べて、回答者の年齢層が全体的に若年化したこと、特に「40～49歳」や「50～59歳」で回答した方の割合が増えたことが一因と見られます。(年代別比較参照)



参考：前回調査との年代別比較

[今回（令和4年度）の結果]

	全体	Q9.2 支え合いや助け合いが必要ない理由							
		地域社会の課題は行政が全面的に対応すべきだから	他人との関わりをもちたなくても生活に支障がないから	個々の生活は一人ひとりの責任、自覚の問題だから	住民相互が協力して行う活動に期待していないから	友人や知人との結びつきがあれば十分だから	その他	わからない	不明・無回答
全体	249 100.0	62 24.9	102 41.0	85 34.1	74 29.7	87 34.9	32 12.9	9 3.6	3 1.2
Q33 年代	20歳未満	2 100.0	-	2 100.0	2 100.0	1 50.0	2 100.0	-	-
	20～29歳	37 100.0	10 27.0	17 45.9	10 27.0	13 35.1	18 48.6	6 16.2	2 5.4
	30～39歳	49 100.0	11 22.4	22 44.9	8 16.3	14 28.6	22 44.9	5 10.2	2 4.1
	40～49歳	42 100.0	15 35.7	13 31.0	14 33.3	11 26.2	11 26.2	9 21.4	2 4.8
	50～59歳	31 100.0	8 25.8	8 25.8	10 32.3	13 41.9	8 25.8	5 16.1	-
	60～64歳	17 100.0	2 11.8	10 58.8	5 29.4	6 35.3	3 17.6	1 5.9	1 5.9
	65～74歳	40 100.0	7 17.5	15 37.5	22 55.0	9 22.5	8 20.0	4 10.0	2 5.0
	75歳以上	27 100.0	9 33.3	13 48.1	12 44.4	7 25.9	14 51.9	1 3.7	-

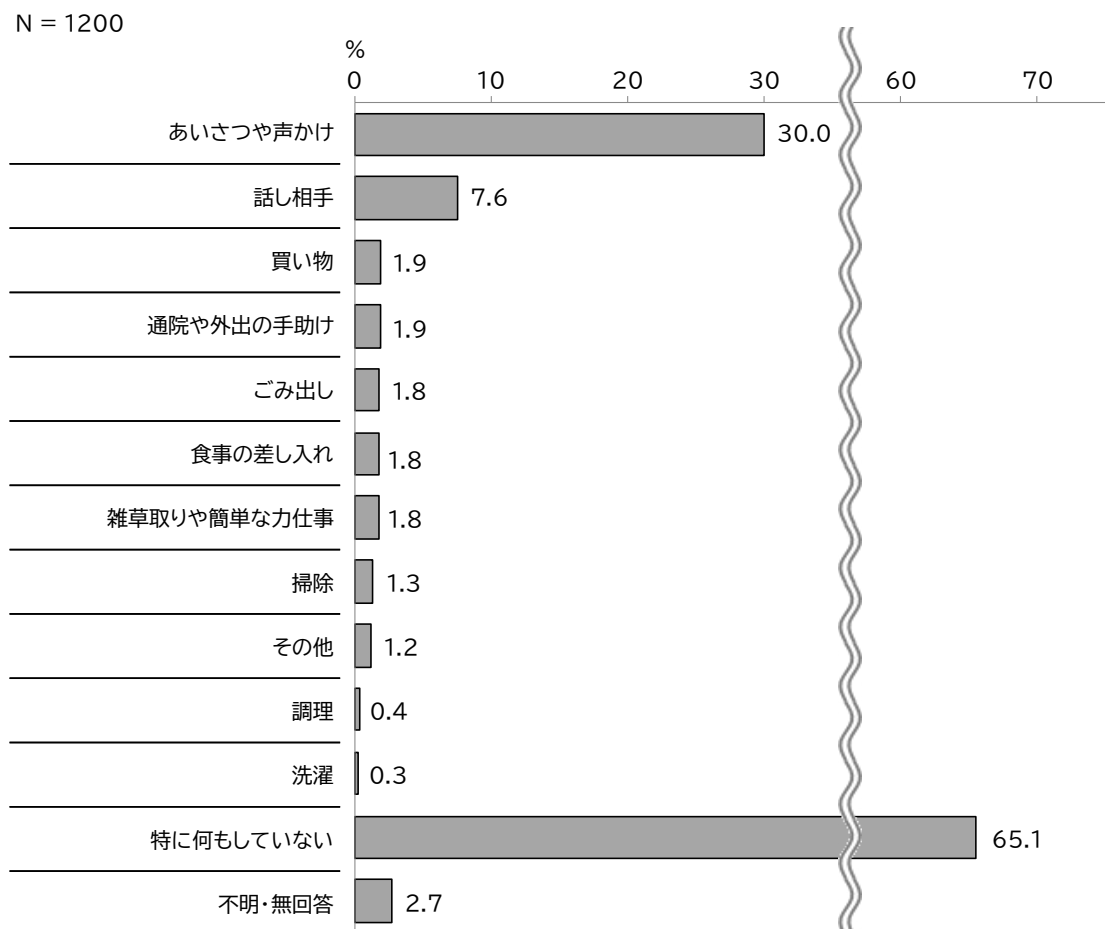
[前回（平成28年度）の結果]

	全体 (件数)	支え合いや助け合いが必要ない理由							
		地域社会の課題は行政が全面的に対応すべきだから	他人との関わりをもちたなくても生活に支障がないから	個々の生活は一人ひとりの責任、自覚の問題だから	住民相互が協力して行う活動に期待していないから	友人や知人との結びつきがあれば十分だから	その他	わからない	不明・無回答
全体	121	13.2	34.7	41.3	19.8	38	9.1	3.3	3
年代	20歳代	11	27.3	54.5	9.1	-	45.5	-	-
	30歳代	18	22.2	38.9	33.3	16.7	50.0	16.7	-
	40歳代	21	-	52.4	47.6	23.8	38.1	19	-
	50歳代	9	33.3	33.3	33.3	44.4	11.1	11.1	-
	60歳代	32	12.5	31.3	46.9	21.9	31.3	6.3	3.1
	70歳以上	27	3.7	14.8	48.1	14.8	44.4	3.7	7.4

(6) 手助けしていること

問 10 高齢者や障害者、妊婦、育児中、介護中、外国籍の方など、近所にお住まいで生活に困りごとを抱えている方に対して、何か手助けしていることはありますか。
(〇はいくつでも)

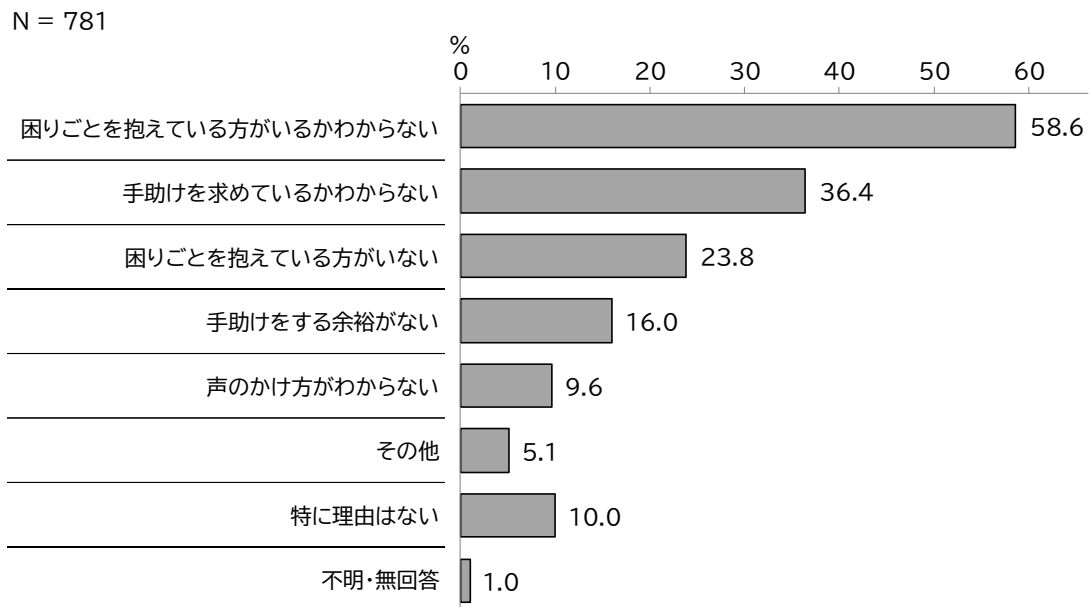
近隣の高齢者等の家庭に対して手助けしていることについては、「あいさつや声かけ」(30.0%)が最も多く、次いで「話し相手」(7.6%)と続いています。一方、「特に何もしていない」は65.1%となっています。



(7) 手助けしていない理由

問 10-1 特に何もしていない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

特に手助けしていない理由としては、「困りごとを抱えている方がいるかわからない」(58.6%)が最も多く、次いで「手助けを求めているかわからない」(36.4%)、「困りごとを抱えている方がいない」(23.8%)と続いています。



5 地域での活動

地域での活動状況を把握するとともに、調査結果から見受けられる課題を抽出し、整理しました。

■結果の概要

【地域活動やボランティア活動の現状】

参加している活動は年代によって違いがあり、「町会・自治会の活動」は75歳以上、「子ども会・PTAの活動」は40歳代で多くなっています。一方、6割以上の区民が参加していない状況にあります。特に30代までの若い世代は9割程度が参加していない状況です。参加しない理由としては、「仕事の忙しさ」が最も多いものの、前回と比べると「地域活動に興味がなかったから」と回答した方の割合が増えています。

【今後の地域活動やボランティア活動に向けて】

今後の参加意向については、「興味のある活動があれば参加したい」と回答した方が5割に上ります。興味のある活動で多いのは「運動・スポーツ・文化に関する活動支援」ですが、年代別・居住地域別に関心のある活動は異なっています。一方、前回調査と比べると「町会・自治会活動」と「防災活動や災害時支援活動」への興味は低下傾向にあります。参加促進のために必要なのは、「参加方法や活動の具体的内容に関する情報提供や紹介」が多くなっています。

【災害発生時の対応について】

災害発生時に、「一人で避難できる」方は約8割です。一方、「一人で避難できない」方は1割、そのうち「一人で避難できず、周りに助けてくれる人もいない」方は約3%（4名が回答）となっています。

「一人で避難できず、周りに助けてくれる人もいない」方の内訳を詳しくみると、家族構成別では「単身（ひとり暮らし）」、住居の種類別では「共同住宅（賃貸マンション・アパート・社宅等）」の方が多くなっています。年代別でみると高齢者が占める割合が3割と多くなっていますが、「20～29歳」も2割を占めています。また、「一人で避難できず、周りに助けてくれる人もいない」方の5割は「身近に相談できる人がいない」と答えています。

災害時に支援を必要とする方への支援策としては、「災害時に支援を必要とする人を地域で把握しておく」が7割と最も高くなっています。

災害時にできる手助けや対応については、年代、家族構成、居住地域、住居の種類を問わず「安否確認や避難情報等の声掛け」はできるものの、「避難所生活での身の回りの世話までできる」などの少し踏み込んだ支援をできる人が少ない状況です。災害時に「自分のことで精一杯で、手助けすることが難しい」と回答した方は「20～29歳」や「75歳以上」に比較的多くなっています。

■調査結果から見受けられる課題について

【地域活動やボランティア活動について】

- ・興味関心を持てる地域活動・ボランティア活動の創出
- ・参加の情報や周りからの誘いといった活動のきっかけづくり
- ・今の時代に合った地域活動やボランティア活動の展開（区民が関心を持てる活動を中心に参加者を増やすだけでいいのか。停滞傾向にある町会・自治会活動など地域づくりの面から期待される役割を今後どう考えるか。）

【災害発生時の対応について】

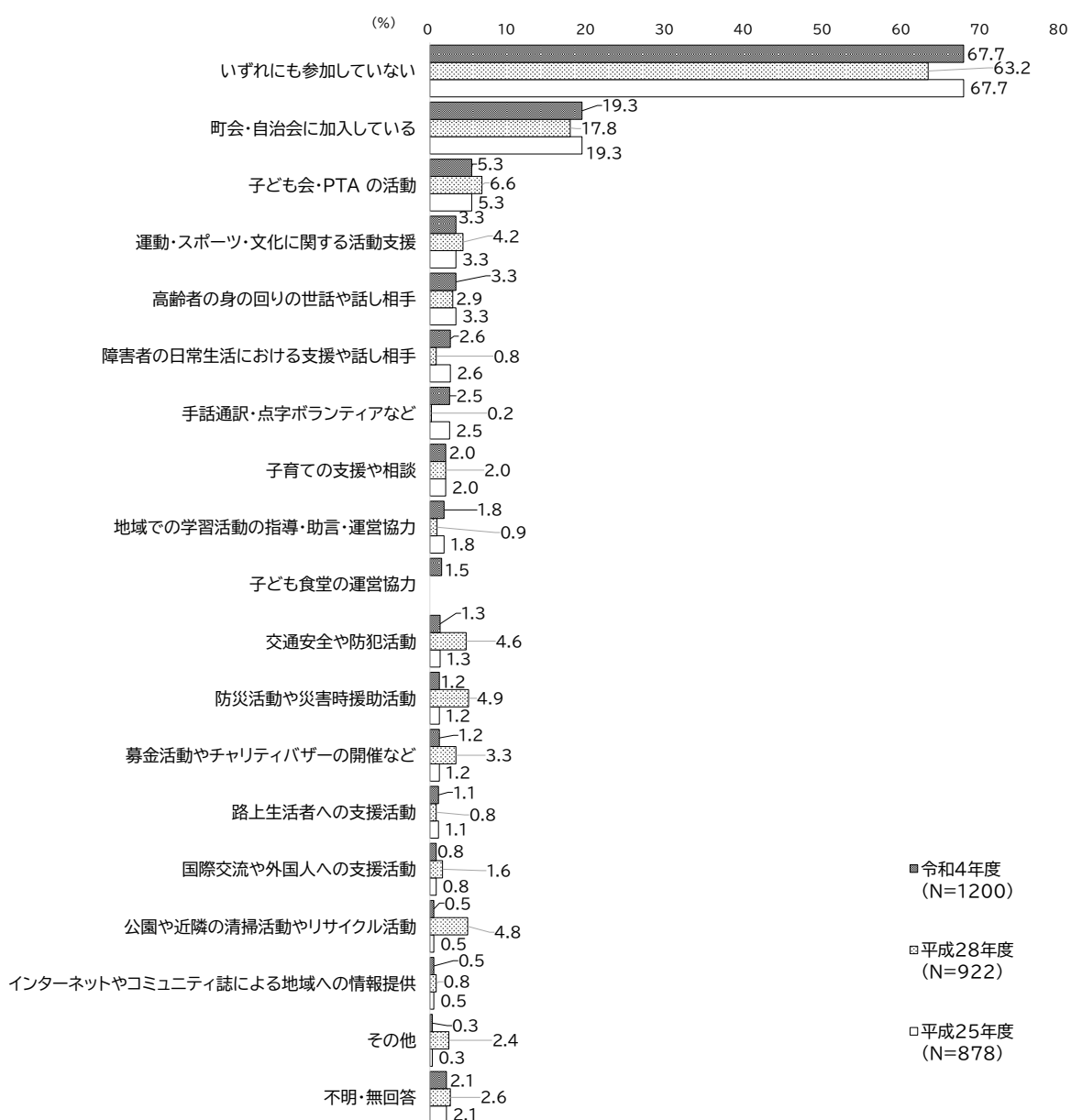
- ・災害時の避難が困難で孤立する可能性がある方への対応（高齢者に加え、単身者や共同住宅住まいの方、20代の若い世代も対象となる）
- ・また、孤立する可能性がある方に対しては、安否確認や避難情報等の声掛け等の意識の高さを今後も継続しつつ、支援を必要とする方の情報を地域で把握したり、支援を必要とする方の世話などができる人材や環境づくりなどを進めたりすることで、いざという時に支え合える関係をつくることが重要

(1) 地域活動への参加経験

問 11 過去1年くらいの間に、地域活動やボランティア活動に参加したことがありますか。(〇は1つのみ)

地域活動への参加経験については、「町会・自治会に加入している」(19.3%)が最も多く、次いで「子ども会・PTAの活動」(5.3%)と続いています。一方で、「いずれにも参加していない」は67.7%となっています。

前回と比べると、「いずれにも参加していない」は4.5ポイント増えました。



[年代別]

年代別でみると、「町会・自治会に加入している」は「75歳以上」で33.2%であり、年代が上がるにつれて加入している人が多くなっています。「子ども会・PTAの活動」は「40～49歳」で17.7%と多くなっています。一方、「いずれにも参加していない」は、「20歳未満」、「20～29歳」、「30～39歳」で9割程度と多くなっています。

年代	全体	Q11 地域活動への参加経験																			
		町会・自治会に加入している	子ども会・PTAの活動	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	高齢者の身の回りの世話やし相手	障害者の日常生活における支援やし相手	手話通訳・点字ボランティアなど	子育ての支援や相談	地域での学習活動の指導・助言・運営協力	子ども食堂の運営協力	交通安全や防犯活動	防災活動や災害時支援活動	募金活動やチャリティイベントの開催など	路上生活者への支援活動	国際交流や外国人への支援活動	提供	インターネットやコミュニケーション誌による地域への情報提供	公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動	その他	いずれにも参加していない	不明・無回答
全体	件数 1200 割合(%) 100.0	231 19.3	64 5.3	39 3.3	30 2.5	14 1.2	6 0.5	14 1.2	13 1.1	6 0.5	39 3.3	22 1.8	24 2.0	3 0.3	16 1.3	9 0.8	31 2.6	18 1.5	812 67.7	25 2.1	
Q33 年代	20歳未満	10 100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10 100.0	-	
	20～29歳	110 100.0	2 1.8	-	2 1.8	1 0.9	1 0.9	-	1 0.9	1 0.9	1 0.9	1 0.9	1 0.9	-	1 0.9	3 2.7	3 2.7	3 2.7	99 90.0	1 0.9	
	30～39歳	177 100.0	10 5.6	5 2.8	3 1.7	2 1.1	1 0.6	1 0.6	1 0.6	1 0.6	1 0.6	1 0.6	1 0.6	1 0.6	1 0.6	1 0.6	1 0.6	1 0.6	151 85.3	1 0.6	
	40～49歳	215 100.0	37 17.2	38 17.7	7 3.3	5 2.3	6 2.8	1 0.5	4 1.9	2 0.9	2 0.9	6 2.8	4 1.9	6 2.8	4 1.9	4 1.9	2 0.9	5 2.3	131 60.9	2 0.9	
	50～59歳	202 100.0	37 18.3	13 6.4	8 4.0	3 1.5	2 1.0	2 1.0	1 0.5	2 1.0	2 1.0	4 2.0	4 2.0	6 3.0	1 0.5	4 2.0	1 0.5	4 2.0	137 67.8	1 0.5	
	60～64歳	80 100.0	19 23.8	1 1.3	-	1 1.3	-	-	6 7.5	1 1.3	-	-	-	2 2.5	1 1.3	-	3 3.8	-	1 1.3	52 65.0	1 1.3
	65～74歳	195 100.0	55 28.2	2 1.0	6 3.1	6 3.1	1 0.5	-	1 0.5	5 2.6	2 1.0	10 5.1	3 1.5	5 2.6	1 0.5	3 1.5	-	1 0.5	121 62.1	4 2.1	
	75歳以上	199 100.0	66 33.2	3 1.5	10 5.0	11 5.5	4 2.0	1 0.5	1 0.5	1 0.5	1 0.5	15 7.5	7 3.5	4 2.0	-	4 2.0	-	12 6.0	106 53.3	14 7.0	

[住居の種類別]

住居の種類別でみると、「町会・自治会に加入している」は、「一戸建て（持ち家）」（35.7%）が最も多くなっています。一方、「いずれにも参加していない」は「共同住宅（賃貸マンション・アパート・社宅等）」（82.4%）が最も多くなっています（その他を除く）。

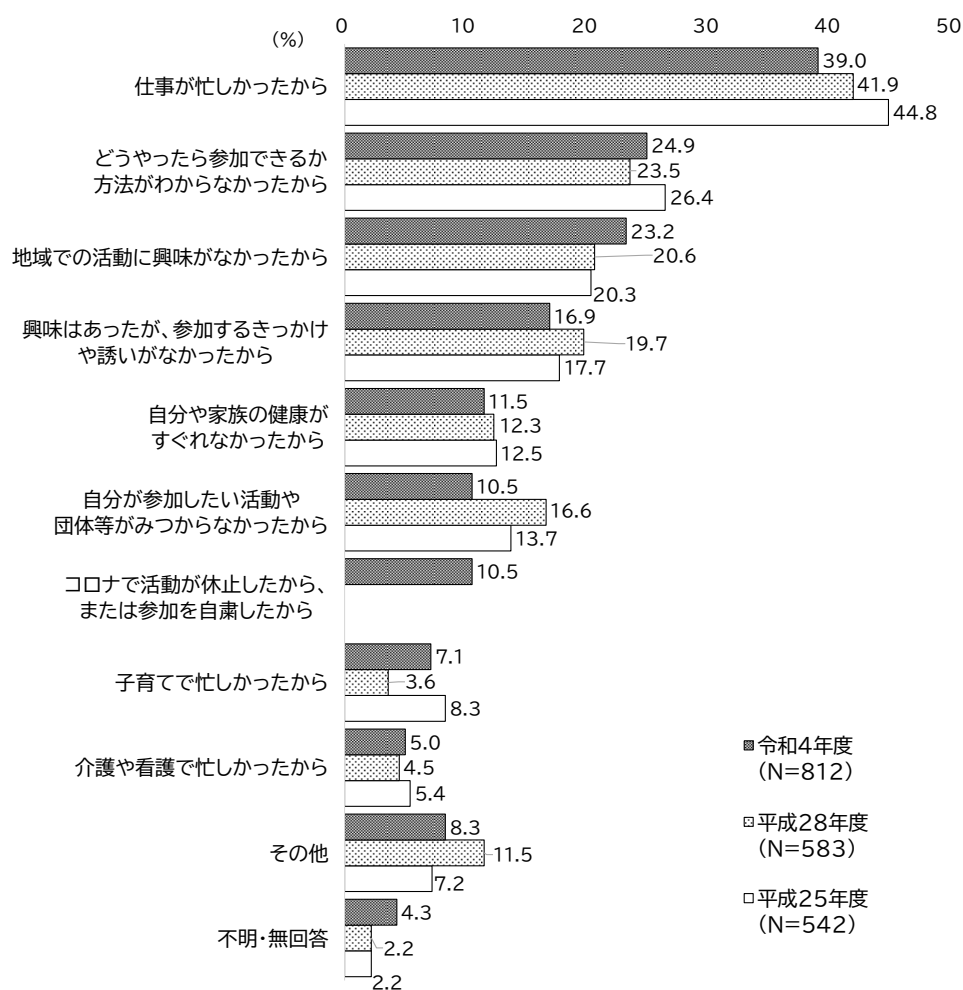
住居の種類	全体	Q11 地域活動への参加経験																			
		町会・自治会に加入している	子ども会・PTAの活動	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	高齢者の身の回りの世話やし相手	障害者の日常生活における支援やし相手	手話通訳・点字ボランティアなど	子育ての支援や相談	地域での学習活動の指導・助言・運営協力	子ども食堂の運営協力	交通安全や防犯活動	防災活動や災害時支援活動	募金活動やチャリティイベントの開催など	路上生活者への支援活動	国際交流や外国人への支援活動	提供	インターネットやコミュニケーション誌による地域への情報提供	公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動	その他	いずれにも参加していない	不明・無回答
全体	件数 1200 割合(%) 100.0	231 19.3	64 5.3	39 3.3	30 2.5	14 1.2	6 0.5	14 1.2	13 1.1	6 0.5	39 3.3	22 1.8	24 2.0	3 0.3	16 1.3	9 0.8	31 2.6	18 1.5	812 67.7	25 2.1	
Q37 住居の種類	一戸建て(持ち家)	440 100.0	157 35.7	28 6.4	15 3.4	18 4.1	6 1.4	4 0.9	8 1.8	8 1.8	3 0.7	27 6.1	11 2.5	10 2.3	2 0.5	4 0.9	3 0.7	15 3.4	10 2.3	222 50.5	9 2.0
	一戸建て(賃貸)	36 100.0	4 11.1	2 5.6	-	1 2.8	-	-	1 2.8	-	-	1 2.8	-	1 2.8	-	-	-	1 2.8	1 2.8	27 75.0	-
	共同住宅(分譲マンション等)	258 100.0	37 14.3	18 7.0	6 2.3	3 1.2	2 0.8	1 0.4	2 0.8	1 0.4	1 0.4	3 1.2	5 1.9	6 2.3	-	4 1.6	1 0.4	5 1.9	2 0.8	190 73.6	4 1.6
	共同住宅(賃貸マンション・アパート・社宅等)	425 100.0	23 5.4	11 2.6	12 2.8	6 1.4	5 1.2	1 0.2	2 0.5	3 0.7	2 0.5	3 0.7	4 0.9	4 0.9	1 0.2	6 1.4	4 0.9	7 1.6	5 1.2	350 82.4	9 2.1
	その他	17 100.0	5 29.4	2 11.8	2 11.8	1 5.9	1 5.9	-	1 5.9	1 5.9	-	2 11.8	-	2 11.8	-	-	-	1 5.9	-	9 52.9	1 5.9

(2) 地域活動に参加しない理由

問 11-1 参加しなかった主な理由は、次のうちどれにあてはまりますか。(〇はいくつでも)

地域活動・ボランティア活動に参加しなかった理由としては、「仕事が忙しかったから」(39.0%)が最も多く、次いで、「どうやったら参加できるか方法がわからなかったから」(24.9%)、「地域での活動に興味がなかったから」(23.2%)と続いています。

「仕事が忙しかったから」と回答した方は、前回、前々回調査と比較すると減少傾向にあり、「地域活動に興味がなかったから」と回答した方の割合が微増傾向にあります。また、今年度新たに追加した「コロナで活動が休止したから、または参加を自粛したから」は10.5%の方が回答しています。

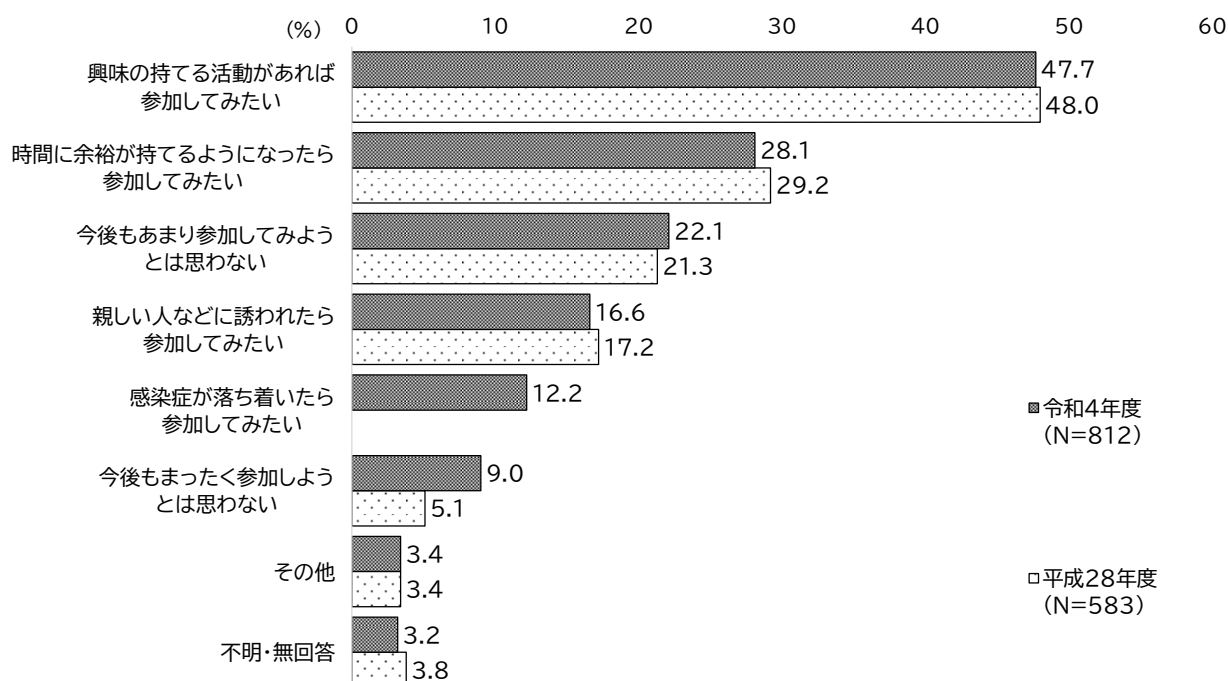


(3) 地域活動への参加意向

問 11-2 今後参加したいと思いますか。(〇はいくつでも)

地域活動・ボランティア活動に参加しなかった方に対して、今後の参加意向を尋ねたところ、「興味を持てる活動があれば参加してみたい」(47.7%)が最も多く、次いで「時間に余裕が持てるようになったら参加してみたい」(28.1%)と続いています。一方で、「今後もあまり参加してみようとは思わない」は22.1%となっています。

前回調査との比較では、大きな差は見られませんでした。

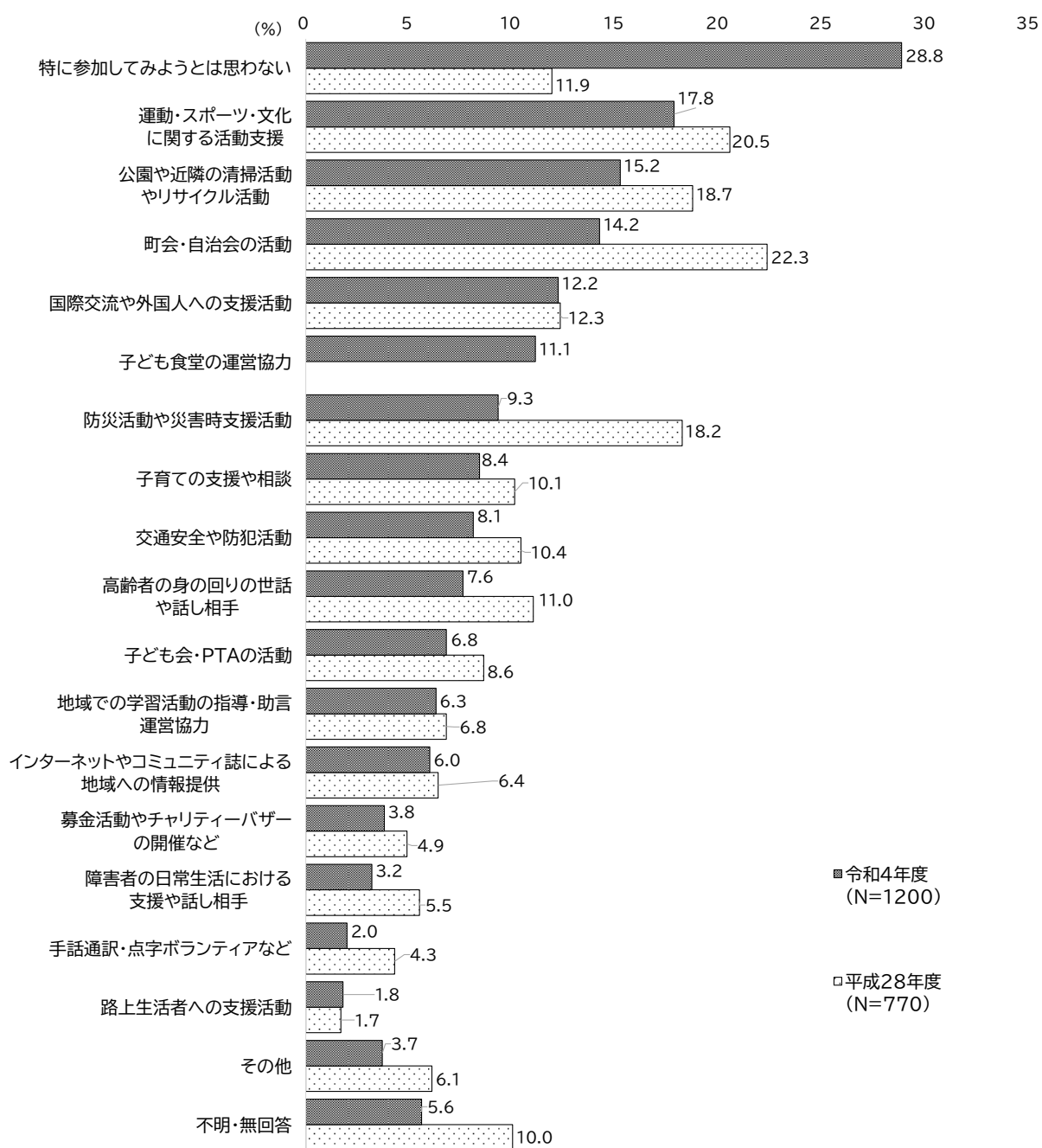


(4) 参加したい地域活動

問 12 今後どのような地域活動やボランティア活動に参加したいと思いますか。
(○はいくつでも)

今後、参加したい地域活動・ボランティア活動について、「運動・スポーツ・文化に関する活動支援」(17.8%)が最も多く、次いで「公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動」(15.2%)、「町会・自治会の活動」(14.2%)と続いています。

前回調査と比較すると、今回の調査では、「町会・自治会の活動」が8.1ポイント、「防災活動や災害時支援活動」が8.9ポイント減っています。一方、「特に参加してみようと思わない」が16.9ポイント増えています。



[年代別] (各年代の上位3位)

「特に参加しようとは思わない」を除き、年代別でみると、年代で最も多い活動内容が異なっています。具体的には、「30～39歳」と「75歳以上」以外の世代では、「運動・スポーツ・文化に関する活動支援」が最も多くなっています。一方、「30～39歳」では「国際交流や外国人への支援活動」、「75歳以上」では「町会・自治会の活動」がそれぞれ最も多くなっています。

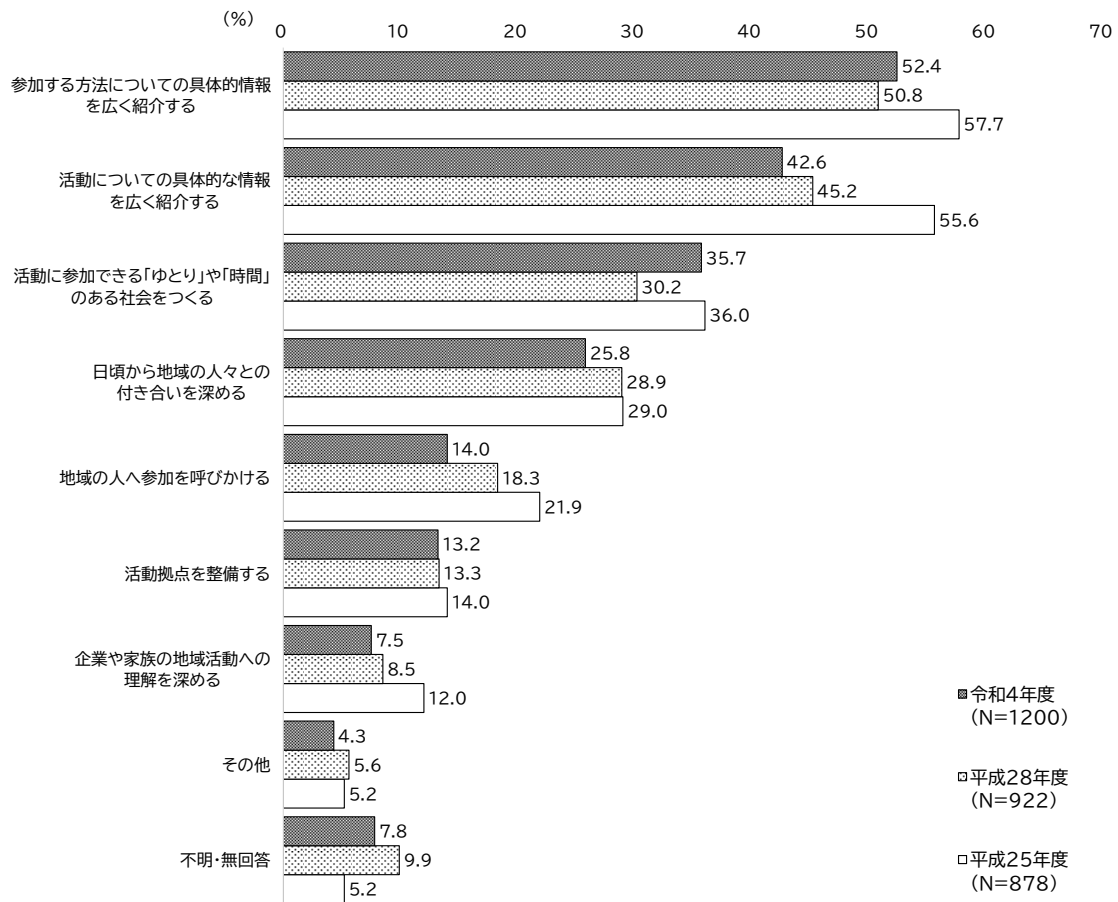
	20歳未満	20～29歳	30～39歳	40～49歳	50～59歳	60～64歳	65～74歳	75歳以上
1位	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	国際交流や外国人への支援活動	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	町会・自治会の活動
	公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動							
	30.0	22.7	24.3	20.0	18.3	18.8	16.9	16.6
2位	-	国際交流や外国人への支援活動	運動・スポーツ・文化に関する活動支援	子ども会・PTAの活動	公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動	町会・自治会の活動	-	公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動
	-	公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動						
	-	17.3	20.3	19.5	15.3	17.5	-	10.6
3位	国際交流や外国人への支援活動	-	公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動	公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動	子ども食堂の運営協力	公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動	公園や近隣の清掃活動やリサイクル活動	運動・スポーツ・文化に関する活動支援
	子ども食堂の運営協力							交通安全や防犯活動
	20.0	-	15.8	17.7	14.4	16.3	13.8	9.5

[単位：%]

(5) 地域活動への参加に必要なこと

問 13 あなたは、お住まいの地域の活動に、より多くの人が参加できるようにするためには、どのようなことが必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

地域の活動に、より多くの人が参加できるようにするために必要だと思うことは、「参加する方法についての具体的な情報を広く紹介する」(52.4%) が最も多く、次いで「活動についての具体的な情報を広く紹介する」(42.6%)、「活動に参加できる「ゆとり」や「時間」のある社会をつくる」(35.7%) と続いています。

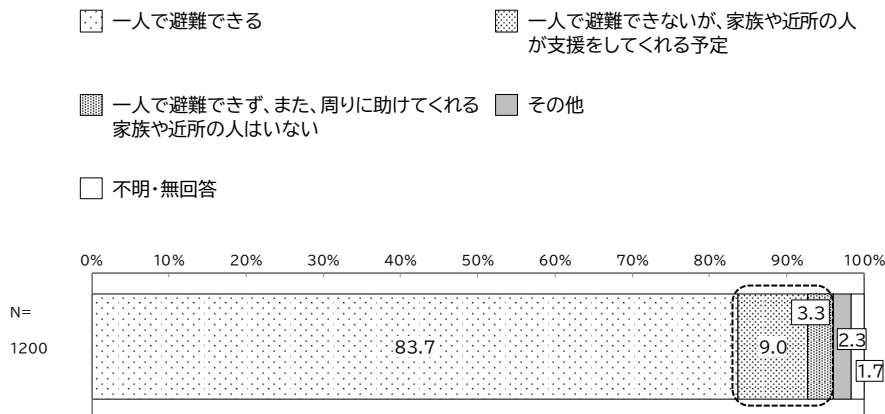


(6) 災害発生時の避難

問 14 あなたは、災害が発生した時に一人で避難できますか。(○は1つのみ)

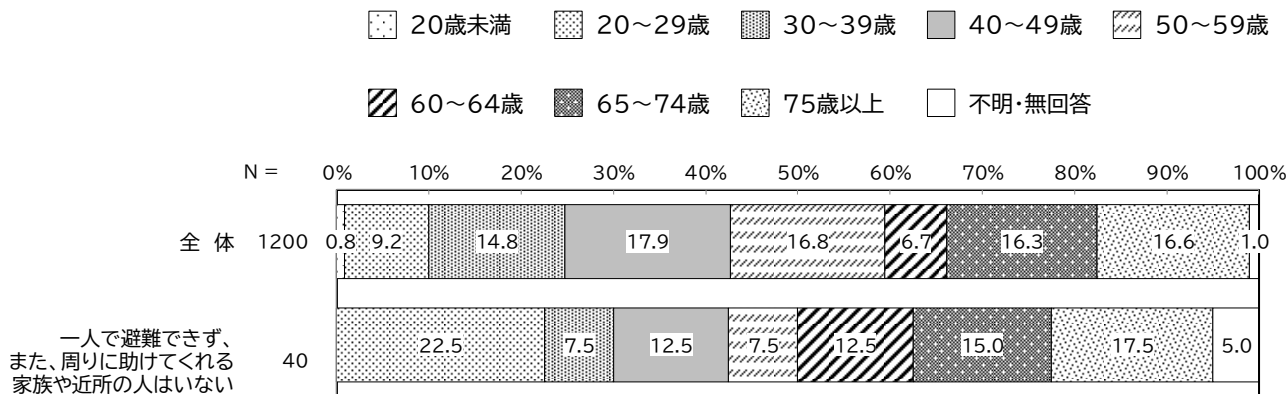
災害発生時の避難について、「一人で避難できる」方は83.7%です。

一方、「一人で避難できない」と回答した方は12.3%です。そのうち、「家族や近所の人が支援をしてくれる予定」と回答した方は9.0%、「周りに助けしてくれる人もいない」と回答した方は、3.3%となっています。



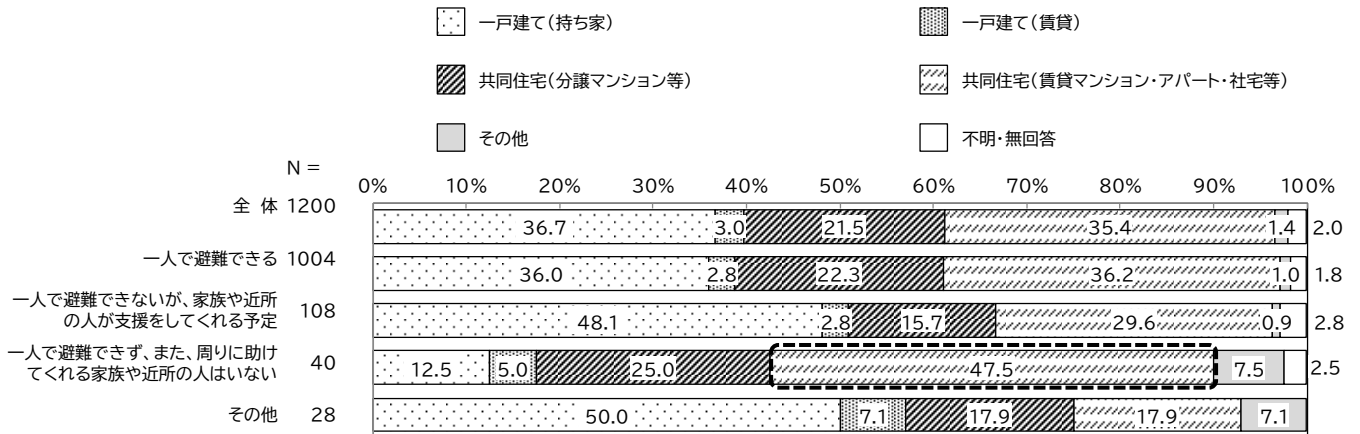
[年代別]

「一人で避難できず、また、周りに助けしてくれる家族や近所の人はいない」について年代別にみると、「20～29歳」(22.5%)が最も多く、次いで「75歳以上」(17.5%)、「65～74歳」(15.0%)と続いています。



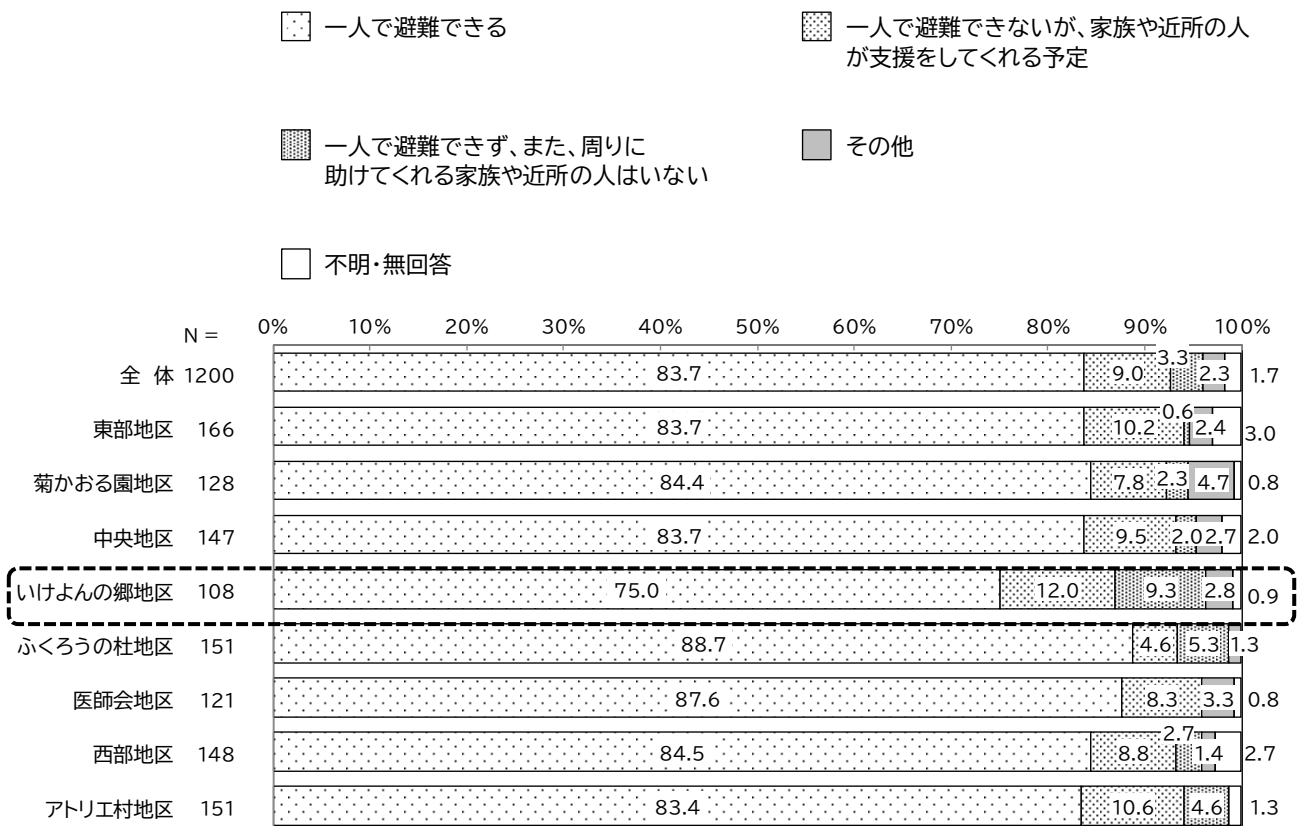
[住居の種類別]

住居の種類別では、「共同住宅（賃貸マンション・アパート・社宅等）」（47.5%）が最も多くなっています。



[居住地域別]

居住地域別でみると、「いけよんの郷地区」は、「一人で避難できる」と回答した方の割合が75.0%と他地区に比べ8.4%以上低く、「一人で避難できず、また、周りに助けられる家族や近所の人はいない」（9.3%）が最も多くなっています。



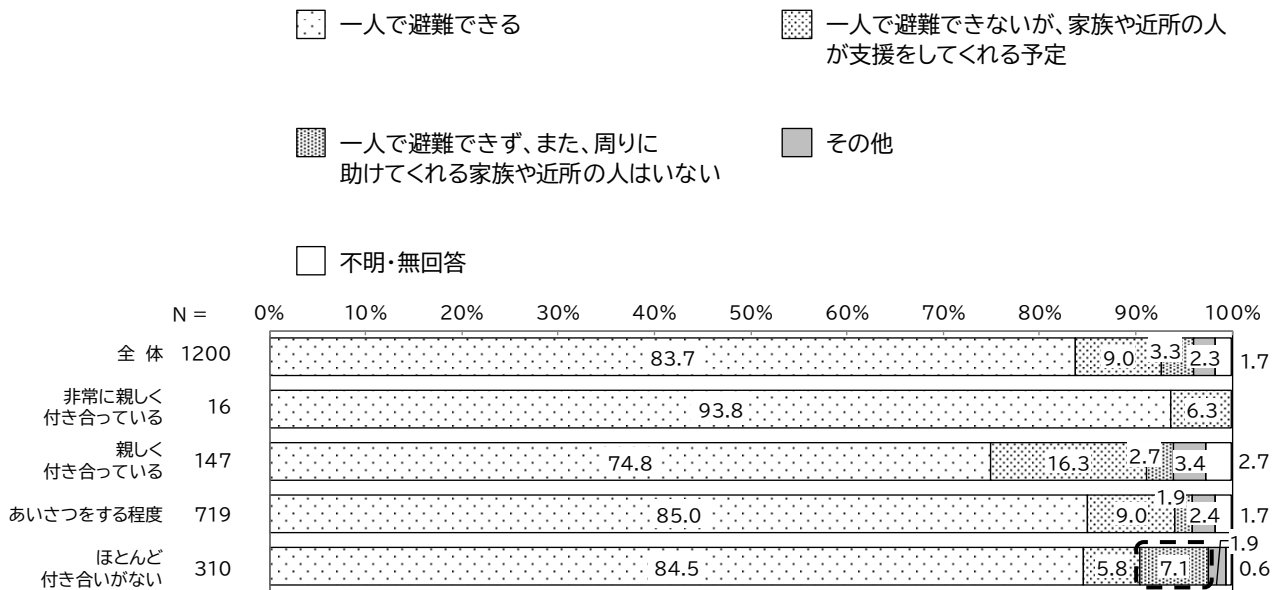
[家族構成別]

「一人で避難できず、周りに助けしてくれる人もいない」と回答した方の家族構成をみると、「単身（ひとり暮らし）」（62.5%）が最も多くなっています。

		全体	Q34 家族構成								
			単身（ひとり暮らし）	夫婦のみ（夫婦とも65歳未満）	夫婦のみ（夫婦とも65歳以上）	夫婦のみ（夫または妻が65歳以上）	二世世代家族（親と子）	三世世代家族（親と子と孫）	兄弟姉妹のみ	その他	不明・無回答
全体	件数	1200	294	176	110	27	469	46	21	29	28
	割合(%)	100.0	24.5	14.7	9.2	2.3	39.1	3.8	1.8	2.4	2.3
Q1 時4 の 避 災 害 発 生	件数	40	25	3	2	1	6	1	-	1	1
	割合(%)	100.0	62.5	7.5	5.0	2.5	15.0	2.5	-	2.5	2.5

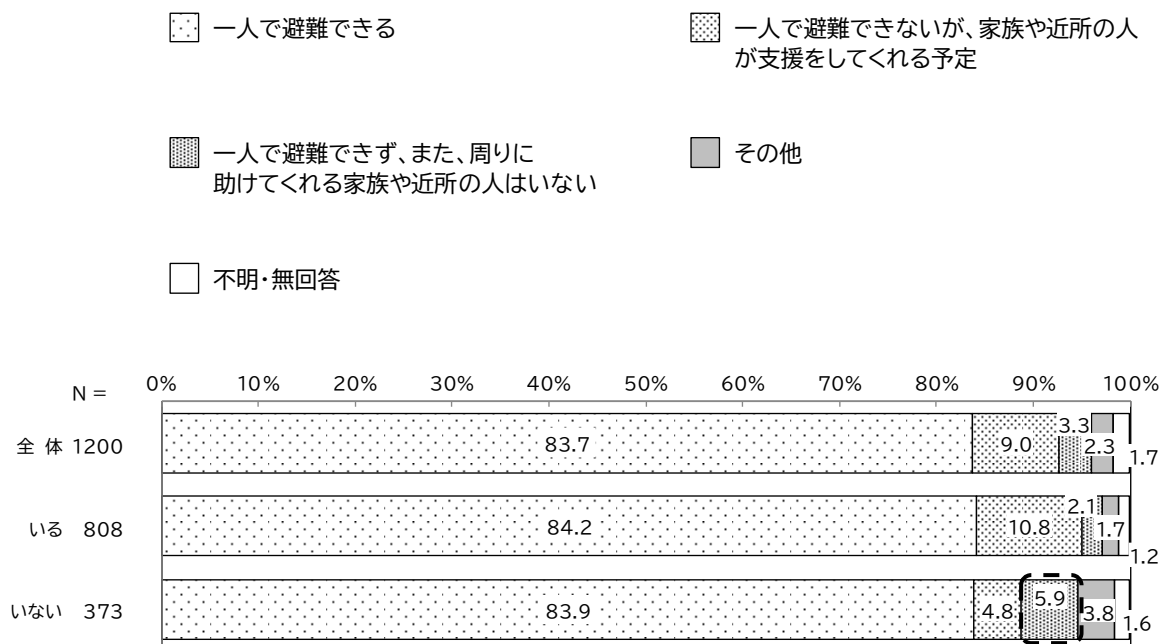
[近所付き合いの程度別]

近所付き合いの程度別でみると、近所付き合いについて「ほとんど付き合いがない」と回答した方の7.1%が「一人で避難できず、また、周りに助けしてくれる家族や近所の人はいない」と回答しています。



[相談できる人の有無別]

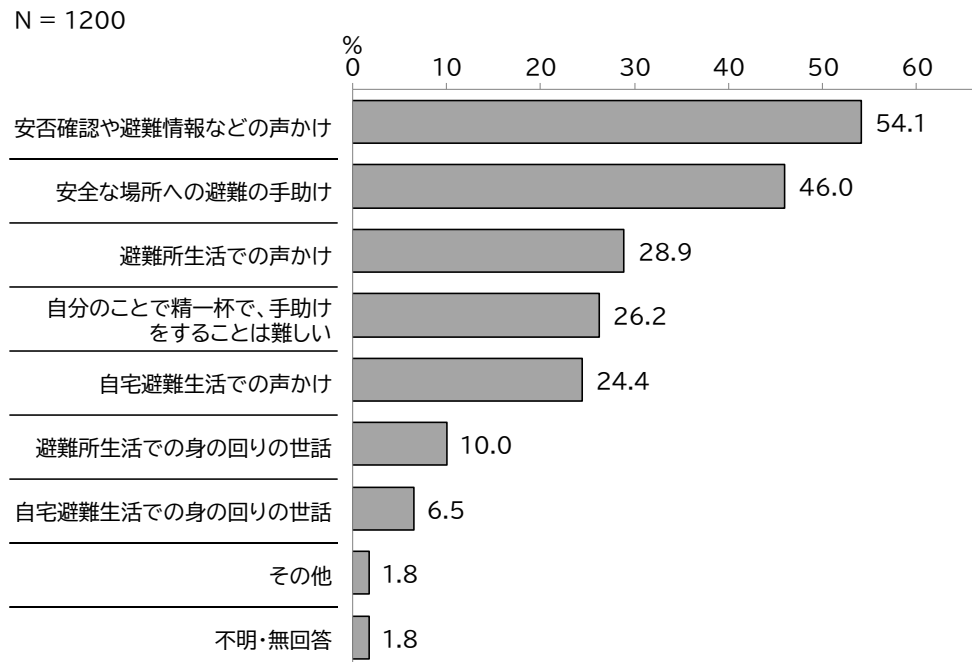
相談できる人の有無別でみると、身近に相談できる方が「いない」と回答した方のうち5.9%は、「一人で避難できず、また、周りに助けしてくれる家族や近所の人はいない」と回答しています。



(7) 災害時の手助けや対応

問 15 あなたは、災害時において、ご近所にお住まいの支援を必要とする人に対して、どのような手助けや対応ができると思いますか。（〇はいくつでも）

災害時に支援を必要とする人に対する手助けや対応としては、「安否確認や避難情報などの声かけ」（54.1%）が最も多く、次いで「安全な場所への避難の手助け」（46.0%）、「避難所生活での声かけ」（28.9%）と続いています。



[年代別]

年代別でみると、年代で最も多い活動内容が異なっています。具体的には、「20～29 歳」および「75 歳以上」以外の世代では、「安否確認や避難情報などの声かけ」が最も多くなっています。一方、「20～29 歳」では「安全な場所への避難の手助け」が最も多くなっています。

「自分のことで精一杯で、手助けをすることは難しい」は「75 歳以上」(55.3%) が最も多く、「20～29 歳」(29.1%)、「65～74 歳」(28.2%) が続きます。

		全 体	Q15 災害時の手助けや対応								
			声か け 安 否 確 認 や 避 難 情 報 な ど の	け 安 全 な 場 所 へ の 避 難 の 手 助	避 難 所 生 活 で の 声 か け	世 話 避 難 所 生 活 で の 身 の 回 り の	自 宅 避 難 生 活 で の 声 か け	の 自 宅 避 難 生 活 で の 身 の 回 り	自 分 の こ と で 精 一 杯 で 、 手 助 け を す る こ と は 難 し い	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体	件数	1200	649	552	347	120	293	78	314	21	21
	割合(%)	100.0	54.1	46.0	28.9	10.0	24.4	6.5	26.2	1.8	1.8
Q 3 3 年 代	20歳未満	10	6	6	2	1	1	1	1	-	-
		100.0	60.0	60.0	20.0	10.0	10.0	10.0	10.0	-	-
	20～29歳	110	45	50	27	11	19	7	32	-	-
		100.0	40.9	45.5	24.5	10.0	17.3	6.4	29.1	-	-
	30～39歳	177	112	95	71	25	50	17	34	3	3
		100.0	63.3	53.7	40.1	14.1	28.2	9.6	19.2	1.7	1.7
	40～49歳	215	138	126	74	28	60	19	33	4	1
		100.0	64.2	58.6	34.4	13.0	27.9	8.8	15.3	1.9	0.5
50～59歳	202	123	112	69	31	55	15	31	4	4	
	100.0	60.9	55.4	34.2	15.3	27.2	7.4	15.3	2.0	2.0	
60～64歳	80	47	35	26	3	23	4	14	1	2	
	100.0	58.8	43.8	32.5	3.8	28.8	5.0	17.5	1.3	2.5	
65～74歳	195	110	83	53	18	51	10	55	3	4	
	100.0	56.4	42.6	27.2	9.2	26.2	5.1	28.2	1.5	2.1	
75歳以上	199	62	42	24	3	30	4	110	6	7	
	100.0	31.2	21.1	12.1	1.5	15.1	2.0	55.3	3.0	3.5	

[家族構成別]

家族構成別でみると、「その他」を除くすべての構成では「安否確認や避難情報などの声かけ」が最も多くなっています。一方、「自分のことで精一杯で、手助けをすることは難しい」は、「夫婦のみ（夫婦とも65歳以上）」（40.9%）が最も多くなっています。

		全 体	Q15 災害時の手助けや対応								
			声安 かけ 否確 認や 避難 情報 など の	け安 全な 場所 への 避難 の手 助	避 難所 生活 での 声か け	世 話 避 難所 生活 での 身の 回り の	自 宅 避 難 生活 での 声か け	の自 宅 世 話 避 難 生活 での 身の 回り	助自 け分 を自 すこと で精 一杯 で、 手	そ の 他	不 明・ 無回 答
全体	件数	1200	649	552	347	120	293	78	314	21	21
	割合(%)	100.0	54.1	46.0	28.9	10.0	24.4	6.5	26.2	1.8	1.8
Q34 家族 構成	单身(ひとり暮らし)	294	134	127	62	25	61	22	101	7	5
		100.0	45.6	43.2	21.1	8.5	20.7	7.5	34.4	2.4	1.7
	夫婦のみ(夫婦とも65歳未満)	176	98	87	62	24	47	14	27	2	4
		100.0	55.7	49.4	35.2	13.6	26.7	8.0	15.3	1.1	2.3
	夫婦のみ(夫婦とも65歳以上)	110	51	37	25	5	23	-	45	-	4
		100.0	46.4	33.6	22.7	4.5	20.9	-	40.9	-	3.6
	夫婦のみ(夫または妻が65歳以上)	27	18	12	7	5	6	2	4	1	2
		100.0	66.7	44.4	25.9	18.5	22.2	7.4	14.8	3.7	7.4
	二世世代家族(親と子)	469	285	238	151	51	124	32	103	8	3
	100.0	60.8	50.7	32.2	10.9	26.4	6.8	22.0	1.7	0.6	
三世世代家族(親と子と孫)	46	26	19	18	3	14	3	12	-	-	
	100.0	56.5	41.3	39.1	6.5	30.4	6.5	26.1	-	-	
兄弟姉妹のみ	21	12	9	9	2	5	2	6	1	-	
	100.0	57.1	42.9	42.9	9.5	23.8	9.5	28.6	4.8	-	
その他	29	13	14	7	3	5	-	8	2	2	
	100.0	44.8	48.3	24.1	10.3	17.2	-	27.6	6.9	6.9	

[居住地域別]

居住地域別でみると、すべての地域で「安否確認や避難情報などの声かけ」が最も多くなっています。一方、「自分のことで精一杯で、手助けをすることは難しい」は、「医師会地区」のみ20%を下回っていることから、他の地域より手助けができる人が多いとみられます。

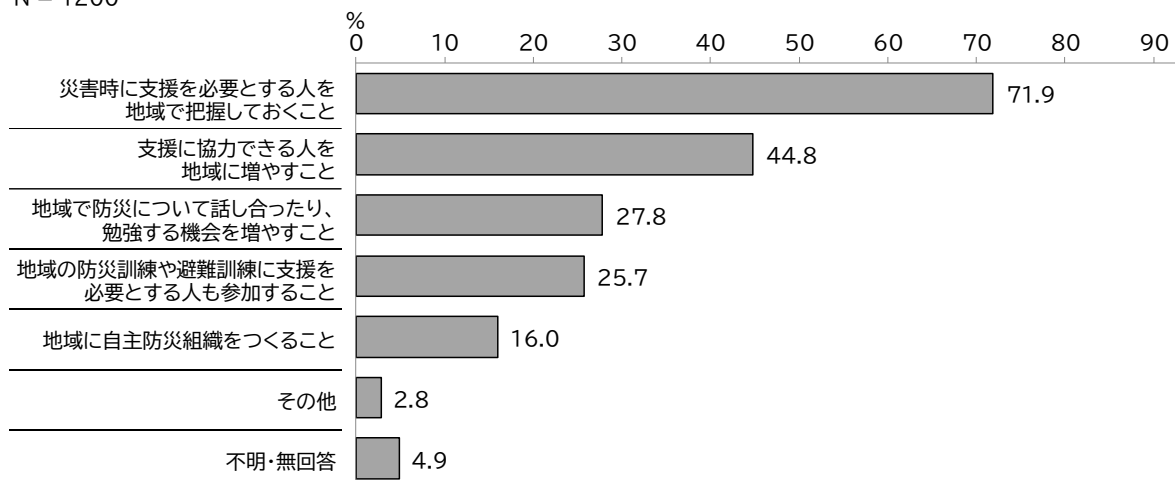
		Q15 災害時の手助けや対応									
		全体	声かけ 安否確認 や避難情報 などの	け安全な 場所への 避難の 手助け	避難所 生活での 声かけ	世話を 避難所 生活での 身の回り の	自宅 避難生活 での 声かけ	の世話を 自宅 避難生活 での 身の回り	助ける こと で精一杯 で、 手	その他	不明・ 無回答
全体	件数	1200	649	552	347	120	293	78	314	21	21
	割合(%)	100.0	54.1	46.0	28.9	10.0	24.4	6.5	26.2	1.8	1.8
Q35 居住地域	東部地区	166	89	71	49	14	40	13	49	2	4
		100.0	53.6	42.8	29.5	8.4	24.1	7.8	29.5	1.2	2.4
	菊かおる園地区	128	80	67	30	14	28	6	30	4	1
		100.0	62.5	52.3	23.4	10.9	21.9	4.7	23.4	3.1	0.8
	中央地区	147	67	63	34	12	30	11	41	4	6
		100.0	45.6	42.9	23.1	8.2	20.4	7.5	27.9	2.7	4.1
	いけよんの郷地区	108	59	53	34	18	29	11	29	2	1
		100.0	54.6	49.1	31.5	16.7	26.9	10.2	26.9	1.9	0.9
	ふくろうの杜地区	151	84	77	48	12	41	5	35	2	1
		100.0	55.6	51.0	31.8	7.9	27.2	3.3	23.2	1.3	0.7
医師会地区	121	75	63	41	11	40	9	20	2	2	
	100.0	62.0	52.1	33.9	9.1	33.1	7.4	16.5	1.7	1.7	
西部地区	148	85	70	45	19	35	12	39	1	1	
	100.0	57.4	47.3	30.4	12.8	23.6	8.1	26.4	0.7	0.7	
アトリ工村地区	151	75	57	50	14	34	6	45	2	3	
	100.0	49.7	37.7	33.1	9.3	22.5	4.0	29.8	1.3	2.0	

(8) 災害時に必要な備え

問 16 災害時に支援を必要とする人への支援策として、地域でどのような備えが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

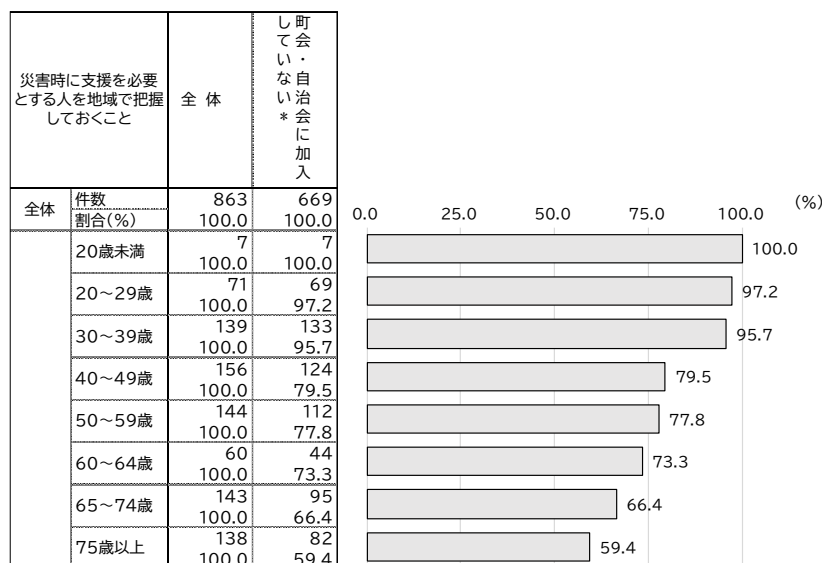
災害時に支援を必要とする人に対する地域の備えとしては、「災害時に支援を必要とする人を地域で把握しておくこと」(71.9%)が最も多く、次いで「支援に協力できる人を地域に増やすこと」(44.8%)、「地域で防災について話し合ったり、勉強する機会を増やすこと」(27.8%)と続いています。

N = 1200



[参考：災害時に必要な備え×町会・自治会への加入率]

「災害時に支援を必要とする人を地域で把握しておくこと」が必要だと回答した方のうち、町会・自治会に加入している方は約2割で、約8割の方は町会・自治会に加入していない状況です。さらに、年代別でみると、年代が下がるほど、町会・自治会に加入していない割合が高くなっています。



* 「町会・自治会に加入している」を選択していない人

6 福祉のまちづくり

福祉のまちづくりの状況を把握するとともに、調査結果から見受けられる課題を抽出し、整理しました。

■結果の概要

【外出の状況】

回答者の大半は「週1～2日」以上外出していますが、外出頻度が少ない方の割合は、60歳以上の年代で多い傾向があります。

外出時に不便に思うことに関しては、前回調査と比較して「特にない」が増えており、不便さが改善している傾向が見られます。

【まちのバリアフリー】

まちのバリアフリーの満足度に関しては、《不満》とを感じる方が多い状況ですが、前回調査と比較して《満足》が増えており、状況の改善が見られます。

外出先で困っているのを見かけた経験については、5割の方が「ある」と答えています。そして、「ある」と答えた方の6割の方が「手助けをした」と回答しています。

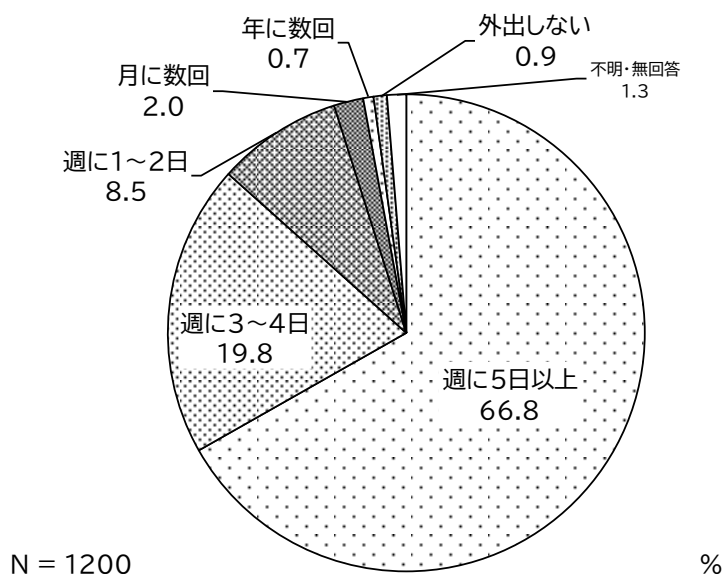
■調査結果から見受けられる課題について

- ・交通環境など、外出時に不便に思う事柄の改善やまちのバリアフリーの推進

(1) 外出頻度

問 17 あなたは、日常どのくらい外出していますか。(〇は1つのみ)

日常の外出頻度について、66.8%の方が「週に5日以上」と回答しており、「週に1～2日」(8.5%)、「週に3～4日」(19.8%)を合わせると、95.1%の方が週に1日以上外出しています。



[年代別]

年代別でみると、外出頻度の高い「週に5日以上」は、「40～49歳」(83.3%)、「50～59歳」(81.7%)で8割を超えています。一方、「月に数回」などの外出頻度の少ない方の割合は、60歳以上の年代で多くなる傾向にあります。

		Q17 外出頻度							
		全体	週に5日以上	週に3～4日	週に1～2日	月に数回	年に数回	外出しない	不明・無回答
全体	件数	1200	801	238	102	24	8	11	16
	割合(%)	100.0	66.8	19.8	8.5	2.0	0.7	0.9	1.3
Q33 年代	20歳未満	10	8	2	-	-	-	-	-
		100.0	80.0	20.0	-	-	-	-	-
	20～29歳	110	86	19	5	-	-	-	-
		100.0	78.2	17.3	4.5	-	-	-	-
	30～39歳	177	134	31	9	1	-	1	1
		100.0	75.7	17.5	5.1	0.6	-	0.6	0.6
	40～49歳	215	179	23	9	-	2	2	-
		100.0	83.3	10.7	4.2	-	0.9	0.9	-
	50～59歳	202	165	26	7	3	-	1	-
	100.0	81.7	12.9	3.5	1.5	-	0.5	-	
60～64歳	80	51	15	10	3	-	1	-	
	100.0	63.8	18.8	12.5	3.8	-	1.3	-	
65～74歳	195	104	61	19	4	1	1	5	
	100.0	53.3	31.3	9.7	2.1	0.5	0.5	2.6	
75歳以上	199	67	60	41	13	5	4	9	
	100.0	33.7	30.2	20.6	6.5	2.5	2.0	4.5	

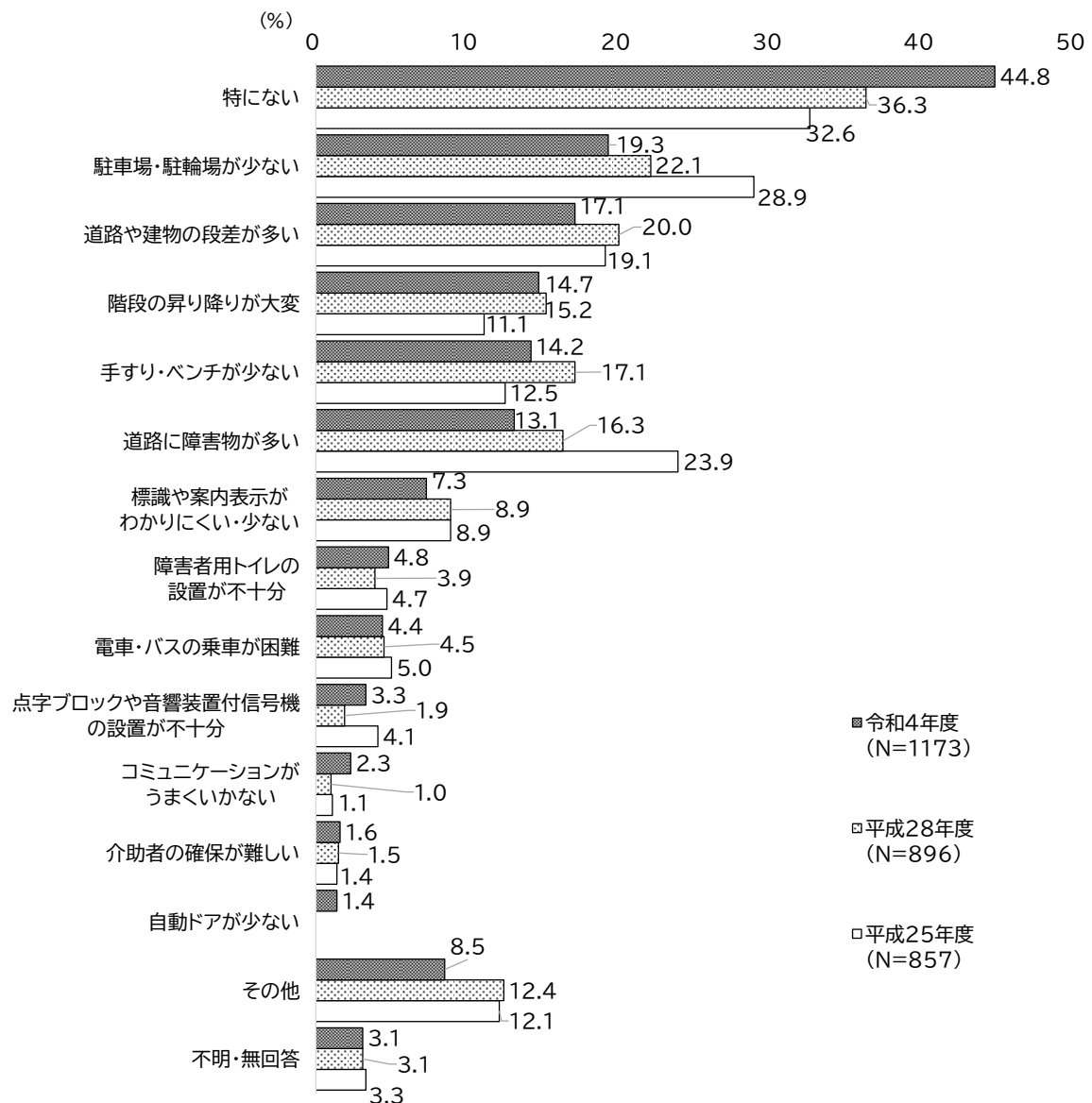
(2) 外出時に不便に思うこと

問 17-1 外出の際に、街の中や建物の中で困ったり、不便に思うことはありますか。
(○はいくつでも)

[外出時に不便に思うこと]

外出の際に、街の中や建物の中で困ったり、不便に思うことは、「特にない」(44.8%)が最も多く、次いで「駐車場・駐輪場が少ない」(19.3%)、「道路や建物の段差が多い」(17.1%)と続いています。

前回調査に比べて、「特にない」が増えています。困ったり不便に思ったりした内容としては、「駐車場・駐輪場が少ない」、「道路や建物の段差が多い」など、多くの項目で回答が減少しています。



[年代別]

年代別でみると、年代で最も多い内容が異なっています。具体的には、60歳未満の世代では、「駐車場・駐輪場が少ない」が最も多くなっています（「その他」を除く）。一方、「60～64歳」と「65～74歳」では「道路や建物の段差が多い」、「75歳以上」では「階段の昇り降りが大変」がそれぞれ最も多くなっています。

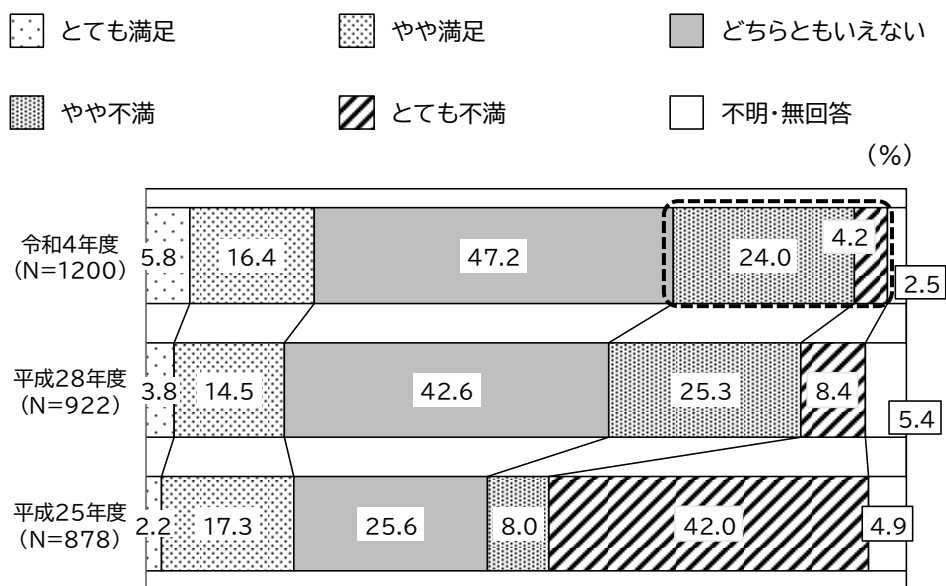
		全 体	Q17.1 外出時に不便に思うこと														
			特 に な い	道 路 や 建 物 の 段 差 が 多 い	道 路 に 障 害 物 が 多 い	標 識 や 案 内 表 示 が わ か り に く い ・ 少 な い	階 段 の 昇 り 降 り が 大 変	手 す り ・ ベ ン チ が 少 な い	自 動 ド ア が 少 な い	駐 車 場 ・ 駐 輪 場 が 少 な い	障 害 者 用 ト イ レ の 設 置 が 不 十 分	点 字 ブ ロ ツ ク や 音 響 装 置 付 信 号 機 の 設 置 が 不 十 分	電 車 ・ バ ス の 乗 車 が 困 難	介 助 者 の 確 保 が 難 しい	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン が う ま く い か な い	そ の 他	不 明 ・ 無 回 答
全体	件数	1173	526	201	154	86	173	166	17	226	56	39	52	19	27	100	36
	割合(%)	100.0	44.8	17.1	13.1	7.3	14.7	14.2	1.4	19.3	4.8	3.3	4.4	1.6	2.3	8.5	3.1
Q33 年代	20歳未満	10	5	-	2	-	2	1	-	3	1	-	1	-	-	-	-
		100.0	50.0	-	20.0	-	20.0	10.0	-	30.0	10.0	-	10.0	-	-	-	-
	20～29歳	110	63	7	7	8	10	2	-	17	6	4	2	-	6	7	4
		100.0	57.3	6.4	6.4	7.3	9.1	1.8	-	15.5	5.5	3.6	1.8	-	5.5	6.4	3.6
	30～39歳	175	70	30	21	10	21	18	6	36	7	7	6	1	2	44	5
		100.0	40.0	17.1	12.0	5.7	12.0	10.3	3.4	20.6	4.0	4.0	3.4	0.6	1.1	25.1	2.9
	40～49歳	213	97	34	30	17	20	26	3	58	10	6	9	5	6	18	5
		100.0	45.5	16.0	14.1	8.0	9.4	12.2	1.4	27.2	4.7	2.8	4.2	2.3	2.8	8.5	2.3
50～59歳	201	89	31	34	16	15	25	2	46	5	9	6	1	5	20	6	
	100.0	44.3	15.4	16.9	8.0	7.5	12.4	1.0	22.9	2.5	4.5	3.0	0.5	2.5	10.0	3.0	
60～64歳	79	47	15	10	3	8	11	2	7	6	4	4	1	1	-	1	
	100.0	59.5	19.0	12.7	3.8	10.1	13.9	2.5	8.9	7.6	5.1	5.1	1.3	1.3	-	1.3	
65～74歳	189	73	46	29	24	36	37	2	37	9	5	7	2	4	5	4	
	100.0	38.6	24.3	15.3	12.7	19.0	19.6	1.1	19.6	4.8	2.6	3.7	1.1	2.1	2.6	2.1	
75歳以上	186	79	35	21	7	58	45	2	21	12	4	17	9	3	4	10	
	100.0	42.5	18.8	11.3	3.8	31.2	24.2	1.1	11.3	6.5	2.2	9.1	4.8	1.6	2.2	5.4	

(3) まちのバリアフリーの満足度

問 18 あなたが日常生活を送る範囲で、まちのバリアフリー*について満足していますか。(〇は1つのみ)
 *多様な人が社会生活をしていく上で、障壁(バリア)となるものを取り除くという意味

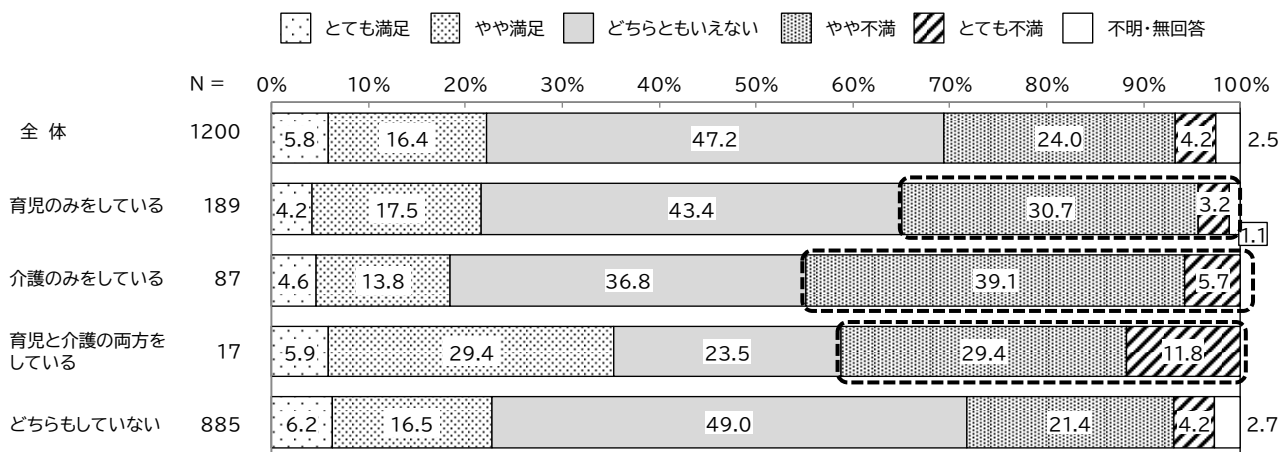
まちのバリアフリーの満足度について、「どちらともいえない」(47.2%)が最も多くなっています。《満足》(22.2%)より《不満》(28.2%)が上回っています。

前回調査と比べると、《満足》が3.9ポイント増えています。



[育児や介護の状況別]

育児や介護の状況(問1)でみると、「やや不満」と「とても不満」をあわせた《不満》と感じる方の割合は、全体(28.2%)に比べ、「育児のみをしている」(33.9%)、「介護のみをしている」(44.8%)、「育児と介護の両方をしている」(41.2%)が高くなっています。

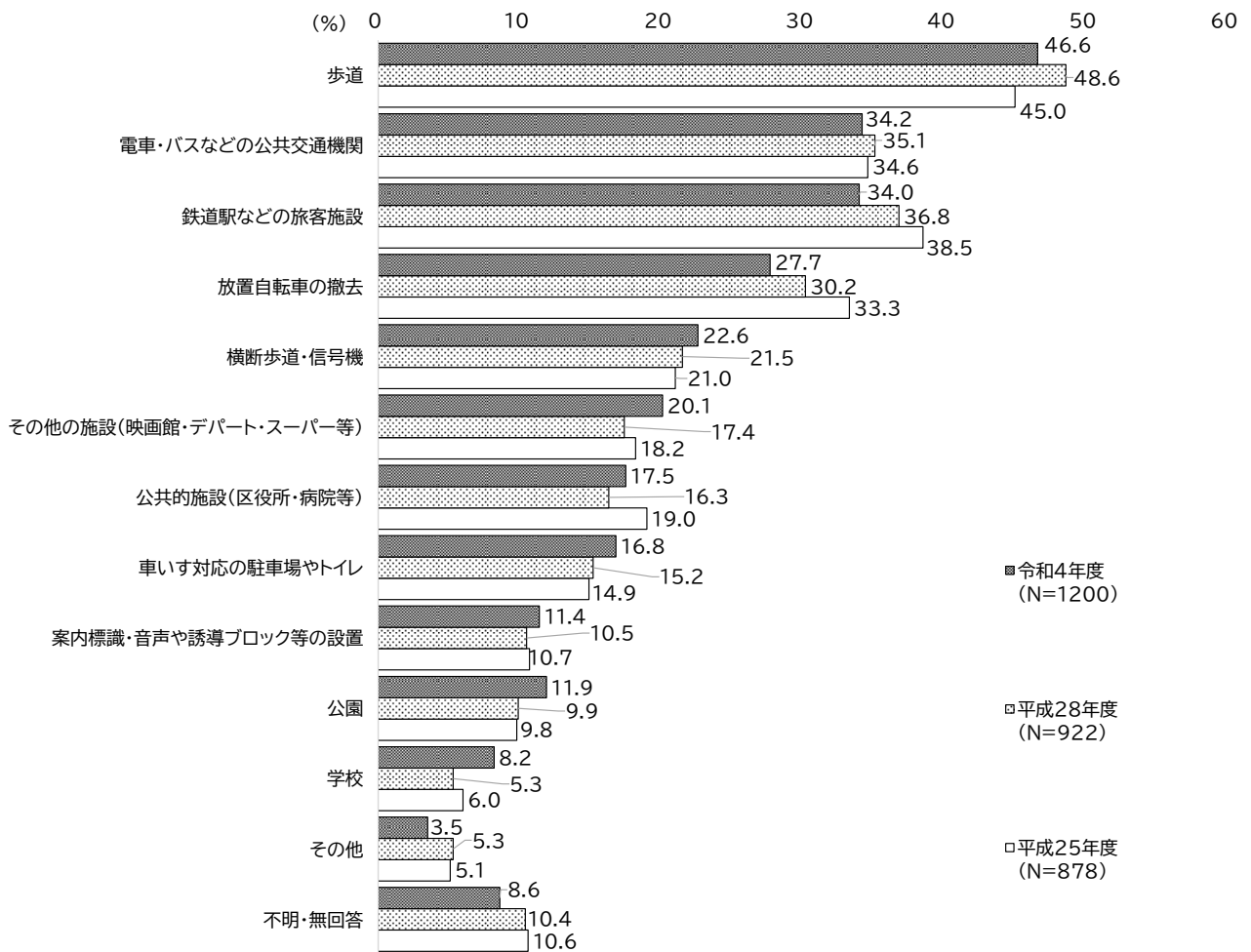


(4) バリアフリー化を進めてほしい施設

問 19 公共施設、生活関連施設や鉄道等のバリアフリー化の整備が進んでいますが、これからバリアフリー化を進めてほしい施設等がありますか。(〇はいくつでも)

これからバリアフリー化を進めてほしい施設は、「歩道」(46.6%)が最も多く、次いで「電車・バスなどの公共交通機関」(34.2%)、「鉄道駅などの旅客施設」(34.0%)と続いています。

前回調査と比較すると、「鉄道駅などの旅客施設」や「放置自転車の撤去」は減少傾向にあります。

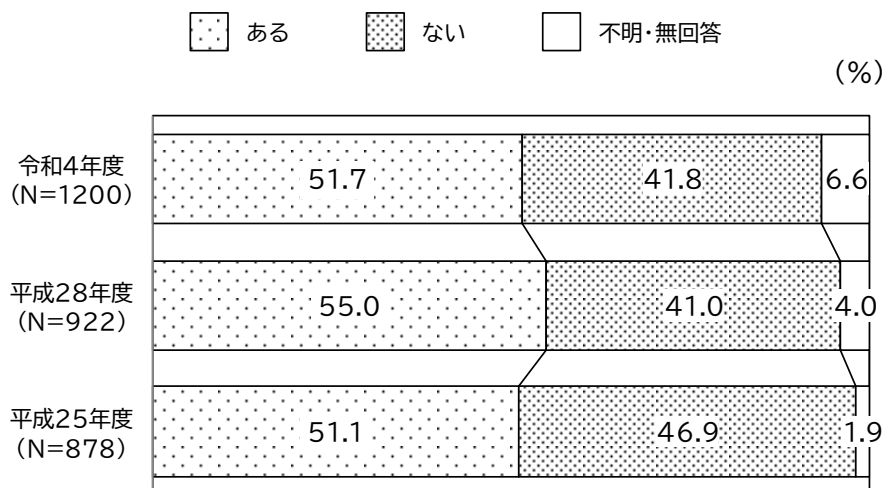


(5) 外出先で困っているのを見かけた経験

問 20 外出先で高齢者や障害者、妊婦、育児中、外国籍の方などが困っているのを見かけたことがありますか。(○は1つのみ)

外出先で障害者の方などが困っているのを見かけたことを尋ねたところ、「ある」が51.7%となっています。

前回調査との比較では、大きな差は見られませんでした。

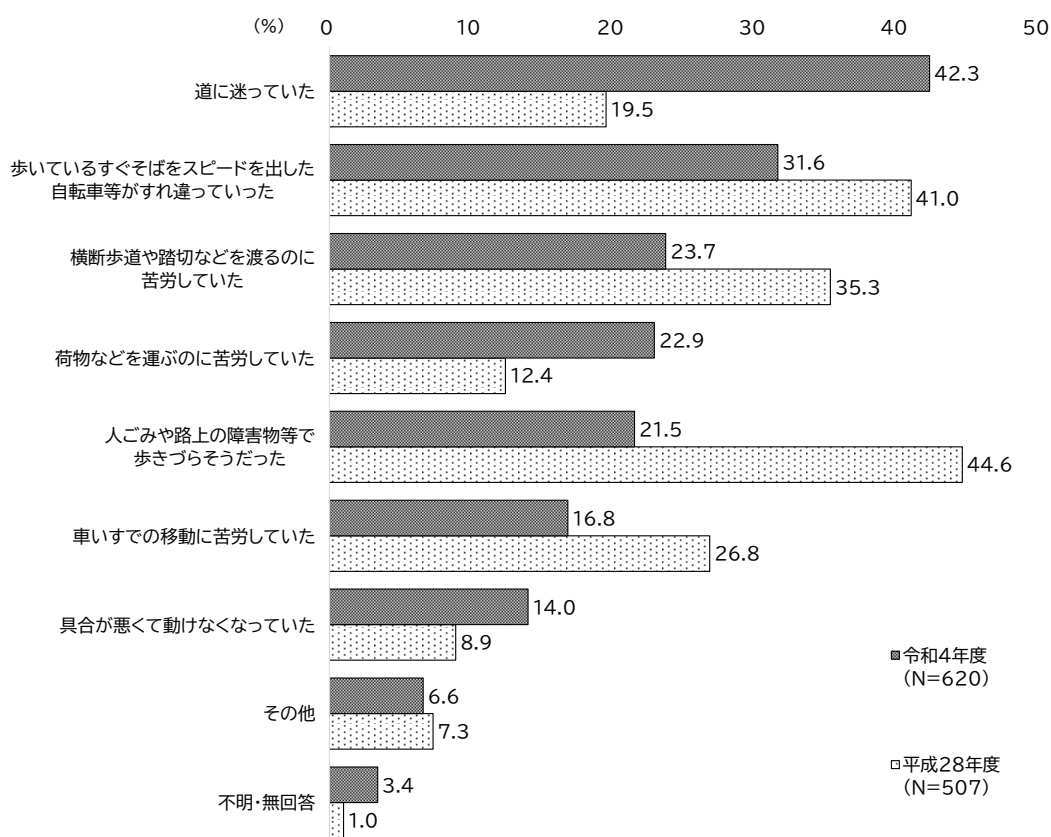


(6) 困っていたこと

問 20-1 困っていたのは、どのようなことでしたか。(〇はいくつでも)

外出先で困っている人を見かけたことがある方に、その困っていたことを尋ねたところ、「道に迷っていた」(42.3%)が最も多く、次いで「歩いているすぐそばをスピードを出した自転車等がすれ違っていった」(31.6%)、「横断歩道や踏切などを渡るのに苦労していた」(23.7%)と続いています。

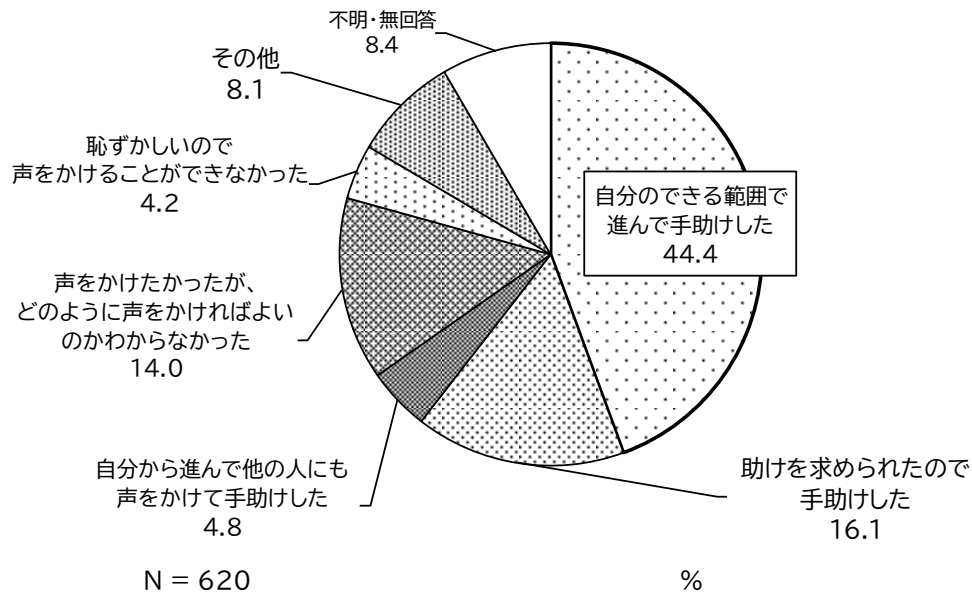
前回調査と比較すると、「横断歩道や踏切などを渡るのに苦労していた」、「人ごみや路上の障害物等で歩きづらそうだった」、「車いすでの移動に苦労していた」は、10ポイント以上減少しています。



(7) その時にしたこと

問 20-2 その時あなたは困っていた人に対してどうしましたか。(〇は1つのみ)

外出先で困っている人を見かけた時にどうしたかと尋ねたところ、「自分のできる範囲で進んで手助けした」(44.4%)が最も多く、次いで「助けを求められたので手助けした」(16.1%)と続いています。



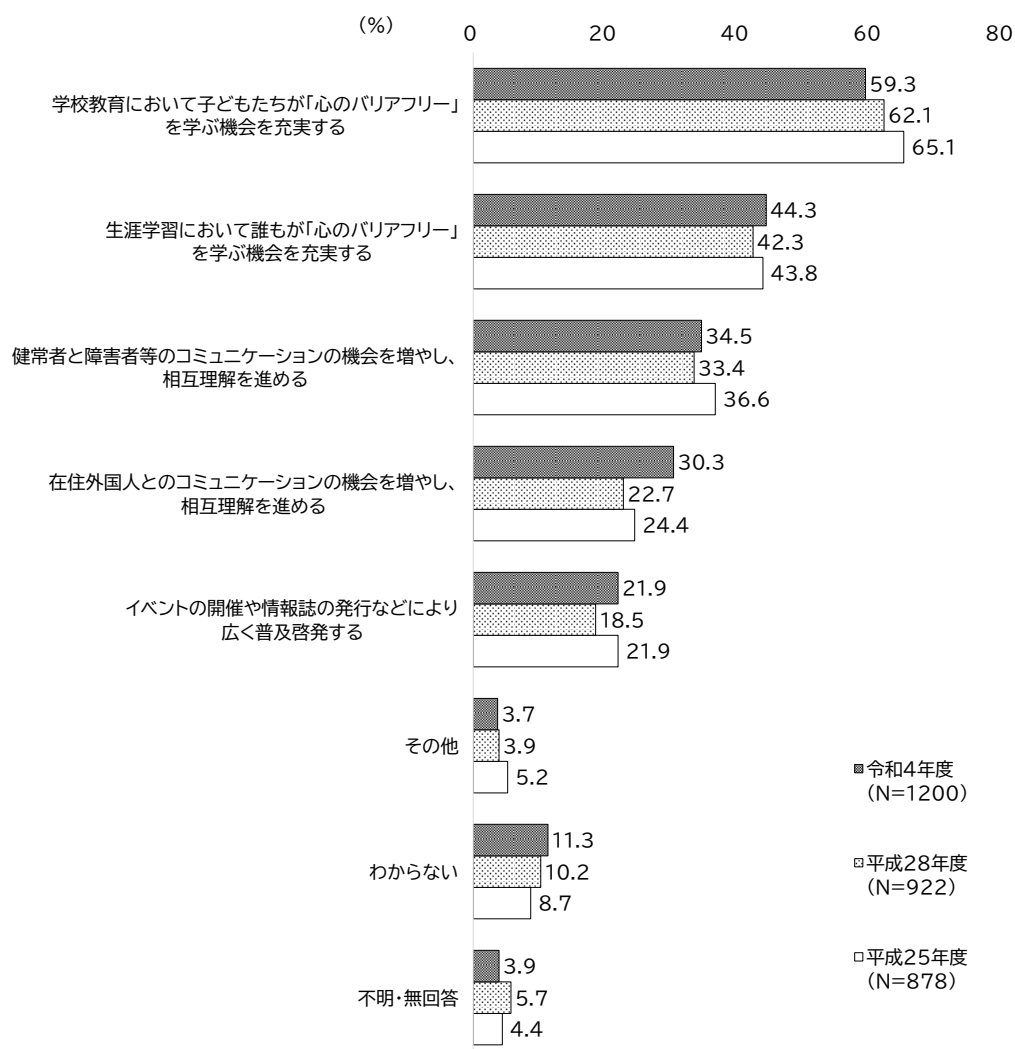
(8) 心のバリアフリー普及に必要な仕組み

問 21 障害者や高齢者への理解など、「心のバリアフリー」*を普及させるにはどのような仕組みが特に必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

*心の障壁、つまり人々の意識にある「障害」や「障害者・高齢者・外国人など」に対する差別や偏見、理解の不足、誤解などに起因する障壁をなくすこと

心のバリアフリーを普及させる仕組みとして特に必要だと思うものは、「学校教育において子どもたちが「心のバリアフリー」を学ぶ機会を充実させる」(59.3%)が最も多く、次いで「生涯学習において誰もが「心のバリアフリー」を学ぶ機会を充実させる」(44.3%)、「健常者と障害者等のコミュニケーションの機会を増やし、相互理解を進める」(34.5%)と続いています。

前回調査との比較では、「在住外国人とのコミュニケーションを増やし、相互理解を進める」が7.6ポイント増えています。



7 福祉・健康についての情報提供や相談

福祉・健康についての情報提供や相談の現状を把握し、調査結果から見受けられる課題を抽出し、整理しました。

■結果の概要

【情報源の状況】

情報の入手先は、20～30代では「豊島区ホームページ（SNS含む）」、40代以上では「区報（広報としま）」が主要な情報源となっています。

【相談拠点等の満足度と周知状況】

区の相談窓口の満足度は「どちらともいえない」が6割ですが、満足度は前回調査よりも上がっています。

区の相談窓口の中で周知度や相談意向が高いのは、「池袋保健所・長崎健康相談所」や「区役所の福祉相談窓口」などとなっています。全体として周知度・利用経験ともに低い状況です。一方、困ったときの相談意向はどの施設も概ね4割以上となっていることから、相談窓口の必要性は感じられているとみられます。

シルバー人材センターに関しては、「シルバー人材センター制度の周知・PR」が求められています。また、シルバー人材センターは、高齢者の技術を活かす場所だけでなく、若い世代からは、高齢者の居場所としての役割を担うことを期待されています。

【成年後見制度の認知度】

成年後見制度の認知度は約4割です。制度利用や資格取得など、必要に迫られている方ほど認知度が高くなっています。

成年後見制度を知るきっかけとしては、「新聞、雑誌、テレビ等のメディア」が有力となっていますが、制度の内容を理解するには、「説明会、講座、講演会等」が有力な情報源となっています。

成年後見制度をすでに利用している方が0.1割いるのに対し、将来利用したいと考える方は4割です。成年後見制度を利用したくない理由については、「家族など支援してくれる人がいるから」、「親族以外の後見人に財産管理や契約手続きを任せるのは不安だから」、「申立てにかかる費用や後見人へ支払う報酬が負担だから」等が挙げられています。

【地域の保健福祉の推進で力を入れてほしいこと】

「いつでも気軽に相談できる相談体制の充実」のほか、「子ども・若い世代の貧困対策の充実」、「妊婦や子育て家庭を支援するサービスの充実」に対する要望が高くなっています。

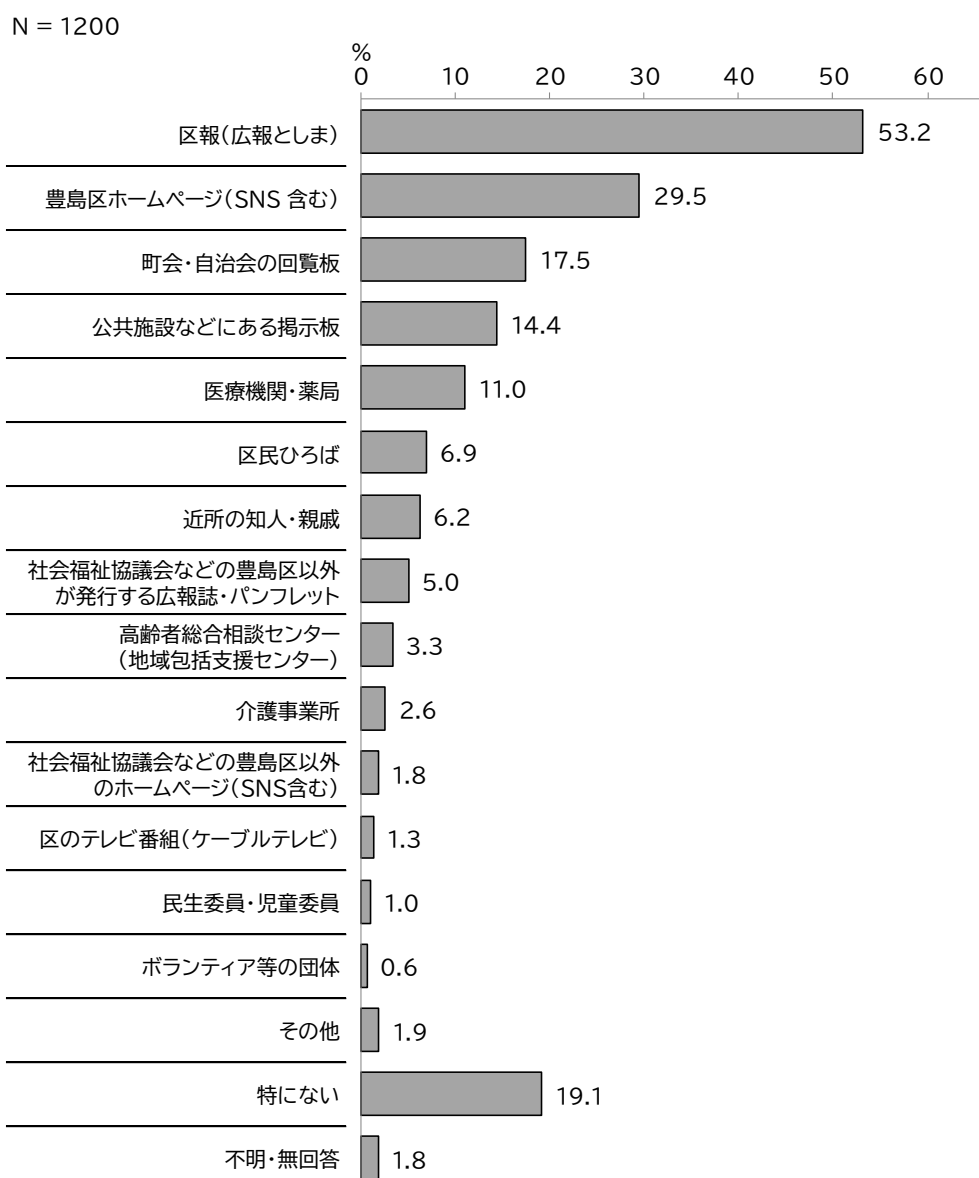
■調査結果から見受けられる課題について

- ・情報媒体の組み合わせなどによる情報提供手段の工夫・充実
- ・周知方法の工夫などによる困った方に適切に支援が届けられる環境の充実
- ・若い世代への支援の充実（子ども・若い世代、妊娠や子育て対策）
- ・いつでも気軽に相談できる相談体制の充実・周知の徹底
- ・成年後見制度の利用に当たっての不安解消等に向けた情報提供・相談支援等の充実（説明会、講座、講演会等の充実、申立費用助成の検討、成年後見人等への報酬助成制度の周知など）

(1) 情報の入手先

問 22 区の福祉・健康に関する情報をどこから得ていますか（〇はいくつでも）

区の福祉・健康に関する情報の入手先は、「区報（広報としま）」（53.2%）が最も多く、次いで「豊島区ホームページ（SNS 含む）」（29.5%）、「町会・自治会の回覧板」（17.5%）と続いています。



[年代別]

年代別でみると、年代で最も多い内容が異なっています。「20歳未満」と「40～49歳」以上の世代は、「区報（広報としま）」、「20～29歳」と「30～39歳」は、「豊島区ホームページ（SNS含む）」がそれぞれ最も多くなっています。広報はすべての年代で約20%以上、また、ホームページは75歳以上を除き、すべての年代で約20%以上の回答率となっており、これらは情報の入手先として一定の効果があるとみられます。

また、情報の入手先別にみると、「豊島区ホームページ（SNS含む）」は、「20～29歳」から「60～64歳」までの年代で回答する方が多い一方、「町会・自治会の回覧板」は、「60～64歳」以上の年代で回答する方が多いなど、年代によって入手先に差が出ています。

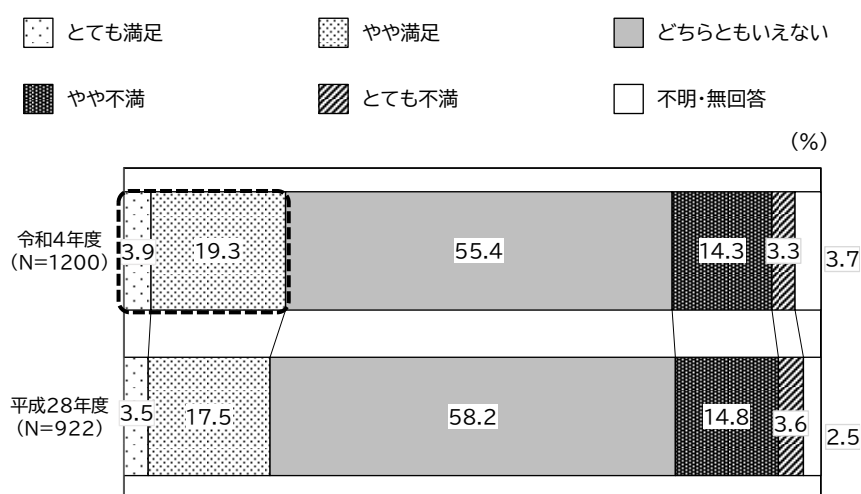
		Q22 情報の入手先																	
		区報（広報としま）	豊島区ホームページ（SNS含む）	区のテレビ番組（ケーブルテレビ）	社会福祉協議会などの豊島区以外が発行する広報誌・パンフレット	社会福祉協議会などの豊島区以外	町会・自治会の回覧板	公共施設などにある掲示板	区民ひろば	医療機関・薬局	高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）	介護事業所	民生委員・児童委員	近所の知人・親戚	ボランティア等の団体	その他	特にない	不明・無回答	
全体	件数	1200	638	354	15	60	21	210	173	83	132	39	31	12	74	7	23	229	22
	割合(%)	100.0	53.2	29.5	1.3	5.0	1.8	17.5	14.4	6.9	11.0	3.3	2.6	1.0	6.2	0.6	1.9	19.1	1.8
Q33 年代	20歳未満	10	3	2	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	2	-	-	4	-
		100.0	30.0	20.0	-	-	-	-	10.0	-	-	-	-	-	20.0	-	-	40.0	-
	20～29歳	110	21	30	-	3	5	2	16	3	9	-	-	-	6	1	-	43	2
		100.0	19.1	27.3	-	2.7	4.5	1.8	14.5	2.7	8.2	-	-	-	5.5	0.9	-	39.1	1.8
	30～39歳	177	59	75	1	1	2	11	27	18	15	-	-	1	8	-	10	49	-
		100.0	33.3	42.4	0.6	0.6	1.1	6.2	15.3	10.2	8.5	-	-	0.6	4.5	-	5.6	27.7	-
	40～49歳	215	107	80	2	8	5	29	32	16	17	2	4	-	13	-	3	48	-
		100.0	49.8	37.2	0.9	3.7	2.3	13.5	14.9	7.4	7.9	0.9	1.9	-	6.0	-	1.4	22.3	-
50～59歳	202	108	81	3	14	6	28	23	6	16	5	6	1	9	2	5	38	2	
	100.0	53.5	40.1	1.5	6.9	3.0	13.9	11.4	3.0	7.9	2.5	3.0	0.5	4.5	1.0	2.5	18.8	1.0	
60～64歳	80	52	29	-	7	2	17	7	2	9	4	3	1	3	-	2	7	1	
	100.0	65.0	36.3	-	8.8	2.5	21.3	8.8	2.5	11.3	5.0	3.8	1.3	3.8	-	2.5	8.8	1.3	
65～74歳	195	140	38	5	18	1	57	35	16	31	7	9	1	6	1	3	16	5	
	100.0	71.8	19.5	2.6	9.2	0.5	29.2	17.9	8.2	15.9	3.6	4.6	0.5	3.1	0.5	1.5	8.2	2.6	
75歳以上	199	142	18	4	9	-	62	31	20	34	21	9	7	26	3	-	21	11	
	100.0	71.4	9.0	2.0	4.5	-	31.2	15.6	10.1	17.1	10.6	4.5	3.5	13.1	1.5	-	10.6	5.5	

(2) 区の相談窓口の満足度

問 23 区からの福祉・健康に関する情報の入手のしやすさや、区の相談窓口について満足していますか。(〇は1つのみ)

区からの福祉・健康に関する情報の入手のしやすさや、区の相談窓口については、55.4%の方が「どちらともいえない」と回答しています。また、「とても満足」(3.9%)と「やや満足」(19.3%)を合わせた、《満足》している割合は2割を超えています。

前回調査と比較すると、概ね傾向は同じですが、「とても満足」と「やや満足」と回答した方の割合がわずかに増えています。一方で、「とても不満」と「やや不満」と回答した方の割合はわずかに減っています。

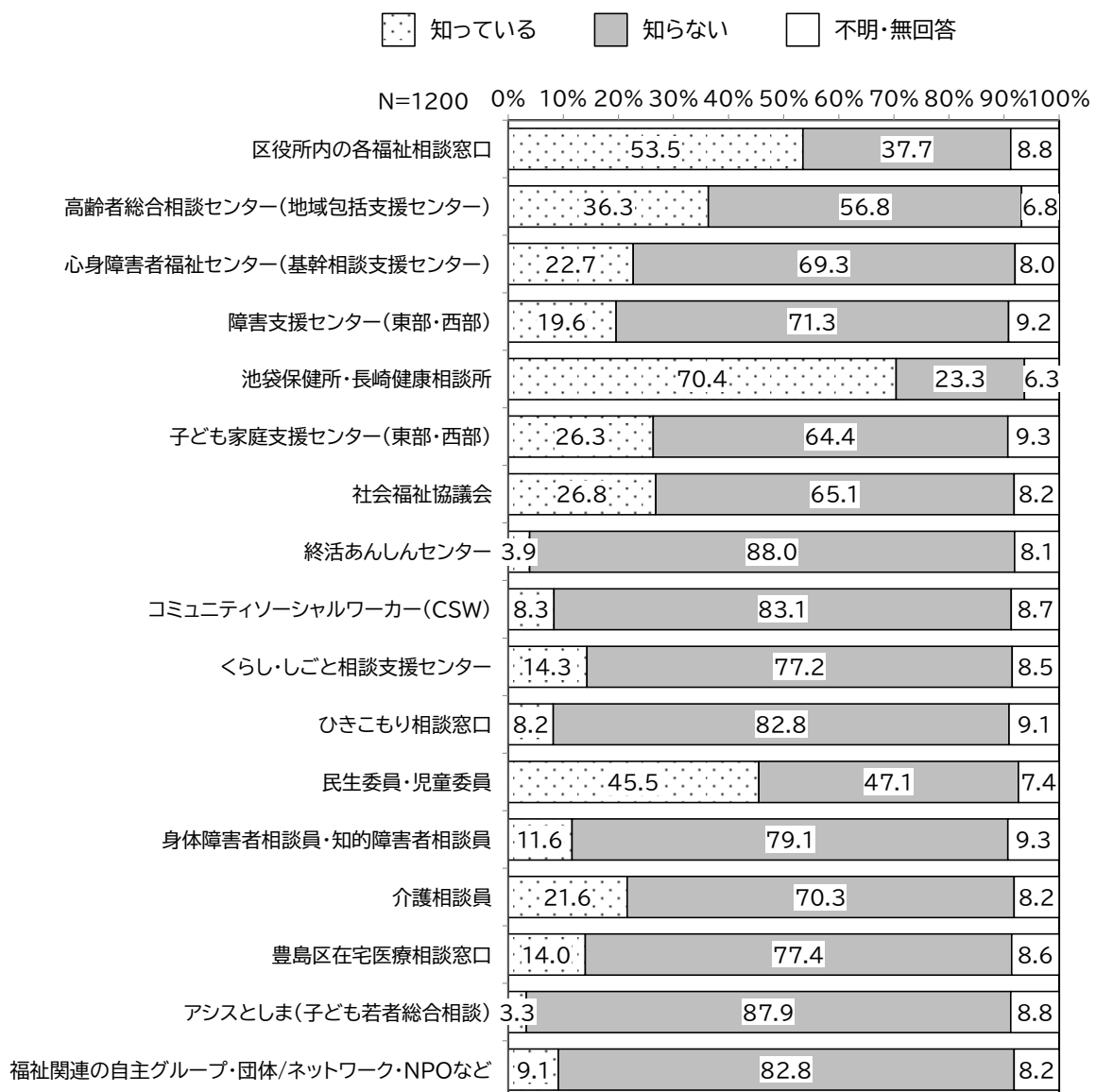


(3) 各種相談窓口の周知度、相談経験、相談の意向

問 24 アからチの相談窓口（人）についてうかがいます。
 ①知っていますか。
 ②相談したことがありますか。
 ③困った時に相談したいと思えますか（利用予定の有無は問いません）。
 それぞれ該当するものに1つ○をつけてください。

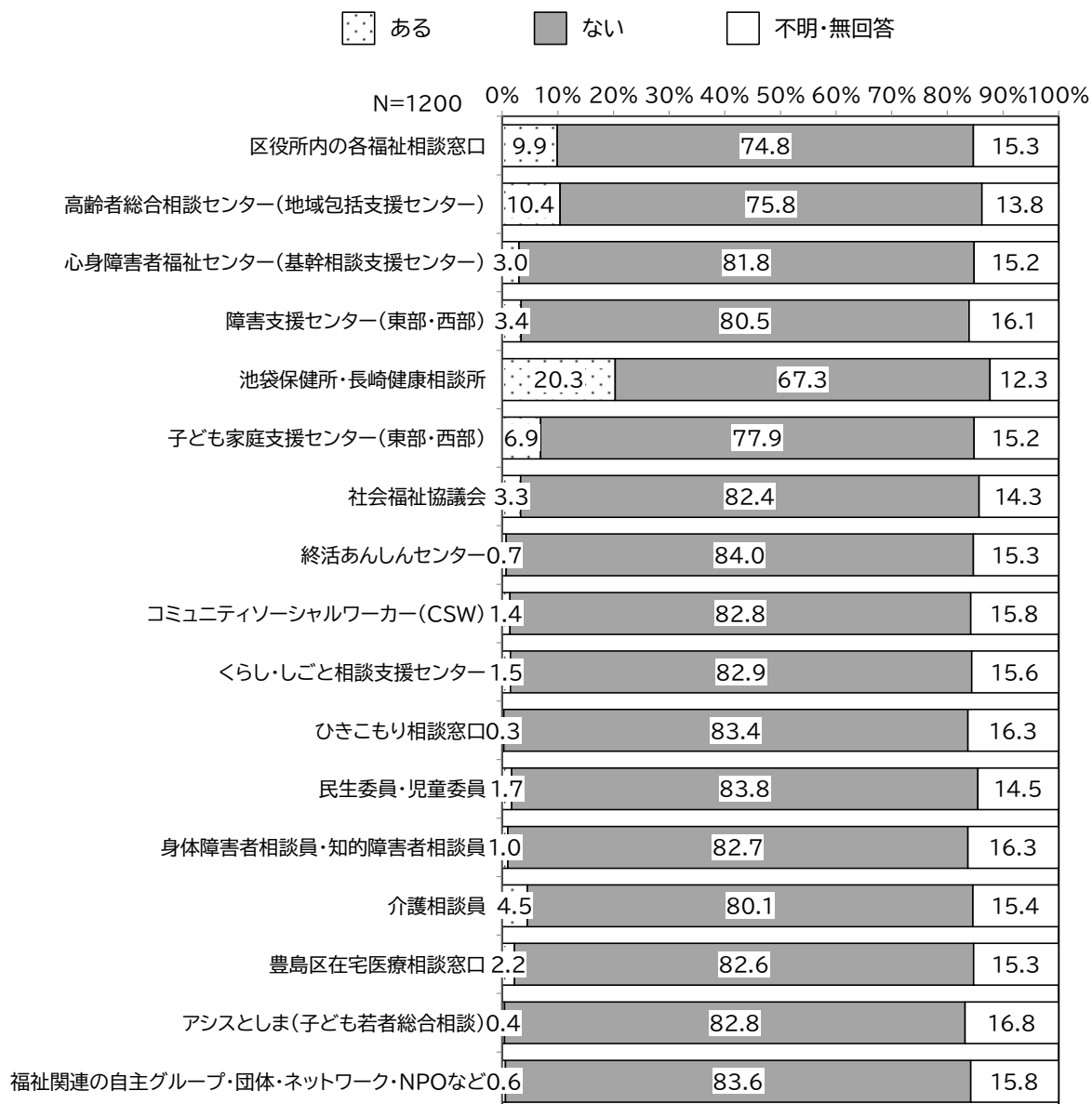
①周知状況（知っていますか）

各種相談窓口の認知度について、周知度が5割を超える相談窓口は、「区役所内の福祉相談窓口」、「池袋保健所・長崎健康相談所」の2つです。一方で、8割の方が「終活あんしんセンター」、「コミュニティソーシャルワーカー（CSW）」、「ひきこもり相談窓口」、「アシストしま（子ども若者総合相談）」、「福祉関連の自主グループ・団体・ネットワーク・NPOなど」を「知らない」と回答しています。



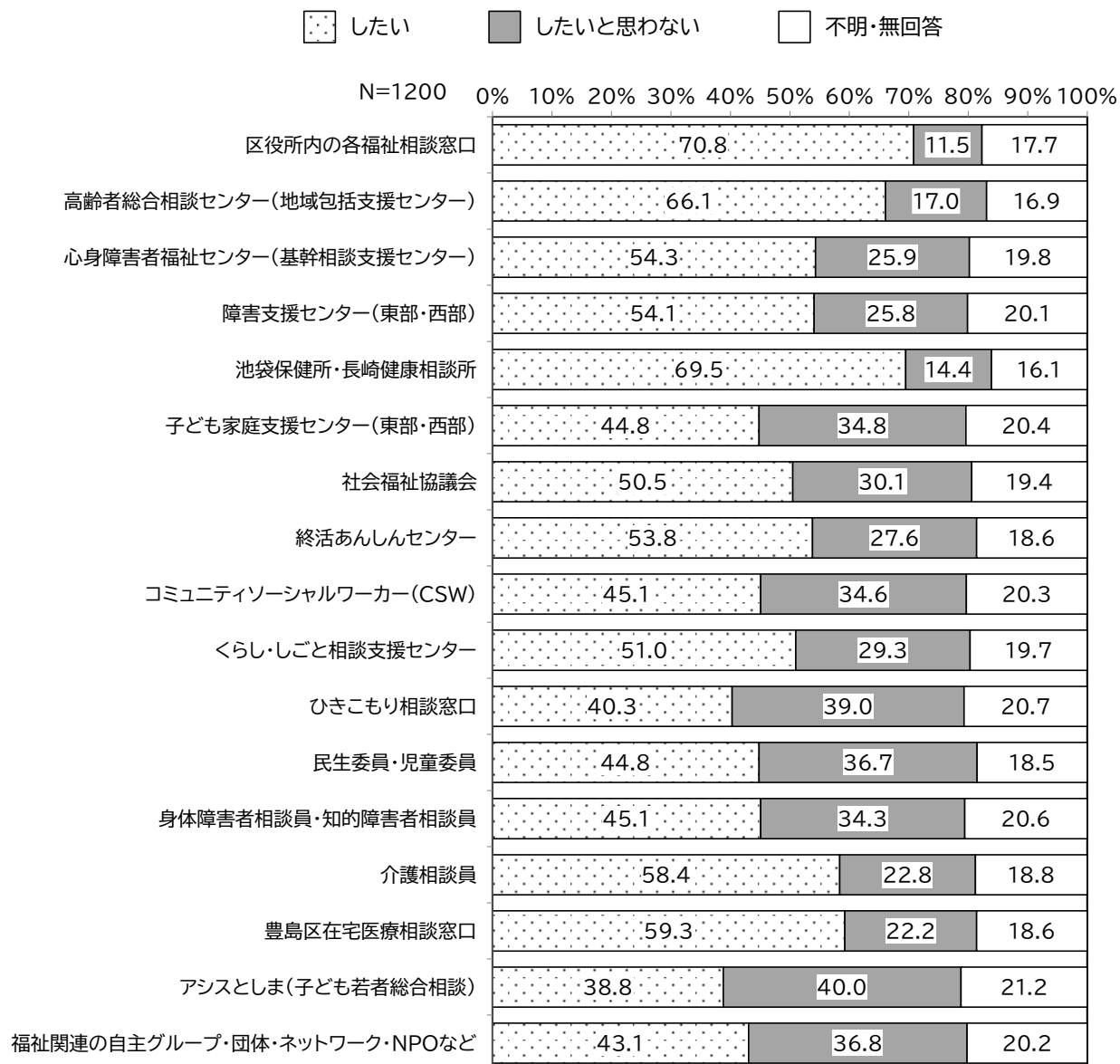
②相談の経験（相談したことがありますか）

各種相談窓口の利用経験について、「ある」と回答したものとして「池袋保健所・長崎健康相談所」（20.3%）が最も多くなっています。それ以外の相談窓口の利用経験は2割に満たない状況です。



③困った時の相談意向（困った時に相談したいと思いますか）

困った時に相談したいと思う相談窓口について、「区役所内の福祉相談窓口」に相談「したい」（70.8%）が最も多く、次いで「池袋保健所・長崎健康相談所」（69.5%）、「高齢者総合相談センター（地域包括支援センター）」（66.1%）と続きます。どの相談窓口も概ね4割以上の方が相談「したい」と回答していますが、「アシスとしま（子ども若者総合相談）」が最も低く38.8%となっています。

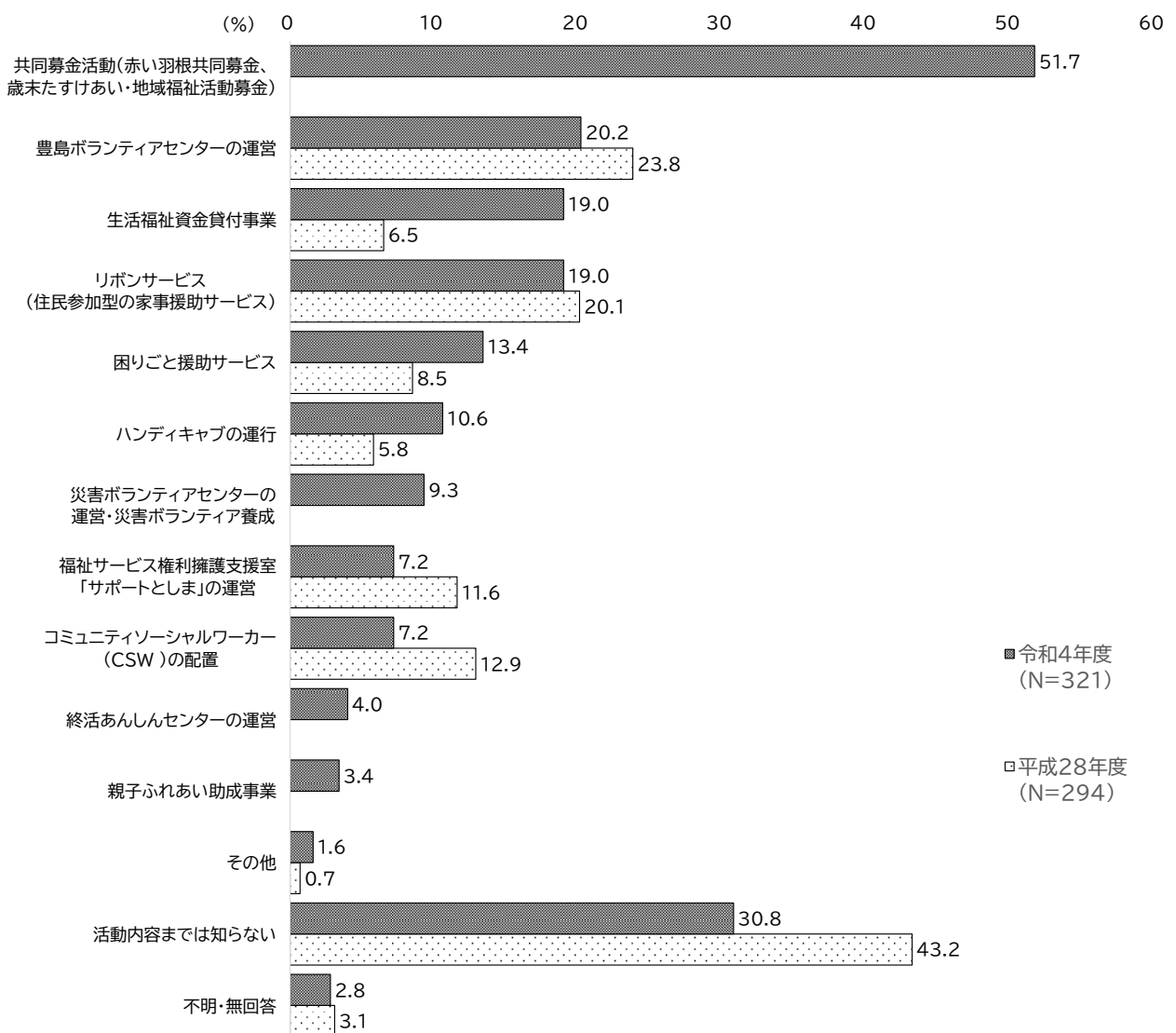


(4) 「社会福祉協議会」の認知度

問 24-1 【問 24①で(キ 社会福祉協議会)を「1 知っている」と回答した方へ】
 区内には地域福祉活動を推進し、社会福祉への住民参加を促し、福祉に対する意識向上のための諸活動を行う民間の「社会福祉法人豊島区民社会福祉協議会」があります。あなたはこの組織の活動内容を知っていますか。(〇はいくつでも)

社会福祉法人豊島区民社会福祉協議会の活動内容の認知度については、「共同募金活動（赤い羽根共同募金、歳末たすけあい・地域福祉活動募金）」（51.7%）が最も多く、次いで「豊島ボランティアセンターの運営」（20.2%）と続いています。一方、約3割の方は「活動内容までは知らない」と回答しています。

前回調査と比較すると、「コミュニティソーシャルワーカー（CSW）の配置」が5.7ポイント減少した一方、「生活福祉資金貸付事業」が12.5ポイント上回るなど、活動内容によって認知度の状況に変化が生じています。



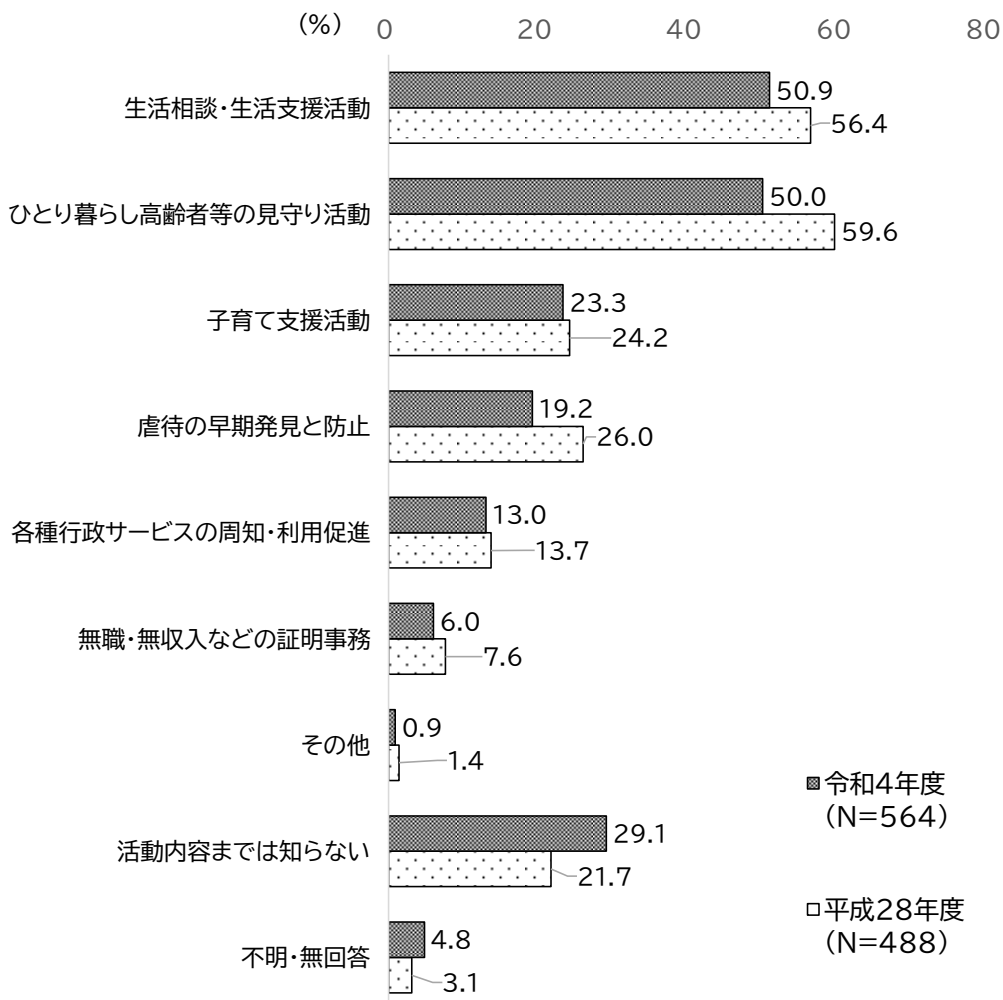
(5) 「民生委員・児童委員」の認知度

問 24-2 【問 24①で（シ 民生委員・児童委員）を「1 知っている」と回答した方へ】

各区市町村には「地域で常に住民の立場に立って相談に応じ、必要な支援を行う」等の目的で、厚生労働大臣から委嘱を受けた「民生委員・児童委員」とよばれる方がいます。この方たちの活動内容を知っていますか。（〇はいくつでも）

民生委員・児童委員の活動内容の認知度については、「生活相談・生活支援活動」（50.9%）が最も多く、次いで「ひとり暮らし高齢者等の見守り活動」（50.0%）、「子育て支援活動」（23.3%）と続いています。一方、3割の方が「活動内容までは知らない」と回答しています。

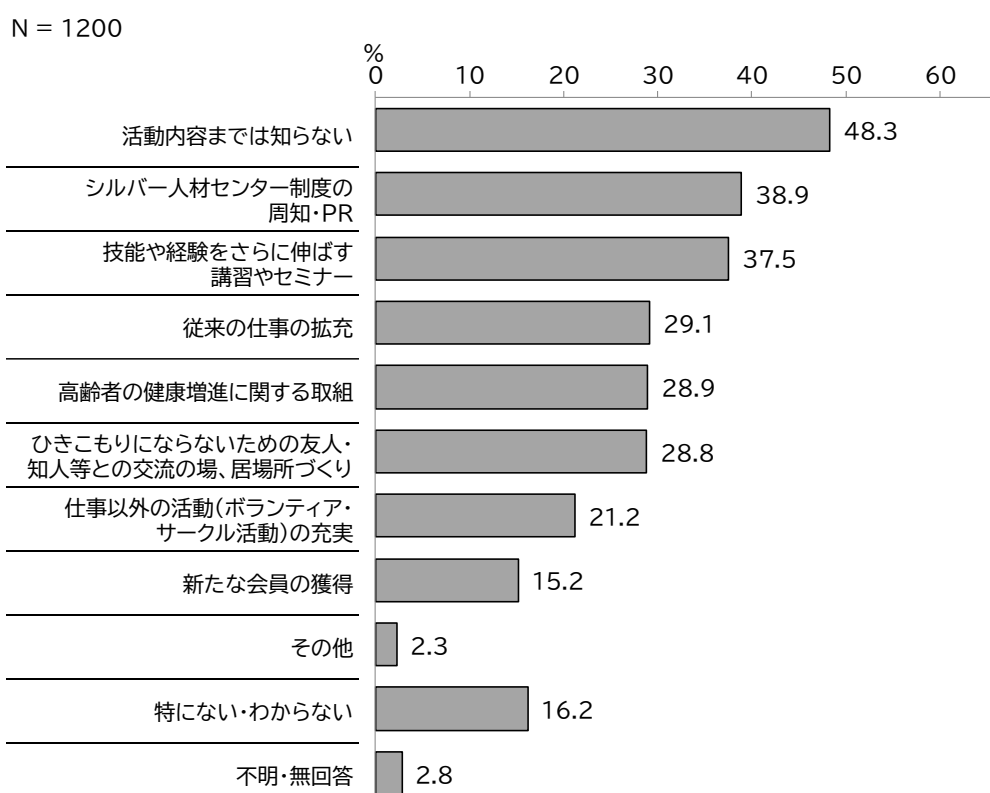
前回調査と比較すると、概ね同じ傾向となっていますが、「活動内容までは知らない」が7.4ポイント増加しています。



(6) シルバー人材センターが重点的に取り組むべき活動

問 25 豊島区在住のおおむね 60 歳以上の方が働くことを通じて生きがいや生活感の充実を図ると共に、地域社会の活性化に貢献する組織として、「豊島区シルバー人材センター」があります。シニア世代の活躍を推進するため、シルバー人材センターはこれからどのような活動に重点的に取り組むべきだと思いますか。（〇はいくつでも）

シルバー人材センターが重点的に取り組むべき活動については、「シルバー人材センター制度の周知・PR」（38.9%）が最も多く、次いで「技能や経験をさらに伸ばす講習やセミナー」（37.5%）、「従来の仕事の拡充」（29.1%）と続いています。一方、約 5 割の方が「活動内容までは知らない」と回答しています。



[年代別]

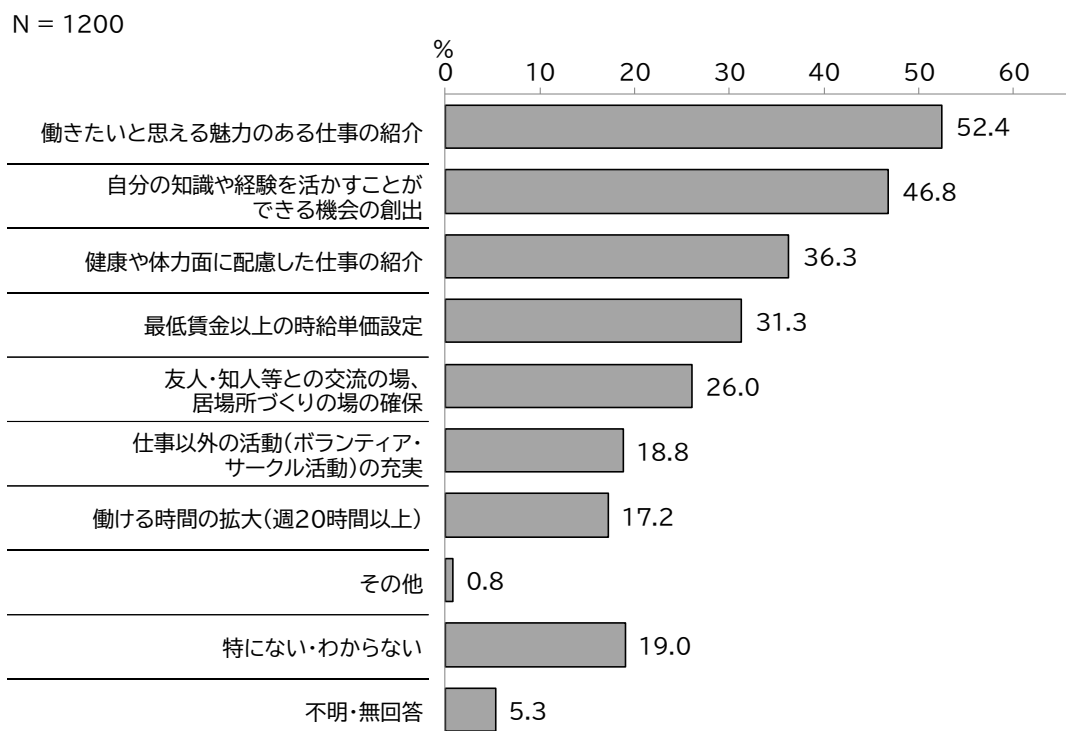
年代別でみると、「活動内容までは知らない」は、「40～49歳」(62.3%)が最も多くなっています。「活動内容までは知らない」以外では、年代で最も多い内容が異なっています。「20～29歳」は、「ひきこもりにならないための友人・知人等との交流の場、居場所づくり」、「30～39歳」、「40～49歳」と60歳以上の世代は、「シルバー人材センター制度の周知・PR」、「50～59歳」は、「技能や経験をさらに伸ばす講習やセミナー」がそれぞれ多くなっています。

		Q25 シルバー人材センターが重点的に取り組むべき活動												
		全体	活動内容までは知らない	技能や経験をさらに伸ばす講習やセミナー	従来の仕事の拡充	新たな会員の獲得	知・PR	シルバー人材センター制度の周知	仕事以外の活動(ボランティア・サークル活動)の充実	高齢者の健康増進に関する取組	ひきこもりにならないための交流の場、居場所づくり	その他	特にない・わからない	不明・無回答
全体	件数	1200	579	450	349	182	467	254	347	345	28	194	33	
	割合(%)	100.0	48.3	37.5	29.1	15.2	38.9	21.2	28.9	28.8	2.3	16.2	2.8	
Q33 年代	20歳未満	10	6	5	5	4	3	3	5	5	-	2	-	
		100.0	60.0	50.0	50.0	40.0	30.0	30.0	50.0	50.0	-	20.0	-	
	20～29歳	110	48	26	31	11	31	21	26	45	-	16	-	
		100.0	43.6	23.6	28.2	10.0	28.2	19.1	23.6	40.9	-	14.5	-	
	30～39歳	177	100	64	52	29	68	48	61	65	11	27	1	
		100.0	56.5	36.2	29.4	16.4	38.4	27.1	34.5	36.7	6.2	15.3	0.6	
	40～49歳	215	134	89	85	41	90	58	72	78	5	15	2	
		100.0	62.3	41.4	39.5	19.1	41.9	27.0	33.5	36.3	2.3	7.0	0.9	
50～59歳	202	117	104	65	33	89	55	64	59	5	22	2		
	100.0	57.9	51.5	32.2	16.3	44.1	27.2	31.7	29.2	2.5	10.9	1.0		
60～64歳	80	40	27	24	14	35	11	20	10	1	16	1		
	100.0	50.0	33.8	30.0	17.5	43.8	13.8	25.0	12.5	1.3	20.0	1.3		
65～74歳	195	86	72	40	27	79	34	60	46	3	45	3		
	100.0	44.1	36.9	20.5	13.8	40.5	17.4	30.8	23.6	1.5	23.1	1.5		
75歳以上	199	45	62	44	21	69	24	37	36	3	49	20		
	100.0	22.6	31.2	22.1	10.6	34.7	12.1	18.6	18.1	1.5	24.6	10.1		

(7) シルバー人材センターに入会したいと思う取り組み

問 26 あなたは、どのような取り組みがあれば、シルバー人材センターに入会したいと思いますか。※60歳未満の方は、将来のご希望についてお考えください。(〇はいくつでも)

シルバー人材センターに入会したいと思う取り組みについては、「働きたいと思える魅力のある仕事の紹介」(52.4%)が最も多く、次いで「自分の知識や経験を活かすことができる機会の創出」(46.8%)、「健康や体力面に配慮した仕事の紹介」(36.3%)と続いています。



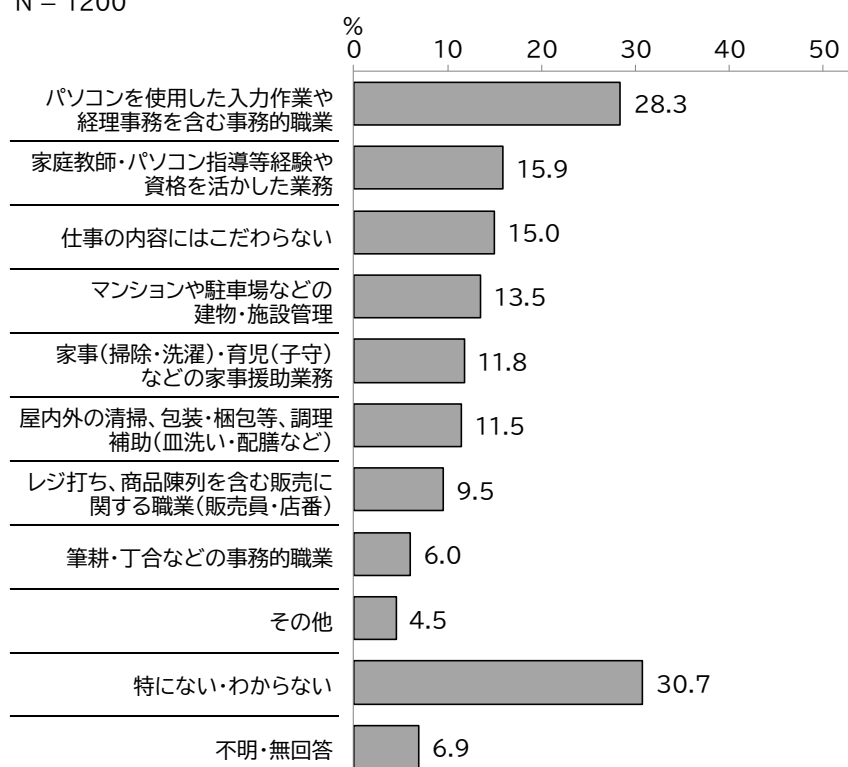
(8) シルバー人材センターを利用して働きたい業務

問 27 シルバー人材センターを利用して働くとしたら、どのような業務で働きたいですか。※60歳未満の方は、将来のご希望についてお考えください。(〇はいくつでも)

シルバー人材センターを利用して働きたい業務については、「パソコンを使用した入力作業や経理事務を含む事務的職業」(28.3%)が最も多く、次いで、「家庭教師・パソコン指導等経験や資格を活かした業務」(15.9%)、「仕事の内容にはこだわらない」(15.0%)と続いています。一方、約3割の方が「特にない・わからない」と回答しています。

[シルバー人材センターを利用して働きたい業務]

N = 1200

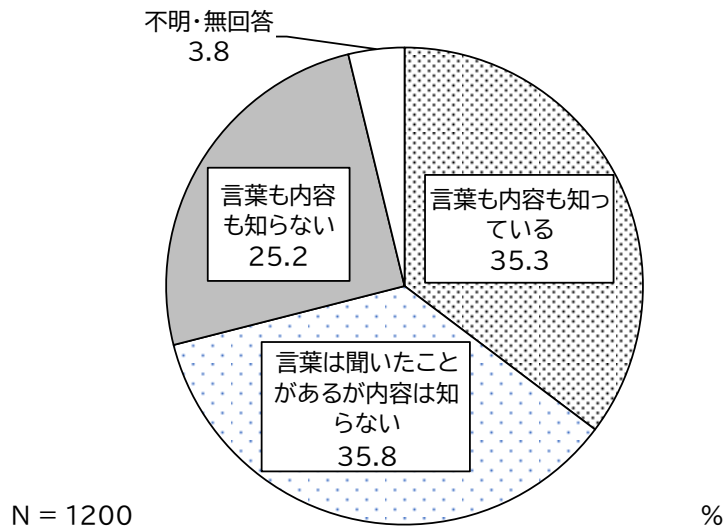


(9) 成年後見制度の認知度

問 28 成年後見制度*について、知っていますか。(○は1つのみ)

* 認知症、知的障害その他の精神上的の障害などによって物事を判断する能力が十分ではない方の日常生活を法的に支援する制度のこと

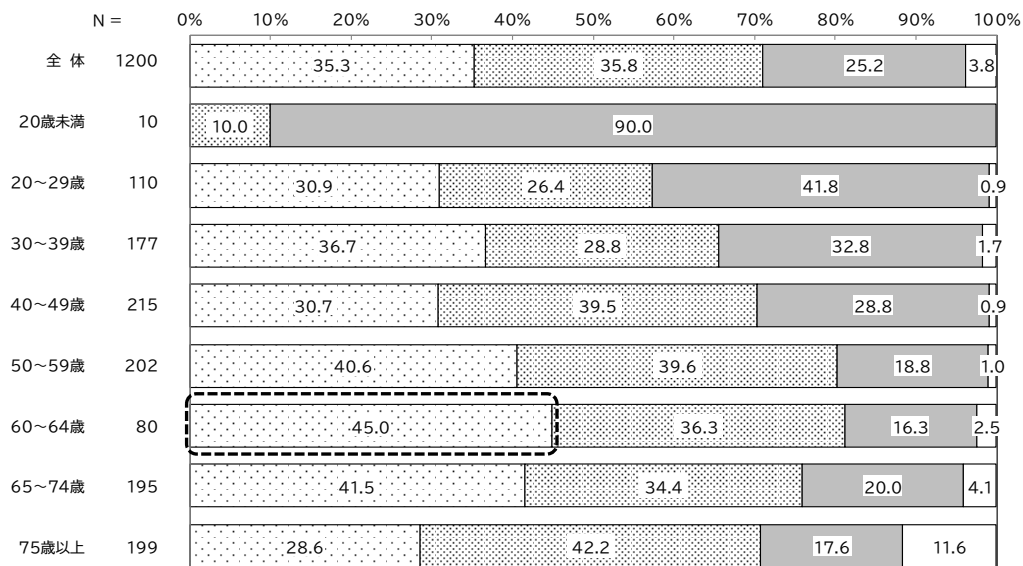
成年後見制度について、35.3%の方が「言葉も内容も知っている」と回答しています。



[年代別]

年代別でみると、「言葉も内容も知っている」と回答した方は、「60～64歳」(45.0%)が最も多く、50代以降(75歳以上は除く)で4割を超えています。一方、40代以前では3割程度にとどまっており、「20歳未満」では、回答した10名のうち、内容まで知っている人はいませんでした。

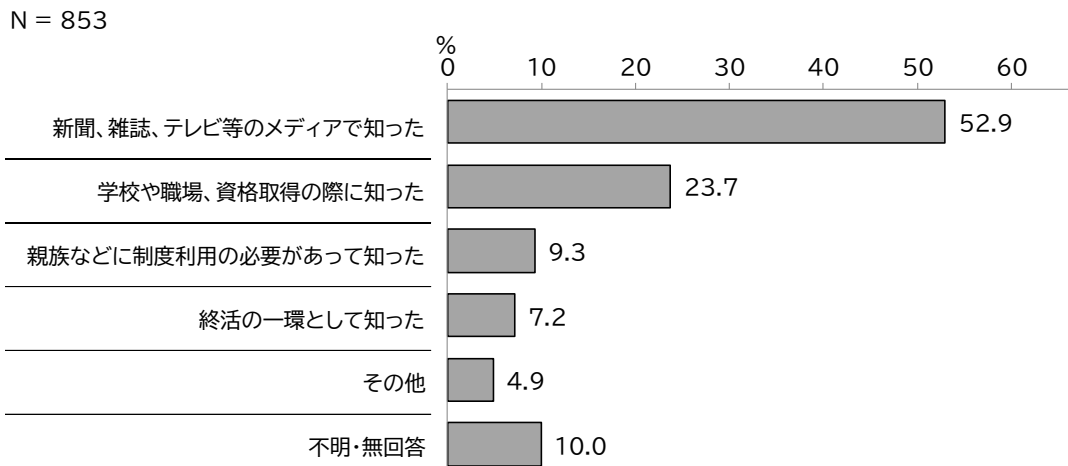
言葉も内容も知っている
 言葉は聞いたことがあるが内容は知らない
 言葉も内容も知らない
 不明・無回答



(10) 成年後見制度を知ったきっかけ

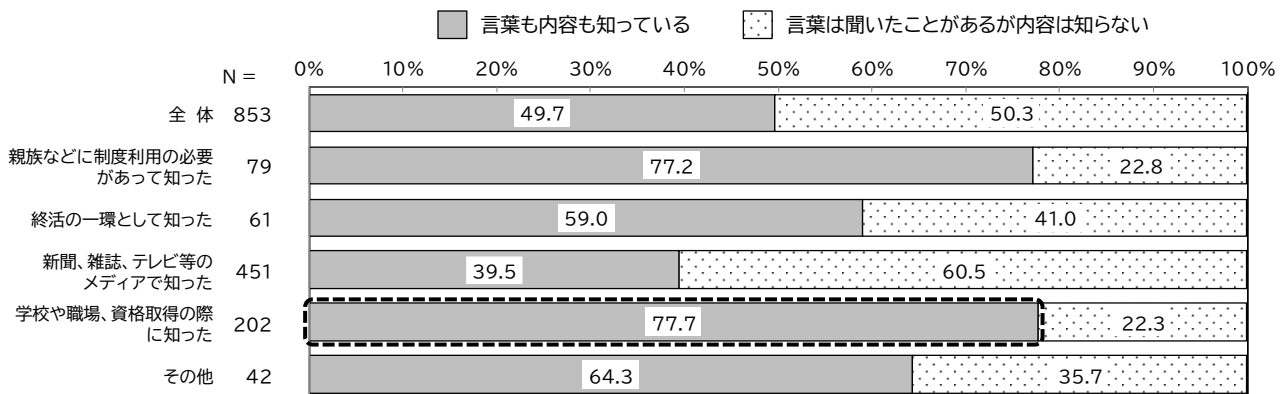
問 28-1 【問 28 で「1 言葉も内容も知っている」「2 言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」を回答した方へ】
 あなたが成年後見制度を知ったきっかけは何ですか。（○はいくつでも）

成年後見制度を知ったきっかけについては、「新聞、雑誌、テレビ等のメディアで知った」(52.9%) が最も多く、次いで「学校や職場、資格取得の際に知った」(23.7%) と続いています。



[成年後見制度を知ったきっかけ別]

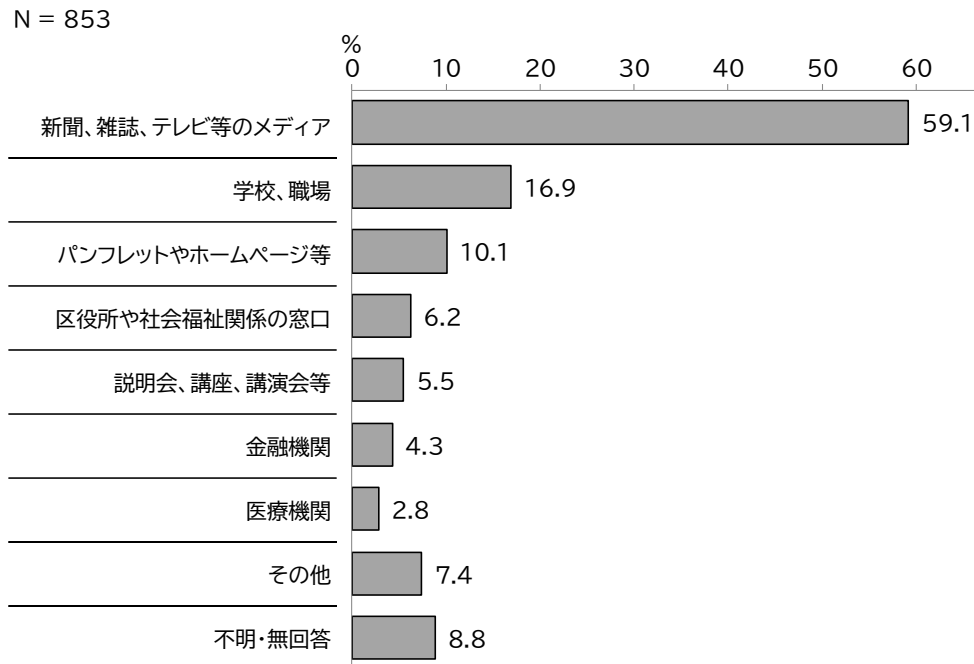
きっかけごとに認知状況が異なります。具体的には、「新聞、雑誌、テレビ等のメディアで知った」は、「言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」、それ以外のきっかけは、「言葉も内容も知っている」が最も多くなっています。また、「言葉も内容も知っている」のうち、きっかけとして「学校や職場、資格取得の際に知った」(77.7%) が最も多くなっています。



(11) 成年後見制度の情報の入手先

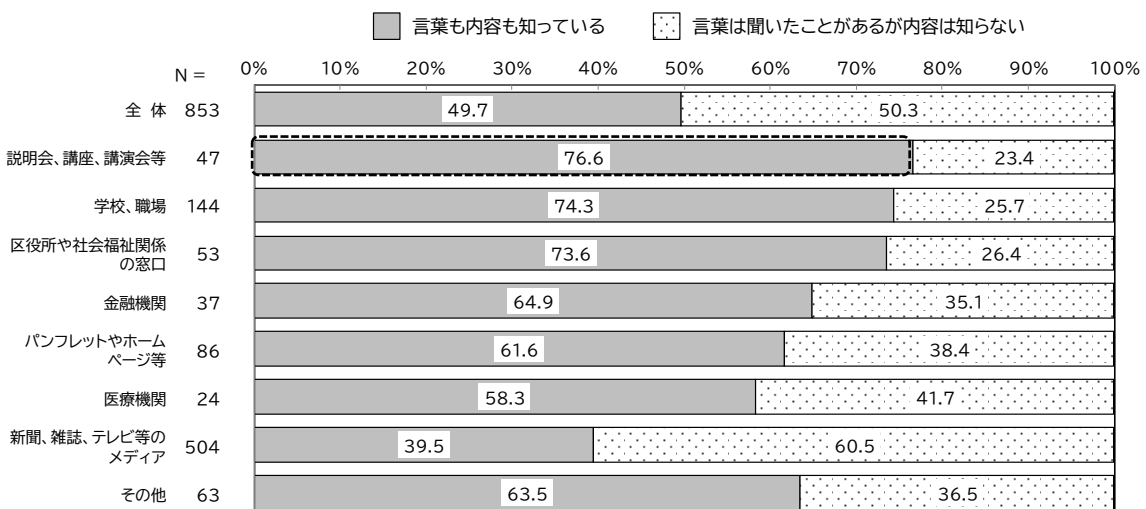
問 28-2 【問 28 で「1 言葉も内容も知っている」「2 言葉は聞いたことがあるが内容は知らない」を回答した方へ】
 成年後見制度に関する情報をどこから得ましたか。（○はいくつでも）

成年後見制度の情報の入手先については、「新聞、雑誌、テレビ等のメディア」（59.1%）が最も多く、次いで、「学校、職場」（16.9%）と続いています。



[成年後見制度の情報の入手先別]

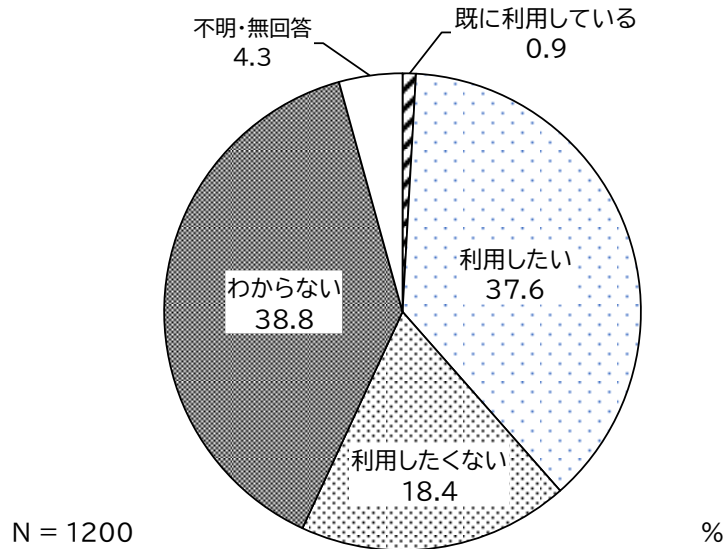
「言葉も内容も知っている」と回答した方の情報の入手先は、「説明会、講座、講演会等」（76.6%）が最も多くなっています。



(12) 成年後見制度の利用意向

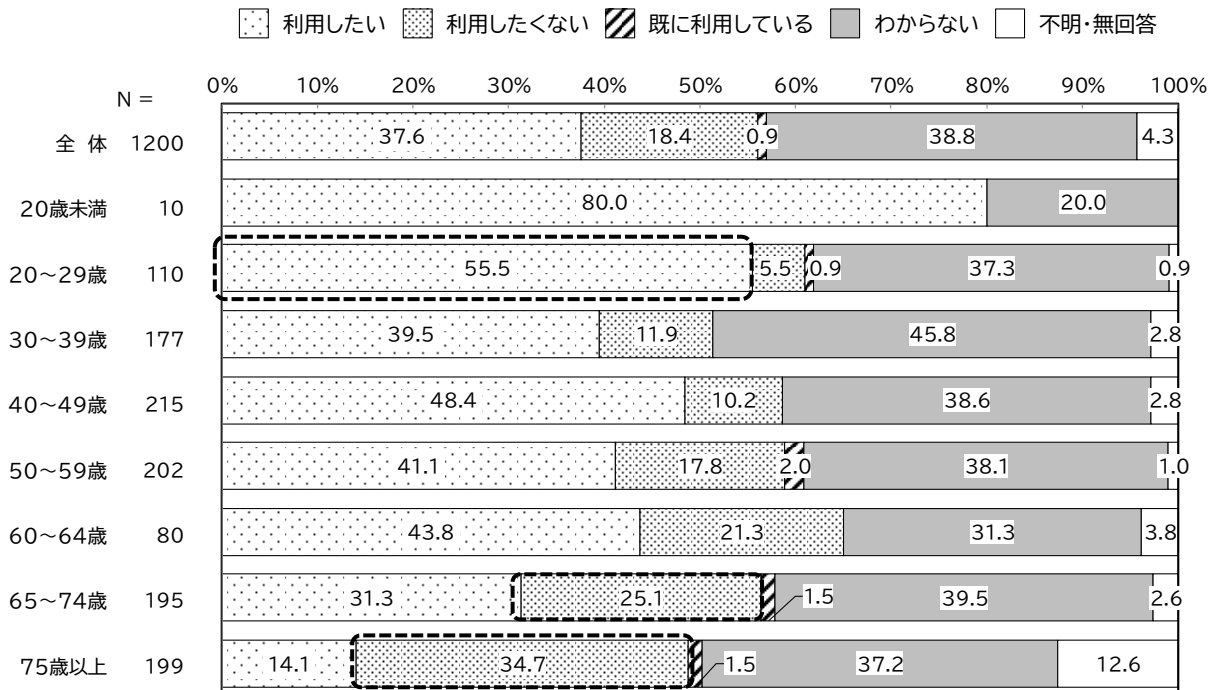
問 29 あなたや家族が認知症等により判断が十分にできなくなった場合、成年後見制度を利用したいと思いますか。（○は1つのみ）

成年後見制度について、0.9 %の方が「既に利用している」、37.6%の方が「利用したい」と回答しています。一方、18.4 %の方が「利用したくない」と回答しています。



[年代別]

年代別でみると、「利用したい」は、「20～29 歳」(55.5%) に多い傾向があります。一方「利用したくない」は、「75 歳以上」で 34.7% と多く、次いで「65～74 歳」(25.1%) と続いています。

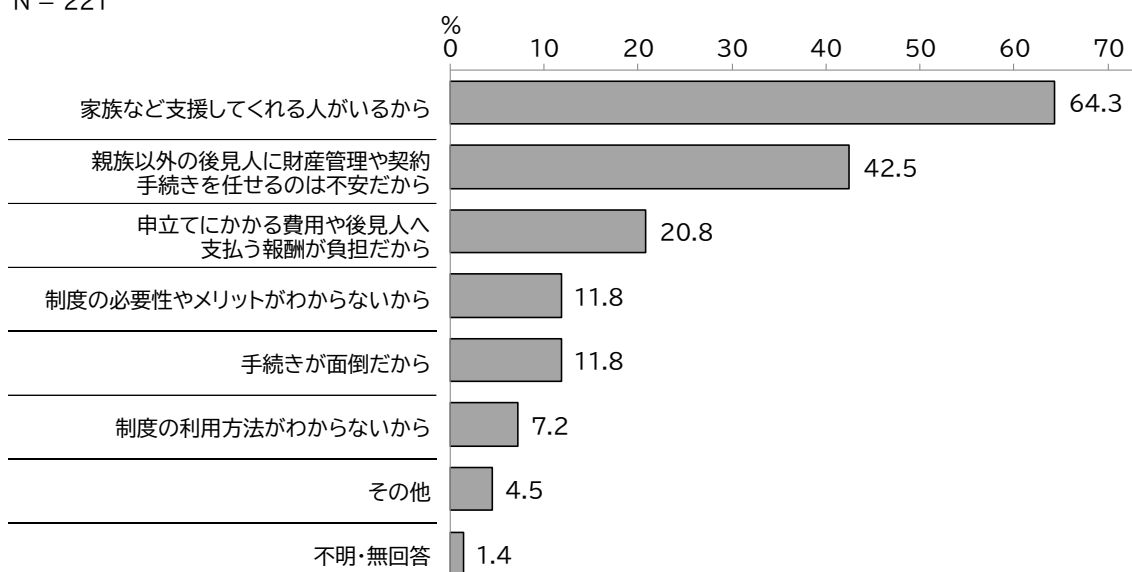


(13) 成年後見制度を利用したくない理由

問 29-1 【問 29 で「3 利用したくない」を回答した方へ】
利用したくない理由は何ですか。（○はいくつでも）

成年後見制度を利用したくない理由については、「家族など支援してくれる人がいるから」（64.3%）が最も多く、次いで「親族以外の後見人に財産管理や契約手続きを任せるのは不安だから」（42.5%）、「申立てにかかる費用や後見人へ支払う報酬が負担だから」（20.8%）と続いています。

N = 221

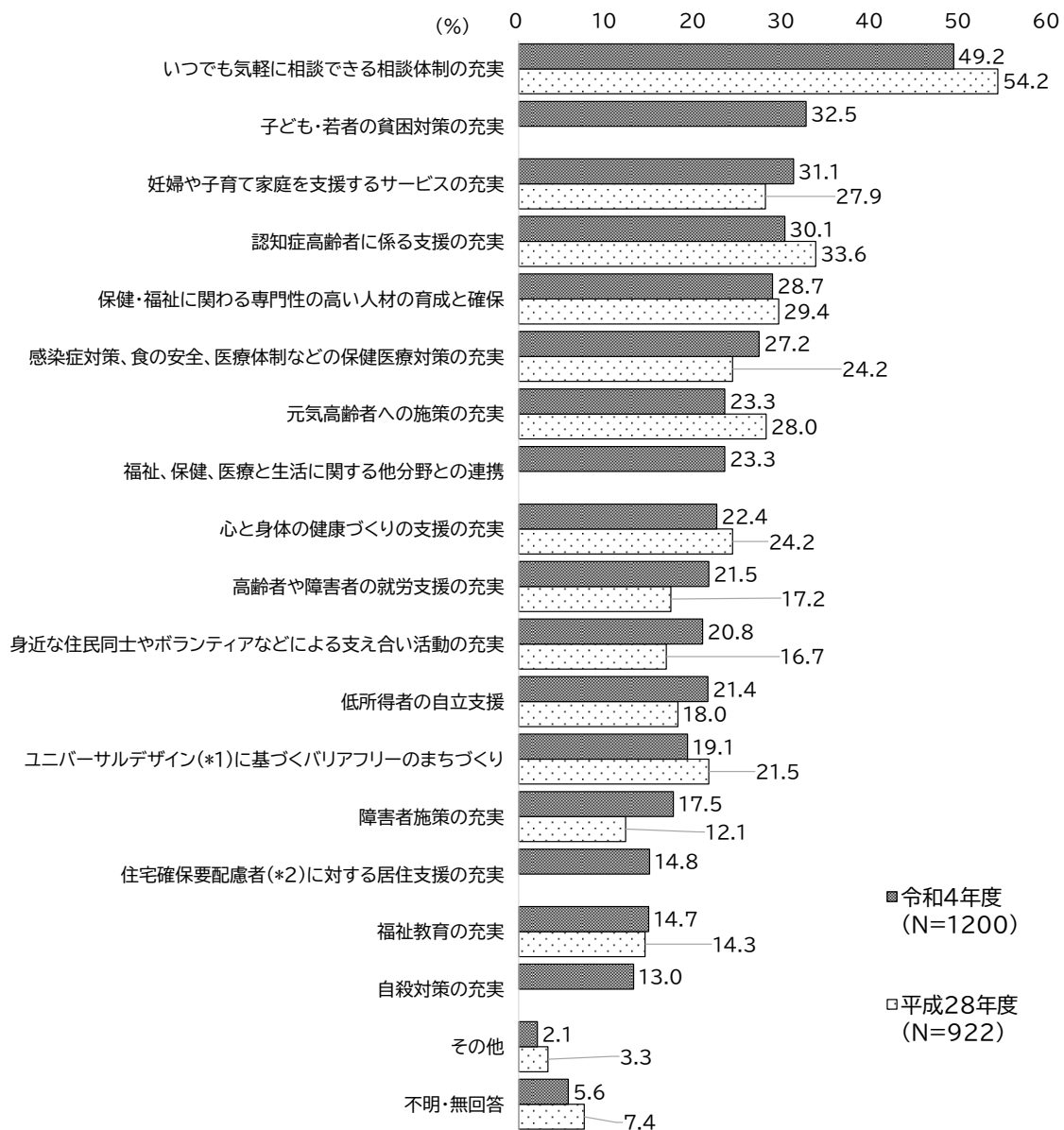


(14) 地域の保健福祉の推進で力を入れてほしいこと

問 30 豊島区では、地域の保健福祉の推進に取り組んでいます。あなたはどのようなことに力を入れてほしいですか。（〇はいくつでも）

地域の保健福祉の推進で力を入れてほしいこととしては、「いつでも気軽に相談できる相談体制の充実」(49.2%)が最も多く、次いで「子ども・若者の貧困対策の充実」(32.5%)、「妊婦や子育て家庭を支援するサービスの充実」(31.1%)と続いています。

前回調査と比べると、上位5つの項目では、「妊婦や子育て家庭を支援するサービスの充実」が増えています。一方、「いつでも気軽に相談できる相談体制の充実」、「認知症高齢者に係る支援の充実」が減っています。



* 1 ...障害の有無や年齢、性別、国籍にかかわらず、誰もが使いやすい施設、製品、環境等のデザインのこと

* 2 ...低額所得者、被災者、高齢者、障害者、子供を養育する者、その他住宅の確保に特に配慮を要する者（外国人、中国残留邦人、児童虐待を受けた者、ハンセン病療養所入所者、DV被害者、拉致被害者、犯罪被害者、矯正施設退所者、生活困窮者など）のこと

[年代別]

年代別でみると、「20歳未満」、「20～29歳」では「子ども・若者の貧困対策の充実」、「30～39歳」では、「妊婦や子育て家庭を支援するサービスの充実」、40歳以上の世代では、「いつでも気軽に相談できる相談体制の充実」がそれぞれ最も多くなっています。

		全体	Q30 地域の保健福祉の推進で力を入れてほしいこと									
			身近な住民同士の活動の充実	いつでも気軽に相談できる相談体制の充実	保健・福祉に関する専門性の高い人材の育成と確保	福祉教育の充実	妊婦や子育て家庭を支援するサービスの充実	障害者施策の充実	認知症高齢者に係る支援の充実	元気高齢者への施策の充実	住宅確保要配慮者に対する居住支援の充実	高齢者や障害者の就労支援の充実
全体	件数	1200	250	590	344	176	373	210	361	280	177	258
	割合(%)	100.0	20.8	49.2	28.7	14.7	31.1	17.5	30.1	23.3	14.8	21.5
Q33年代	20歳未満	10	3	5	5	3	6	4	3	1	3	3
		100.0	30.0	50.0	50.0	30.0	60.0	40.0	30.0	10.0	30.0	30.0
	20～29歳	110	21	43	27	19	47	19	18	13	11	18
		100.0	19.1	39.1	24.5	17.3	42.7	17.3	16.4	11.8	10.0	16.4
	30～39歳	177	41	75	51	30	121	30	41	30	24	37
		100.0	23.2	42.4	28.8	16.9	68.4	16.9	23.2	16.9	13.6	20.9
	40～49歳	215	54	101	58	39	80	37	60	58	32	51
		100.0	25.1	47.0	27.0	18.1	37.2	17.2	27.9	27.0	14.9	23.7
50～59歳	202	44	115	73	29	41	38	74	55	34	63	
	100.0	21.8	56.9	36.1	14.4	20.3	18.8	36.6	27.2	16.8	31.2	
60～64歳	80	13	38	22	8	14	12	29	14	11	19	
	100.0	16.3	47.5	27.5	10.0	17.5	15.0	36.3	17.5	13.8	23.8	
65～74歳	195	36	107	53	22	44	39	75	55	40	44	
	100.0	18.5	54.9	27.2	11.3	22.6	20.0	38.5	28.2	20.5	22.6	
75歳以上	199	37	102	55	26	18	31	59	52	21	22	
	100.0	18.6	51.3	27.6	13.1	9.0	15.6	29.6	26.1	10.6	11.1	

		全体	Q30 地域の保健福祉の推進で力を入れてほしいこと								その他	不明・無回答
			子ども・若者の貧困対策の充実	低所得者の自立支援	ユニバーサルデザインに基づくバリアーフ	心と身体の健康づくりの支援の充実	自殺対策の充実	感染症医療対策、食の安全、医療体制などの	福祉、保健、医療と生活に関する他分野との連携			
全体	件数	1200	390	257	229	269	156	326	279	25	67	
	割合(%)	100.0	32.5	21.4	19.1	22.4	13.0	27.2	23.3	2.1	5.6	
Q33年代	20歳未満	10	8	4	3	3	5	4	2	-	-	
		100.0	80.0	40.0	30.0	30.0	50.0	40.0	20.0	-	-	
	20～29歳	110	54	29	20	24	20	26	25	-	4	
		100.0	49.1	26.4	18.2	21.8	18.2	23.6	22.7	-	3.6	
	30～39歳	177	86	43	43	44	33	48	31	5	4	
		100.0	48.6	24.3	24.3	24.9	18.6	27.1	17.5	2.8	2.3	
	40～49歳	215	79	42	58	59	39	53	53	3	9	
		100.0	36.7	19.5	27.0	27.4	18.1	24.7	24.7	1.4	4.2	
50～59歳	202	56	44	37	41	25	58	52	9	4		
	100.0	27.7	21.8	18.3	20.3	12.4	28.7	25.7	4.5	2.0		
60～64歳	80	21	17	12	19	6	25	17	3	3		
	100.0	26.3	21.3	15.0	23.8	7.5	31.3	21.3	3.8	3.8		
65～74歳	195	53	43	29	40	17	54	46	3	9		
	100.0	27.2	22.1	14.9	20.5	8.7	27.7	23.6	1.5	4.6		
75歳以上	199	32	32	26	36	11	57	51	2	30		
	100.0	16.1	16.1	13.1	18.1	5.5	28.6	25.6	1.0	15.1		

(15) 自由意見・要望等（自由回答）

問 31 身近な生活上の問題で困っていることや保険・福祉の課題について感じていることなど、ご意見を自由にご記入ください。※自由記入

意見・要望等の自由回答欄には、回答者 1200 人のうち、279 人（記入の割合：23.3%）の方に記入いただきました。本報告書では、紙面の都合上すべてを掲載することができないためその一部を紹介いたします。掲載内容は、恣意的な解釈が入らないよう、できる限り原文に近い表記とさせていただきます。一番記載の多かった内容は、「まちづくりに関すること」で 51 件、次に「高齢者に関すること」（31 件）、「福祉サービスに関すること」（30 件）、「所得・税金・生活困窮に関すること」（25 件）と続いています。

分野	件数
まちづくりに関すること	51
高齢者に関すること	31
福祉サービスに関すること	30
所得・税金・生活困窮に関すること	25
区民の意識・モラル等に関すること	23
子ども・子育てに関すること	22
外国人・異文化に関すること	15
住民同士の支え合いや地域活動に関すること	15
医療・健康づくりに関すること	14
区政全般に関すること	13
障害者に関すること	13
本アンケートに関すること	10
防災・防犯に関すること	8
日常生活に関すること	2
その他に関すること	42

※1人で複数の記載があるため、件数の合計と記入者数は一致しません。

【まちづくりに関すること】

<p>駐輪場が少ない。子どもを連れて遊べる施設が少ない。どちらも増えるとありがたいです。</p>
<p>当地域は人口密度が高く、歩道を自転車で通行する人々が多く、高齢者が巻き込まれたり、自転車同士の事故も多く発生しています。歩道を広くして、自転車の通行は車道側にしてほしいです。</p>
<p>駅付近はベビーカーでの移動が大変で、主な理由は、地下に降りるエレベーターが少ない（特に早朝）、人が多い（駅構内東西の行き来がしづらい）、歩道が人口量に対して狭い（看板なども妨げになる）、です。</p>
<p>道路の狭い所が多いが、車や自転車の交通量が多い為、子供の事故が心配である。</p>
<p>道のアスファルトが劣化して、へこんでいたり、段差があったりする所が多く、歩きにくい。街灯がよく切れている。</p>
<p>高齢者がカートを押して歩くことが、容易な街にして欲しい。駅地下通路（長いところ）に途中で休めるベンチ等が必要。ちょっとした（数段の）階段でも、通行に不自由。地下駅へ降りるのに、エレベーターが、大きな道路の片側にしかない。</p>
<p>イケバスは車体が小さいので住宅地を走るようにして、高齢者や小さな子供連れの人の「足」となるようにして欲しい。</p>
<p>空室の建物が多く、とても危険を感じます。1歳5ヶ月の子供がいますが、散歩する際に、ビクビクしながら歩いています。危険建物対策や撤去などがもっとできるようになりましたら、うれしいです。豊島区はとてもすみやすい地域です。</p>

【高齢者に関すること】

<p>今は買い物に行かれるが、脚、腰が弱って行かれなくなったらと思うと行先が心配、あと何年歩けるか。</p>
<p>インターネット等が苦手、地域の集会所等で情報を得ることしかできない。ある程度、高齢者のいる宅には、敬老の日には“こまりごとハガキ、手紙”ではなく、訪問できて直接話ができれば良いのと思う。（高齢者のいる家族でも可）</p>
<p>高齢者が入居できる住宅の拡充を進めて欲しい。豊島区は少ないし、民間アパート等も、年齢で入居を断われた経験がある。今後は更に高齢者が増えるので、前向きに検討して下さい。</p>
<p>希望するケアマネジャーがいない。ショートステイだけ利用したいが、デイサービスとの併用を強いられたり、良いケアマネジャーが探せません。区役所やアトリエ村に相談してもダメで、何もサービスが受けられていません。もっと気軽にショートステイを使えたらと思う。</p>
<p>デジタル化が進み便利になったら、使いこなせない人（高齢者など）は不便を感じているのではないかと感じている。1人暮らしの元気な高齢者の方で、たまたま知り合いだったからバスの予約やオンライン診療などの手助けは出来たが、そうでない場合相談できる場所もなく困っている（利用できない）のではないかなと思う。</p>

【福祉サービスに関すること】

現在も生理用ナプキン無料提供サービスを豊島区で実施していますが、やはり毎月消費するものであり、1つ買うのも値段が高いので、もっと設置を増やしたり分かりやすく（ここに設置されているなど）情報が増えると嬉しいです!!子供がいる方のオムツなどもきつと低収入の方々は大変なのかなとも思いますし、日々使用しなければならない物など（年齢や個人でも違いますが…）収入に限らず手に取りやすくなると良いなと思います。知らない情報も広く知られるとよりよくなるのかなと思います。

保健や福祉について、自分で調べないと知らないことや分からないことが多いので、どうしても認知度に差が生まれてしまうのかなと思いました。

何をどこに相談したら良いのか、こんな時はどうするのか、窓口が多すぎて複雑だと思います。窓口は1つにするなどシンプルなシステム、分かりやすい（どんな方にも）よう改善して頂けると助かります。大変な道のりだとは思いますが、そうなる事を願い、応援しております。頑張ってください。

他人には個人のことなので話せないのが、公的相談窓口の周知や相談しやすい体制にもっとなってもらいたい。

保健福祉の活動について、今後重要になるのは、検索して必要な情報が出ることに加え、「困ったら区のページを見ればいい」状態にすることです。情報の整理と継続的な拡充、そしてそれを可能にする仕組みを作ってください。

【所得・税金・生活困窮に関すること】

コロナで収入が下がってしまい、さまざまな給付金のお世話になりました。（自営業者です）コロナ関連の給付金制度はなくなりましたが、もう少し続けてほしいです。

ずっと賃貸マンションに居住しており、何度か都営等、申し込むが当たらず、少ない年金生活（仕事はしている）で家賃の負担は大きい。離婚してふたりの子供を育ててきたものの、色々苦勞があります。子供がなかなか自立出来ない。その為、家賃の出費は大きい。

物価の高騰で生活が圧迫されている。この問題に対して、区としてもしっかりと対応してもらいたい。

1人親への支援のはばを広げてほしい。コロナも含め世帯収入等で受給できる方とできない方の差がはげしい。とても困る。1人親の土、日仕事で子供を預ける場所がなくてこまっている。とてもこまる。何とかしてほしい。そういった支援にも目を向けてほしい。何も変わらないのが現実ですね。

【区民の意識・モラル等に関すること】

<p>路上喫煙者（電子タバコ含む）がたくさんいます。豊島区は特に多いと感じます。子供の健康被害が心配です。ボランティア活動（特に外国人支援）に興味ありますが、情報収集が難しく、区のHPで紹介をお願いします。</p>
<p>自転車の危険な走行が目立つ。自転車の交通ルールをきちんと整備してほしい。</p>
<p>放置自転車が多すぎる。狭い道で車道にはみ出して置かれていることが多く、通行の妨げになっているので対応してほしい。路上喫煙が多い。</p>
<p>小さい頃から、障害者の方や外国人の方（様々なジェンダーの方）など、多種多様な人とのふれあいがあれば、自ずと手話、点字、英語をはじめとする外国語など学びたいという意欲が出てくるのかなと自分の経験上感じます。それが当たり前でないということが、大人になって知ったので、もっと全体的に当たり前にそういう機会がたくさん持てたらいいのになあと思っています。</p>

【子ども・子育てに関すること】

<p>産後の子育てサポートを受ける手順が難しく感じ、利用したくても、一度も利用できませんでした。産後の体調を考慮した手続きを希望致します。</p>
<p>働く母親が増え、地域に関わる時間、家庭教育にゆとりがない親が多いと感じます。ぜひ学校教育の中で、日常についていけないお子さんを見過ごさない様にして欲しいと思います。</p>
<p>エレベーターが少なくベビーカーでの移動が大変 子供、妊娠、出産後のケア等が充実していない。</p>
<p>未来ある子供・若者がイキイキと暮らせる社会になってほしい。生まれた環境によって、教育の格差を考えさせられる。やる気と根性がある若い人達にチャンスがある社会になってほしい。</p>
<p>育児関連で区に様々なサポートがあるのは知っているが、いちいち登録しに行かなくてはならなかったり、めんどろ。助けが必要な時に、すぐ助けてほしい。</p>
<p>妊娠届や出生届であったり、保育園の申込時、育事に関する補助を受ける時等、一体何度同じ情報を書いたかわかりません。個人情報連携をしっかりとできる仕組みの改善が必要だと思います。</p>

【外国人・異文化に関すること】

<p>外国籍の方たちの生活マナー（ゴミの出し方、深夜の騒音、放置物など）が気になる。多くの国の人が集まることは良いことだと思うが、日本で暮らす上での最低限のルールやマナーを教えてあげられる場所や機会を増やしてほしい。</p>
<p>私と主人が日本語をわからないので、生活上で不便が多くあります。例えば、子供の学校の先生とコミュニケーションを取りづらいのがあります。そして、日本語がわからないため、カードを作るときに値引きがあるのにできずなど、生活面で余計なお金をかかります。特に日本語で一番苦戦するのは銀行カードを作るときです。まあまとめると、日本語を理解できないせいで困難が多々あります。</p>

【住民同士の支え合いや地域活動に関すること】

子供食堂とか、ホームレスへのボランティアでやれることがあるかとも思っているが、どんな支援をしているのか、どこでやっているのか等よくわからない

地域の行事等掲示板にしかないものを、SNSなどで一つの地域でまとめて共有してほしい

町会に30年以上入っていて、回覧板は来ないが集金・募金は必ず来ていて、毎回きちんと払っていた。金は取るが、回覧板は1回も来ない。30年以上、町会が何をやっているか、わからなかった。今は入っていないから、今もわからないが、ただばかみたいに金を取られていただけだ。

【医療・健康づくりに関すること】

豊島区特定健診・がん検診はありがたく受診していますが、胃がん検診の胃内視鏡検査、乳がん検診、眼底検査等は偶数年齢者のみが対象となっています。毎年検査できるようになる事を強く望みます。

【区政全般に関すること】

困ってからではなく行政サービスや施設、支援など分かりやすく情報を提供してほしい。何でも携帯電話、パソコンがないと生活できない世の中になっている。高齢化社会になるので考えてほしい。

区役所の方の対応があまり親身ではないと思います。同じようなことを何度も聞かれたりしているとは思いますが、説明もわかりづらいですし、もう少し相手の立場になって考えて頂けたらと思います。お互い様だとは思いますが……。

何か困った時に役所等に相談しようにも平日の昼しか受付していない為、働きながらの利用が困難。また、ネット等でもサイトのURLが悪いので時間を使ってしまう。気軽に問い合わせられる時代に見合ったインターフェースが欲しい。

生活に困っている事は特にないのですが、自治体には多くのすばらしい取組があると思いますので区を超えて取組を共有する仕組みがもっとあると良いと思います。

【障害者に関すること】

子供に障害があるので、その対応がもっとスピーディーになるとありがたいです。情報収集が大変なので、障害児のいる家庭をピックアップしさまざまな案内などがもらえると区からサポートしてもらっている実感がわきます。

発達障害の支援サービスについて、希望者で待ちになっているケースが多いと思うので、充実化を図っていただけると助かる。

視覚障害者に対応した施設がない

【本アンケートに関すること】

アンケートに答えた人に対して、結果がいつも不明。Web 解答もできた方が、今後は良い。

【防災・防犯に関すること】

共同住宅に住んでいるが、交流がほとんどないので、災害時等の相互支援に不安。

マンション暮らしの高齢に災害時のマニュアルを徹底させる事。

【日常生活に関すること】

日常生活をする上で、手のふるえなどをフォローしてくれる代筆などのサービスを充実してほしい

【その他に関すること】

知らないと損することが多い。

げんざいはすこしせいかつよくなってきているなかではまえむきでがんばっています。
ほんとうにありがとうございます。